



WebReport 2.0

ダッシュボードエディタガイド

ごあいさつ

このたびは弊社製品 WebReport2.0 をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。

本製品は、基幹系や情報系のデータベースにある様々なデータを Web ブラウザーから簡単に照会できる汎用検索ツールです。

本書は、本製品の中の、ダッシュボードエディタ機能について記載しております。ご使用の際にお読みください。

なお、表示画面などは操作の一例として掲載しているものです。お客様のご使用環境によっては、画面に表示される内容が異なる場合がありますので、ご了承ください。

本書に記載されている機能は、「WebReport2.0」をご購入のお客様のみご使用いただけます。



「WebReport2.0 Express」をご使用のお客様は、別途ライセンスをご購入いただく必要があります。

版權 / ご注意

- ・ 本書に記載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
- ・ 本書の内容の一部または全部を無断で複写転載することを禁じます。
- ・ 本書に掲載の内容および製品の仕様などは、予告なく変更されることがあります。

本書の内容は万全を期して作成しておりますが、万一ご不明な点や誤り、記載もれ、乱丁、落丁などお気づきの点がございましたら、弊社までご連絡ください。

本書の表記方法について

	ハードウェアやソフトウェアの損害やエラーの発生を防止するために、必ず守っていただきたい情報を記載しています。
	特定のテーマに関する補足情報を記載しています。
メニュー、アイコン、ボタン、ウィンドウ、タブ	[] で囲んで表記します。 (例) [OK] ボタンをクリックします。
キーボード上のキー	< > で囲んで表記します。 (例) キーボードの < Tab > キーを押します。
参照先	章、節、項は『 』、見出しは「 」で囲んで表記します。 (例) 『第1章1 ダッシュボードエディタとは』(P1)を参照してください。

目次

ごあいさつ.....	i
著作権 / ご注意	i
本書の表記方法について	i
第 1 章 ダッシュボードエディタの概要.....	1
1 ダッシュボードエディタとは.....	2
2 主な特徴.....	3
2-1 ドリルダウン機能	3
2-2 リンク機能.....	4
2-3 豊富なグラフ、コンポーネント.....	5
2-5 ナビゲーション・バー機能.....	7
2-6 簡単な操作性.....	8
3 ダッシュボードエディタの画面構成.....	9
3-1 キャンパス.....	10
3-2 メニューバー.....	11
3-3 グラフ選択ウィンドウ	12
3-4 コンポーネント選択ウィンドウ.....	13
3-5 プロパティウィンドウ	14
4 基本的な操作方法.....	16
4-1 ダッシュボードエディタの起動.....	16
4-2 グラフ・コンポーネントの配置.....	19
4-3 データバインドの設定	24
4-4 プロパティの設定	29
4-5 ダッシュボード定義の保管	31
4-6 ダッシュボードエディタの終了.....	33
4-7 ダッシュボード定義の実行.....	33
第 2 章 グラフのデータバインド.....	35
1 グラフの種類とデータ取得方法	36
2 単一グラフ.....	39
2-1 標準表形式の場合	39
2-2 キューブデータの場合	41
3 複数グラフ.....	43
3-1 標準表形式の場合	43
3-2 クロス集計形式の場合	45
3-3 キューブデータの場合	47
4 複数（変形）グラフ	51
4-1 標準表形式の場合	51

4-2 クロス集計形式の場合	53
4-3 キューブデータの場合	55
5 混合グラフ	60
5-1 標準表形式の場合	61
5-2 キューブデータの場合	63
6 ゲージ	65
6-1 標準表形式の場合	67
6-2 クロス集計形式の場合	70
6-3 キューブデータの場合	72
7 表	74
7-1 標準表形式の場合	74
7-2 クロス集計形式の場合	76
7-3 キューブデータの場合	77
8 基準値の設定	79
9 グラフの変更	82
10 予測分析	84
10-1 使用方法	84
10-2 注意事項	85
第3章 コンポーネントによるデータの更新・検索・表示	88
1 コンポーネントの種類とデータ取得方法	89
2 データの更新と検索	91
2-1 ラジオボタンの場合	92
2-2 コンボボックスの場合	100
3 自動更新の設定	109
4 データの表示	112
5 入力値チェック	115
第4章 データのドリルダウンとリンク	119
1 ドリルダウンの設定	120
1-1 標準表形式の場合	120
1-2 クロス集計形式の場合	123
1-3 キューブデータの場合	128
2 リンクの設定	139
2-1 グラフの場合	139
2-2 コンポーネントの場合	142
3 ナビゲーション・バーの設定	150
付録 リファレンス	156
1 グラフのプロパティ	157
1-1 3D 円グラフ	158
1-2 3D 棒グラフ	159
1-3 2D 棒グラフ	160
1-4 2D 積上げグラフ	161

1-5 2D 横棒グラフ	162
1-6 2D 横棒積上げグラフ	163
1-7 折れ線グラフ	164
1-8 2D エリアグラフ	166
1-9 レーダーチャート	168
1-10 散布図	169
1-11 バブルチャート	170
1-12 棒・線グラフ	171
1-13 積上げ・線グラフ	173
1-14 3D 棒・線グラフ	175
1-15 ゲージ	176
1-16 スピードメーター	177
1-17 線ゲージ	178
1-18 球体	179
1-19 温度計	180
1-20 LED (縦)	181
1-21 LED (横)	182
2 コンポーネントのプロパティ	183
2-1 ラベル	184
2-2 チェックボックス	184
2-3 ラジオボタン	186
2-4 コンボボックス	187
2-5 ボタン	189
2-6 テキストインプット	190
2-7 スクエア	191
2-8 テキストエリア	191
2-9 表	192

第 1 章

ダッシュボードエディタ の概要

1 ダッシュボードエディタとは

ダッシュボードエディタとは、企業の経営者や管理者に必要な情報、および意思決定のための各種指標を、1つの画面に数値やグラフなどで表示するためのツールです。

以下のような特徴があります。

- ・ 経営層や事業部門長、部門リーダーといった各階層が必要な情報を提供できる
- ・ 現状把握し、将来予測、リスク回避等の経営活動に活かすことができる

ダッシュボードエディタでは、さまざまなグラフを複数配置し、それぞれのグラフに、本製品の照会定義で作成したレポート結果を反映させることができます。作成したグラフや表のレイアウト、データは、「ダッシュボード定義」として、他の照会定義と同じように保管し、本製品上に表示することができます。



ダッシュボード定義実行画面

複数のグラフや、スピードメーター等に、売上・粗利実績データや、販売管理費（経費）データを割り当てることで、売上分析表や部門損益表など、経営に活かせる表・グラフを作成できます。

2 主な特徴

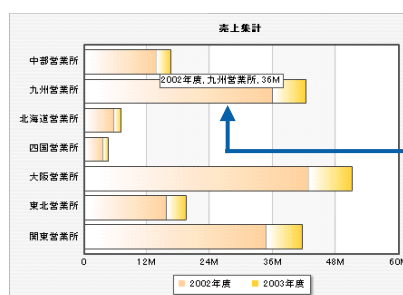
ここでは、ダッシュボードエディタの主な特徴について説明します。

2-1 ドリルダウン機能

ドリルダウンとは、グラフの X 軸や棒、アンカーマークなどをクリックしたときに、クリックした箇所の情報を、あらかじめ設定したキー項目で集計した結果を表示させる機能です。

売上データを営業所別から担当地区別、年度毎から四半期毎へとドリルダウンするなど、別の視点からデータを分析することができます。

ドリルダウンしたグラフは、画面を切り替えて表示することも、別のウィンドウに表示することもできます。



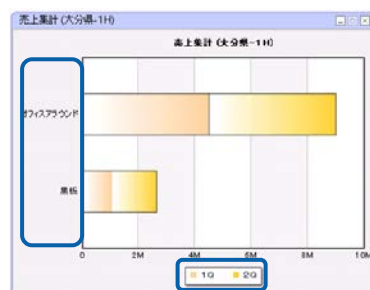
「九州営業所の 2002 年度」の棒部分をクリック

X 軸が「担当地区」、系列が「半期」に切り替わり「九州営業所における 2002 年度の売上」が表示される



さらに、「大分県の 1H (上半期)」の棒部分ををクリック

X 軸が「商品カテゴリ」、系列が「四半期」に切り替わり「大分県における 1H (上半期) の売上」が表示される



ドリルダウンの設定については、『第4章 1 ドリルダウンの設定』を参照してください。

2-2 リンク機能

リンクとは、グラフやコンポーネントをクリックしたときに、別の照会定義やダッシュボード定義のデータを表示させる機能です。リンク先の定義は、画面を切り替えて表示することも、別のウィンドウに表示することもできます。

リンク先の定義に@INPUT(@GET())の検索条件が設定されているときは、クリックした箇所のデータをリンク先の定義に引き渡して、データを絞り込んで表示することができます。

グラフにリンクを設定すると、グラフのX軸や棒、アンカーマーク、系列などをクリックしたときに、リンク先で指定した照会定義やダッシュボード定義を表示します。

リンク先の定義に検索条件が設定されているときは、クリックした箇所のデータで検索された結果が表示されます。

【標準】店舗管理

200 180 160 140 120 100 80 60 40 20 0

101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 201 202 203 204 205 206 301 302 303 304 401 402 403

店舗コード

153 62 48 198 88 202 82 90 52 170 195 256 92 88 160 150 160 84 80 32

棒数

リンク先定義

表示件数:9件(1~9件目/9件中)

店舗名	売上日	商品コード	商品名	数量
御茶ノ水店	20010814	101	ブレンドコーヒー	2756
御茶ノ水店	20010802	201	モカ	12
御茶ノ水店	20010814	202	ガテマラ	156
御茶ノ水店	20010814	203	コロビア	129
御茶ノ水店	20010806	205	マンデリン	7
御茶ノ水店	20010814	301	カフェ・オレ	420
御茶ノ水店	20010814	401	レモンティー	1405
御茶ノ水店	20010814	501	ココア	1021
御茶ノ水店	20010802	601	トースト	21

X軸「店舗コード」の「101」をクリック

リンク先の定義に基づいて、店舗コード 101(御茶ノ水店)のデータが表示される

コンポーネントにリンクを設定すると、コンポーネントを選択したときに、選択したコンポーネントに設定されているリンク先の定義を表示します。

売上の分析をしたい支店を選択してください。

東京

名古屋

大阪

売上分析

売上分析(名古屋)

売上高(円) 店舗数(店舗)

月

売上高(円) 店舗数(店舗)

月

名古屋の売上分析が表示される

「名古屋」を選択し、[売上分析] ボタンをクリック

コンポーネントの場合も、リンク先の定義に検索条件が設定されているときは、「値」のデータで検索された結果が表示されます。

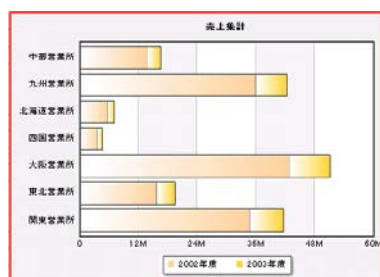
リンクの設定については、『第4章 2 リンクの設定』を参照してください。

2-3 豊富なグラフ、コンポーネント

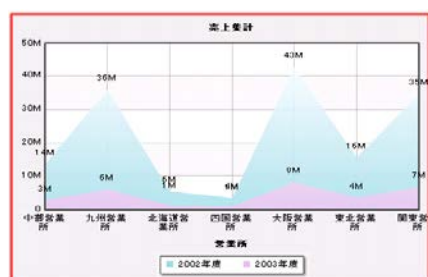
ダッシュボードエディタには、21種類のグラフが用意されており、標準表形式、クロス集計形式、キューブデータを最適な形でグラフ表示できます。

グラフは、グラフ選択ウィンドウに種類別で分類されているので、効率よく選択できます。

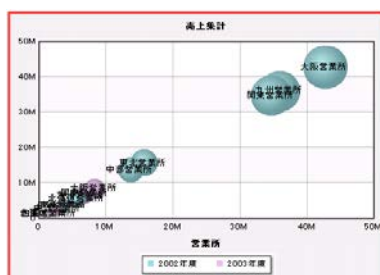
グラフ種類	グラフ名
単一グラフ	3D 円グラフ
複数（棒）グラフ	3D 棒グラフ
	2D 棒グラフ
	2D 積上げグラフ
	2D 横棒グラフ
	2D 横棒積上げグラフ
複数（線）グラフ	折れ線グラフ
	2D エリアグラフ
	レーダーチャート
複数（変形）グラフ	散布図
	バブルチャート
混合グラフ	棒・線グラフ
	積上げ・線グラフ
	3D 棒・線グラフ
ゲージ	ゲージ
	スピードメーター
	線ゲージ
	球体
	温度計
	LED（縦）
	LED（横）



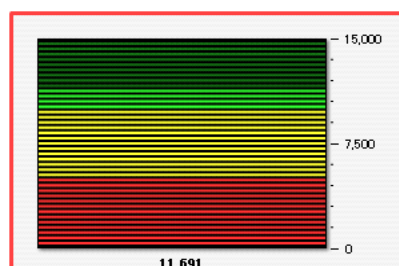
「2D 横棒積上げグラフ」



「2D エリアグラフ」



「バブルチャート」



「LED（縦）」

グラフのデータバインドについては、『第2章 グラフのデータバインド』を参照してください。


コンポーネントには、以下の9種類が用意されています。

- ・ ラベル (Label)
- ・ チェックボックス (CheckBox)
- ・ ラジオボタン (RadioButton)
- ・ コンボボックス (ComboBox)
- ・ ボタン (Button)
- ・ テキストインプット (TextInput)
- ・ スクエア (Square)
- ・ テキストエリア (TextArea)
- ・ 表 (DataGrid)

コンポーネントを使い分けることによって、さまざまな状況に対応できます。


たとえば、コンボボックスを利用すると、ドロップダウンリストにある複数の選択項目から目的の値を1つ選択して、データを更新したり、リンク先の定義を表示することができます。

コンボボックスの [] ボタンをクリックし、ドロップダウンリストから店舗名を選択



選択した店舗の商品別売上数量が表示される

表を利用すると、ダッシュボード上に配置されているグラフのデータを表示したり、表に照会定義をバインドしてデータを表形式で表示することができます。



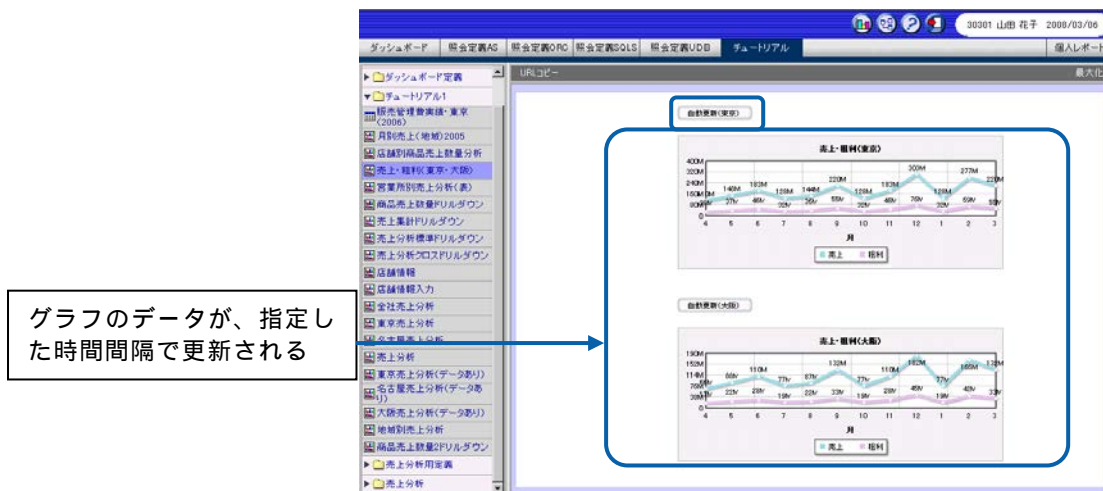
グラフにバインドされているデータを表示

各コンポーネントの詳細については、『付録 2 コンポーネントのプロパティ』を参照してください。

2-4 グラフデータの自動更新機能

コンポーネントの「ボタン」に自動更新の機能を設定すると、ダッシュボード上に配置したグラフのデータを指定した時間間隔で自動的に更新することができます。

ボタンをクリックしなくても、自動的にデータを更新することができるので、常に最新のデータをグラフに表示することができます。



グラフデータの自動更新機能については、『第3章3 自動更新の設定』を参照してください。

2-5 ナビゲーション・バー機能

ナビゲーション・バーとは、ラジオボタンやチェックボックス、コンボボックスなどを組み合わせてキャンパスの上部に複数配置し、これらの組み合わせによって、リンク先のダッシュボード定義を切り替えて表示する機能です。

コンポーネントを選択するだけでリンク先の定義を切り替えて表示できるので、効率よくデータの分析が行えます。

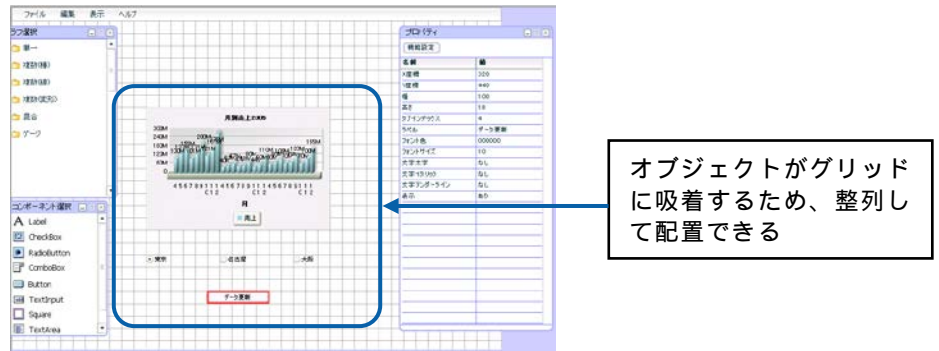


ナビゲーション・バーの設定については、『第4章3 ナビゲーション・バーの設定』を参照してください。

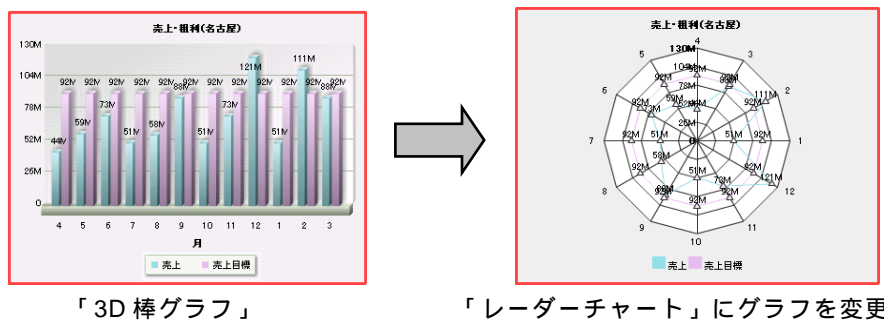
2-6 簡単な操作性

ダッシュボードエディタには、操作を効率よく行うためのさまざまな機能が用意されています。

- ・ キャンバス上のグリッドに合わせて、グラフやコンポーネントを配置することができます。



- ・ グラフやコンポーネントをコピーし、別の場所に貼り付けて利用できます。このとき、グラフやコンポーネントにバインドされている照会定義やプロパティもコピーされます。
- ・ データバインドしたグラフの種類を変更することができます。このとき、グラフにバインドされているデータもそのまま変更後のグラフに引き継がれます。また、キャプションやグラフのサイズなども引き継がれます。



- ・ コンポーネントが複数配置されたダッシュボード定義を実行したときに、コンポーネントのフォーカスを <Tab> キーで移動することができます。

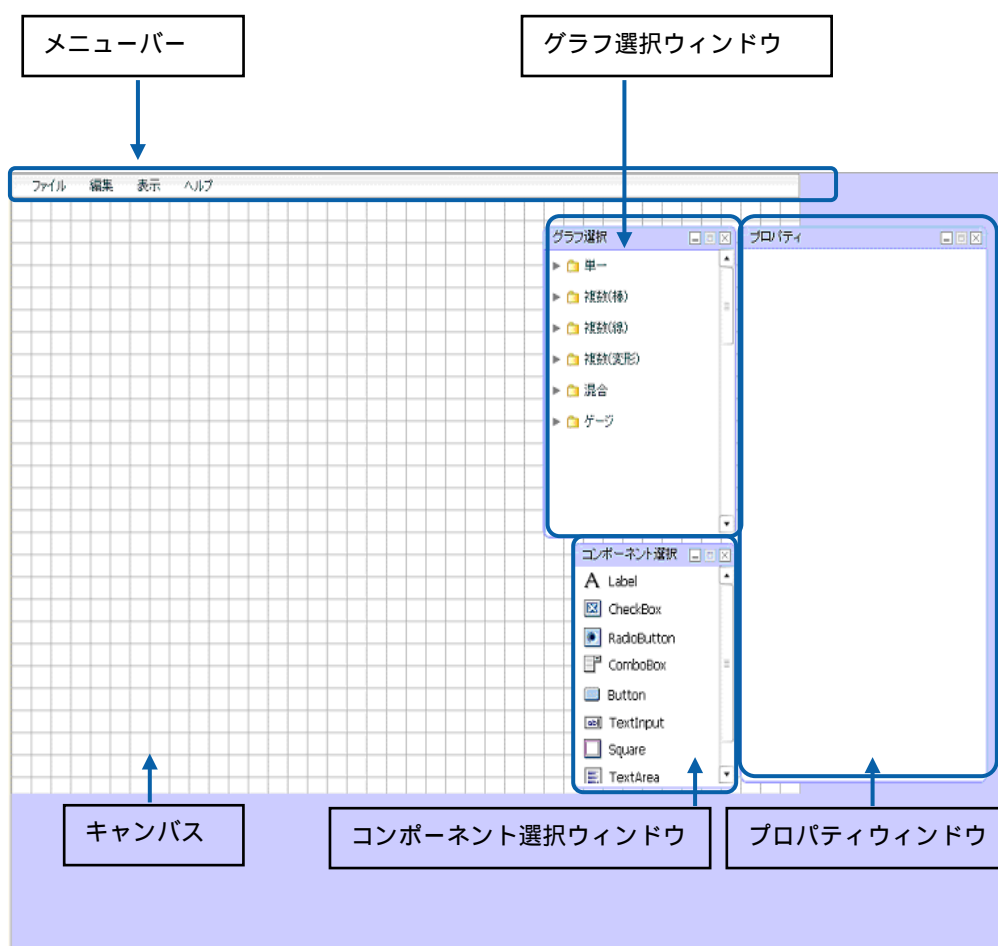


<Tab> キーでフォーカスを移動する順序は、ダッシュボードエディタで設定できます。各コンポーネントのプロパティウィンドウの [タブインデックス] で設定します。

3 ダッシュボードエディタの画面構成

ここでは、ダッシュボードエディタの画面構成について説明します。

ダッシュボードエディタを起動すると、以下のような画面が表示されます。



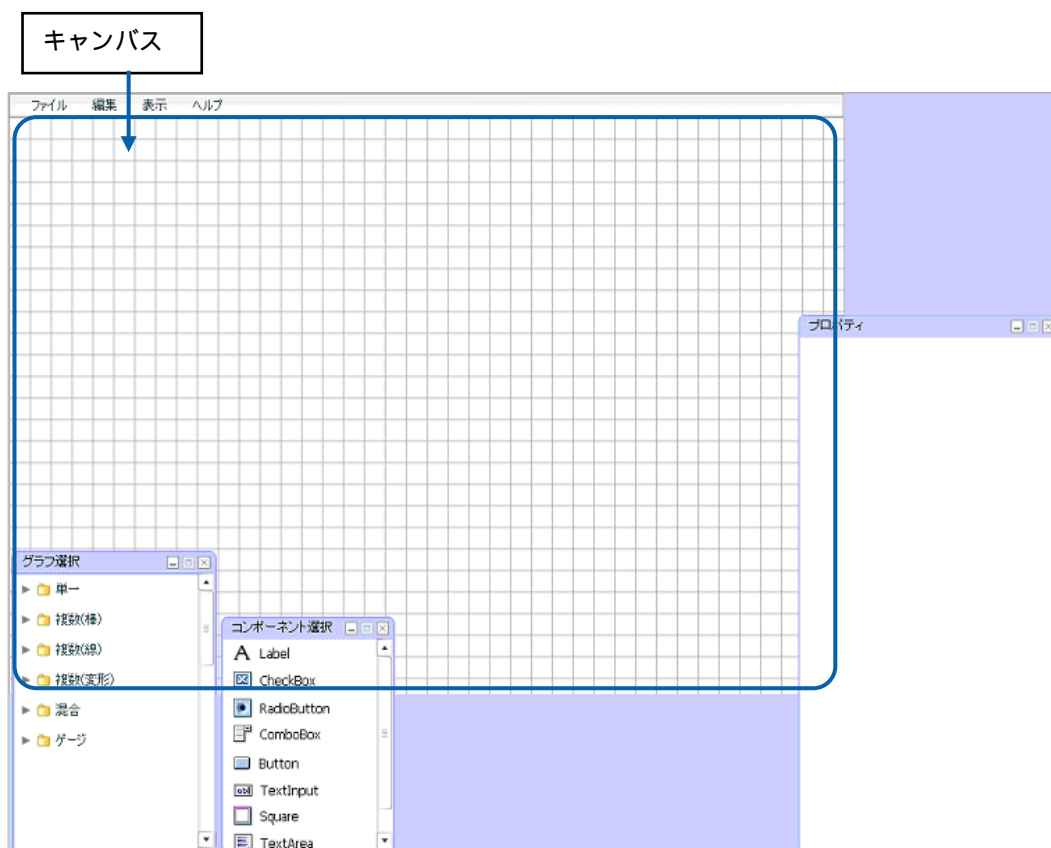
プロパティウィンドウのプロパティは、グラフやコンポーネントを選択すると表示されます。

3-1 キャンバス

背景が白く、青い線で囲まれた部分を「キャンバス」といいます。

このキャンバスの上に、グラフやコンポーネントを配置します。

初期設定では、グリッドが表示されており、グリッドに合わせてグラフやコンポーネントを配置できます。



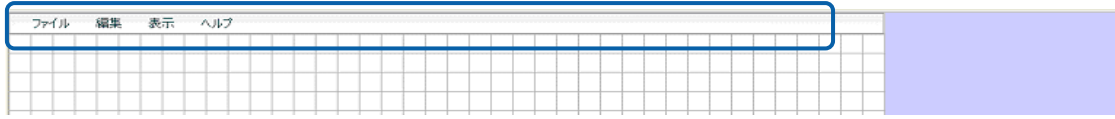
- ・ キャンバスの外（青い背景の部分）にグラフやコンポーネントを配置することはできません。
- ・ 「グラフ選択ウィンドウ」、「コンポーネント選択ウィンドウ」、「プロパティウィンドウ」はキャンバスの外に自由に移動できます。



グリッドは、非表示にすることができます。[表示]メニューの[グリッド表示切り替え]を選択すると、グリッドが非表示になります。また、グリッドのサイズを変更することもできます。グリッドのサイズ変更については、『第1章 4-2 グラフ・コンポーネントの配置』の「グリッドのサイズ変更」を参照してください。

3-2 メニューバー

ダッシュボードエディタの機能を選択するための部分を「メニューバー」といいます。



ダッシュボードエディタの上部に表示され、以下の4つの機能があります。

- ・ [ファイル]メニュー

ダッシュボード定義やナビゲーション・バー定義の保管、読み込みを行います。

- ・ [編集]メニュー

キャンバス上に配置したグラフやコンポーネントを削除、コピーします。

- ・ [表示]メニュー

各ウィンドウの表示や、グリッド表示の切り替えを設定します。

- ・ [ヘルプ]メニュー

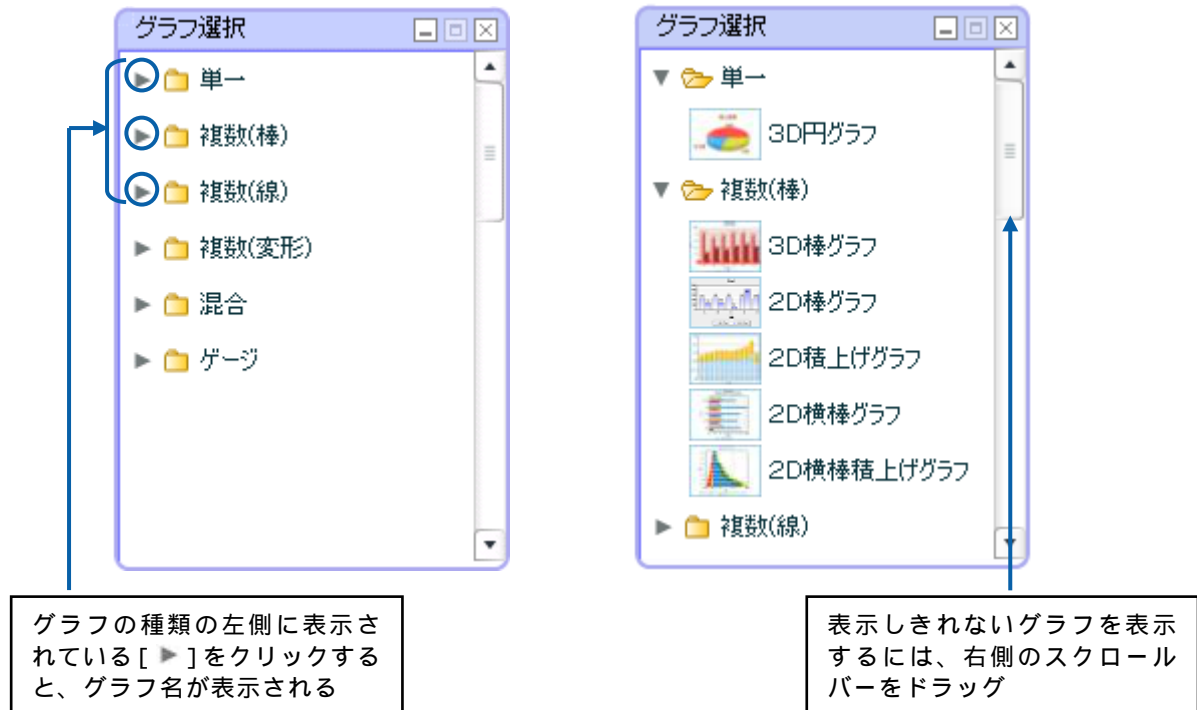
ダッシュボードエディタのバージョン情報を表示します。

キャンバス上で右クリックし、表示される右クリックコンテキストメニューで、[メニュー非表示]を選択すると、メニューバーを非表示にすることができます。

再度、メニューバーを表示するには、キャンバス上で右クリックし、右クリックコンテキストメニューで、[メニュー表示]を選択します。

3-3 グラフ選択ウィンドウ

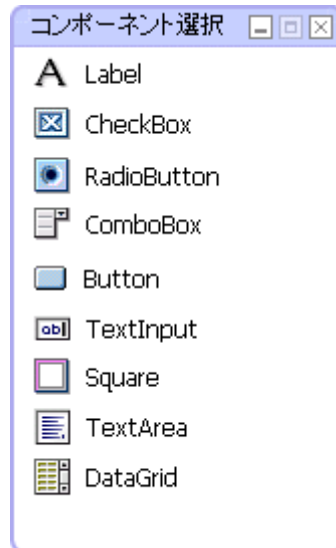
グラフ選択ウィンドウには、ダッシュボードエディタで使える 20 種類のグラフが表示されています。グラフ選択ウィンドウからグラフを 1 つ選択し、キャンバス上にドラッグ&ドロップして配置します。



- ・ グラフ選択ウィンドウは、ダッシュボードエディタ内を自由に移動させることができます。
- ・ グラフ選択ウィンドウは、[×] ボタンで閉じ、[_] ボタンで最小化します。
- ・ [表示]メニューから、[グラフ選択ウィンドウ]を選択すると、[×] ボタンで閉じたグラフ選択ウィンドウを表示することができます。

3-4 コンポーネント選択ウィンドウ

コンポーネント選択ウィンドウには、ダッシュボードエディタで使用できる 9 種類のコンポーネントが表示されています。コンポーネント選択ウィンドウからコンポーネントを 1 つ選択し、キャンバス上にドラッグ&ドロップして配置します。



- ・ コンポーネント選択ウィンドウは、ダッシュボードエディタ内を自由に移動させることができます。
- ・ コンポーネント選択ウィンドウは、[×] ボタンで閉じ、[_] ボタンで最小化します。
- ・ [表示] メニューから、[コンポーネント選択ウィンドウ] を選択すると、[×] ボタンで閉じたコンポーネント選択ウィンドウを表示することができます。

3-5 プロパティウィンドウ

グラフやコンポーネントが選択されると、プロパティウィンドウの内容が変化します。

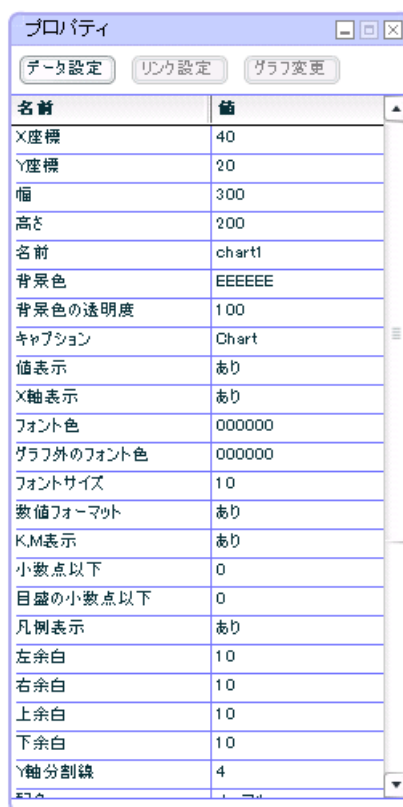
プロパティウィンドウでは、グラフやコンポーネントの色や、大きさなどのプロパティを設定します。

- ・ プロパティウィンドウは、ダッシュボードエディタ内を自由に移動させることができます。
- ・ プロパティウィンドウは、[×] ボタンで閉じ、[_] ボタンで最小化します。
- ・ [表示] メニューから、[プロパティウィンドウ] を選択すると、[×] ボタンで閉じたプロパティウィンドウを表示することができます。

グラフのプロパティウィンドウ

キャンバス上でグラフを選択すると、グラフ用のプロパティウィンドウに変化します。

グラフの場合は、プロパティウィンドウの上部に照会定義を選択するための[データ設定] ボタン、リンクやドリルダウンを設定するための[リンク設定] ボタン、グラフの種類を変更するための[グラフ変更] ボタンが表示されます。



「3D 棒グラフ」のプロパティウィンドウ



設定できるプロパティの種類はグラフにより異なります。
各グラフのプロパティについては、『付録 1 グラフのプロパティ』を参照してください。

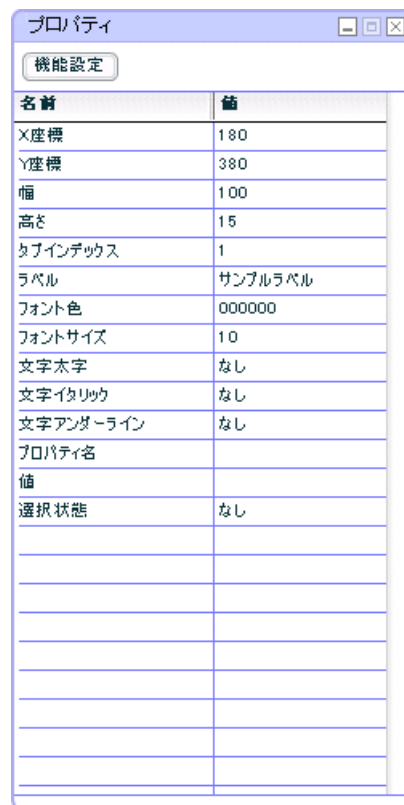
コンポーネントのプロパティウィンドウ

キャンバス上でコンポーネントを選択すると、コンポーネント用のプロパティウィンドウに変化します。

コンポーネントの場合は、プロパティウィンドウの上部にグラフのデータを更新したり、リンクを設定するための [機能設定] ボタン、またはリンクを設定するための [リンク設定] ボタン、または表にデータをバインドするための [データ設定] ボタンなどが表示されます。



プロパティウィンドウに配置されるボタンは、コンポーネントによって異なります。また、ボタンの配置されないコンポーネントもあります。各コンポーネントのプロパティウィンドウに配置されるボタンについては、『付録 2 コンポーネントのプロパティ』を参照してください。



「ラジオボタン」のプロパティウィンドウ



設定できるプロパティの種類はコンポーネントにより異なります。各コンポーネントのプロパティについては、『付録 2 コンポーネントのプロパティ』を参照してください。

4 基本的な操作方法

ここでは、ダッシュボードエディタの基本的な操作方法について説明します。

4-1 ダッシュボードエディタの起動

ダッシュボードエディタを起動するには、以下の手順で行います。

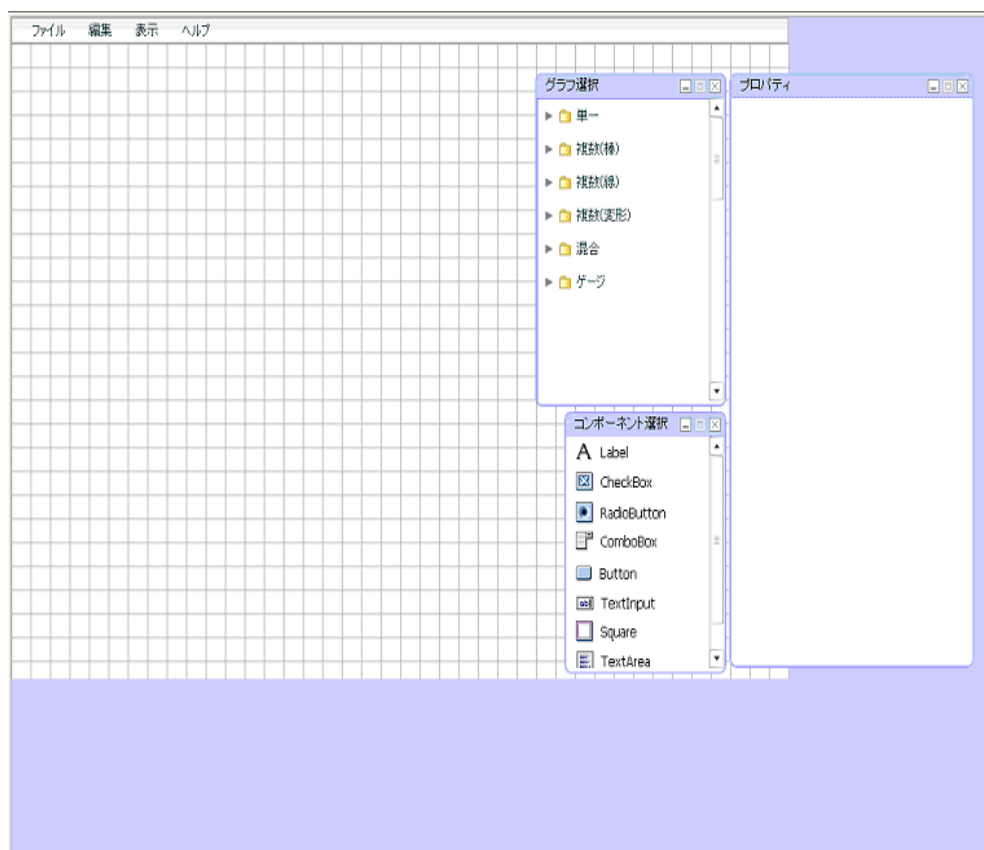
1. 本製品にログインします。

ログインの方法については、本製品の『ユーザーズマニュアル』を参照してください。

2. ダッシュボードエディタボタンをクリックします。



ダッシュボードエディタが起動します。



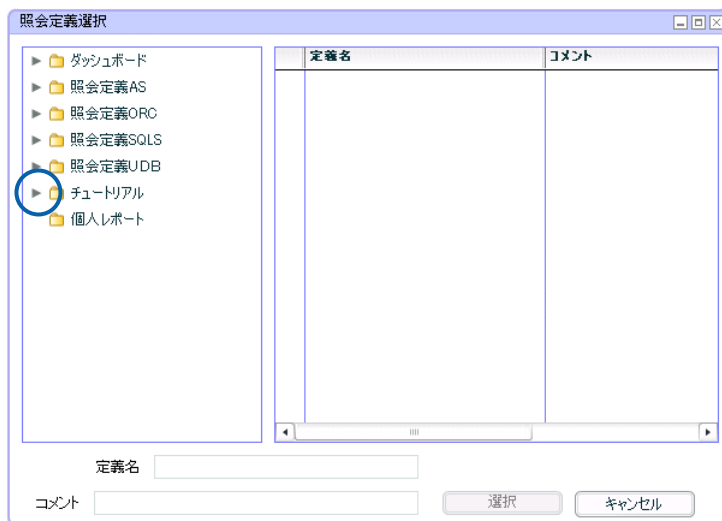
保管されているダッシュボード定義を編集する場合には、ダッシュボード定義を開きます。

3. [ファイル]メニューの[開く]を選択します。

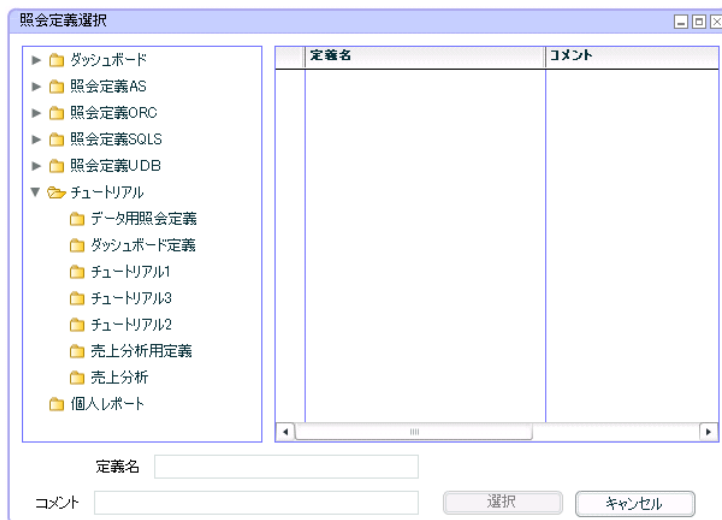


[照会定義選択]ダイアログが表示されます。

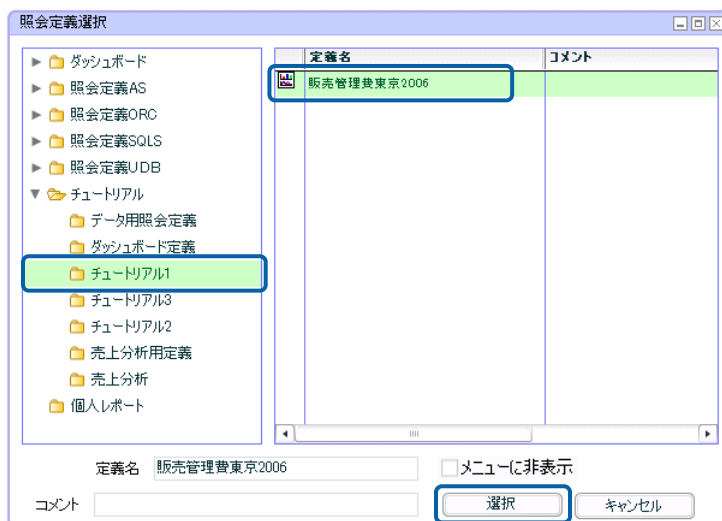
4. 左側のメニューの[▶]をクリックします。



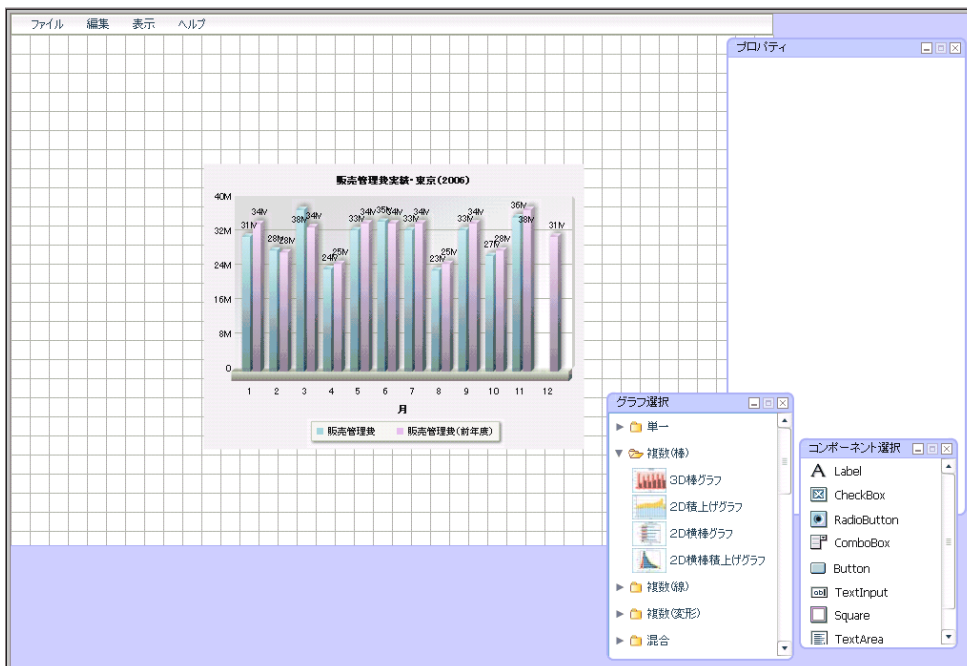
フォルダが展開されます。



5. 目的のフォルダを選択し、一覧から定義を選択して、[選択] ボタンをクリックします。



選択されたダッシュボード定義がキャンバス上に表示されます。



4-2 グラフ・コンポーネントの配置

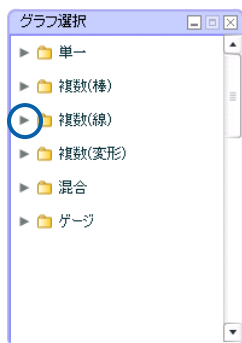
ダッシュボード定義を作成するには、まず、キャンバス上にグラフやコンポーネントを配置します。

グラフの配置

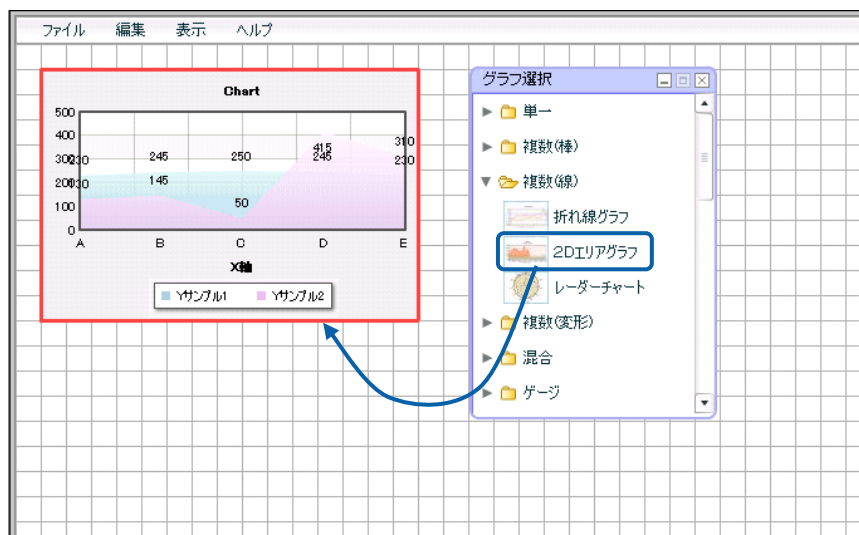
グラフの配置は、以下の手順で行います。

ここでは、「複数（線）」の「2D エリアグラフ」を配置します。

1. グラフ選択ウィンドウでグラフの種類に左側に表示されている [▶] をクリックします。



2. 目的のグラフを選択し、キャンバス上にドラッグ&ドロップします。



グラフが配置されます。

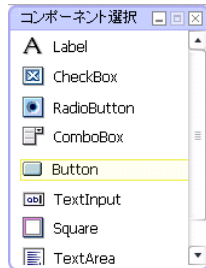
グリッドが表示されているときは、グリッドに合わせてグラフが配置されます。

コンポーネントの配置

コンポーネントの配置は、以下の手順で行います。

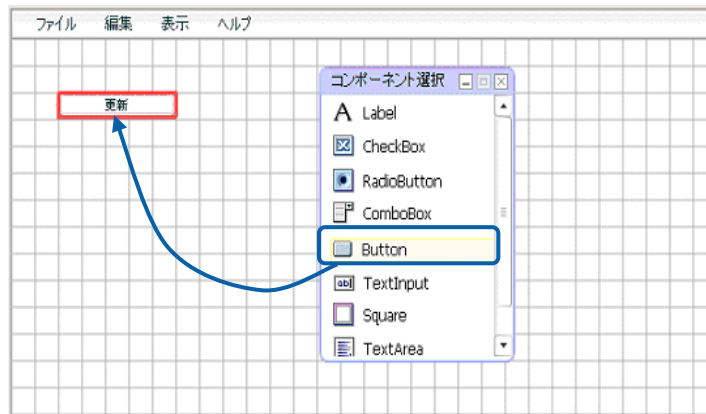
ここでは、「Button」（ボタン）を配置します。

1. コンポーネント選択ウィンドウで目的のコンポーネントをクリックします。



コンポーネント選択ウィンドウのコンポーネントにカーソルを合わせると、選択されているコンポーネントがハイライト表示されます。

2. 選択したコンポーネントをキャンバス上にドラッグ&ドロップします。



コンポーネントが配置されます。

グリッドが表示されているときは、グリッドに合わせてコンポーネントが配置されます。



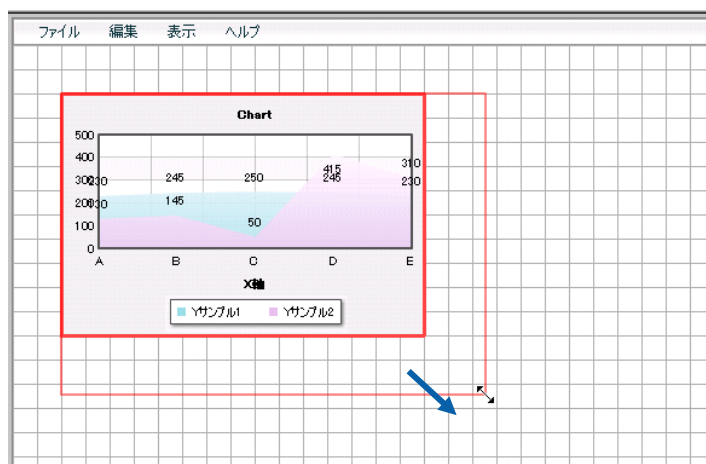
キャンバス上のグラフやオブジェクトを削除し、新しくダッシュボード定義を作成したい場合は、[ファイル]メニューの[新規作成] - [ダッシュボード定義]を選択します。画面に新しく、白紙のキャンバスが表示されます。

オブジェクトの移動

オブジェクトをクリックして選択し、赤いボーダーラインの内側にマウスポインタを置いてドラッグして移動します。

オブジェクトのサイズ変更

オブジェクトをクリックして選択し、赤いボーダーラインの四辺または四隅をドラッグして、サイズを変更します。



サイズの変更は、プロパティウィンドウからも行うことができます。

オブジェクトの削除

グラフやコンポーネントの上で右クリックし、右クリックコンテキストメニューから [削除] を選択します。



オブジェクトの削除は、[編集] メニューの [選択中のオブジェクトを削除] を選択しても、操作できます。

オブジェクトのコピー

オブジェクトのコピーは、以下の手順で行います。

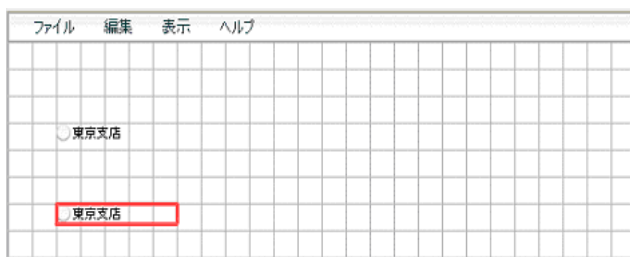
1. グラフやコンポーネントの上で右クリックし、右クリックコンテキストメニューから[コピー]を選択します。



2. キャンバス上のオブジェクトを貼り付けたい位置で右クリックし、右クリックコンテキストメニューから[貼り付け]を選択します。



コピーしたオブジェクトがキャンバスに配置されます。



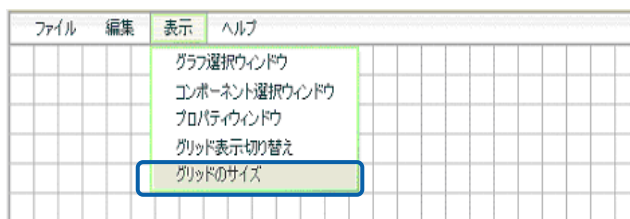
オブジェクトのコピーは、[編集]メニューの[選択中のオブジェクトをコピー]を選択し、次に[編集]メニューの[オブジェクトを貼り付け]を選択しても、操作できます。

また、<Ctrl>キーを押しながら<C>キーを押し、次に<Ctrl>キーを押しながら<V>キーを押してもコピーすることができます。

グリッドのサイズ変更

グリッドのサイズ変更は、以下の手順で行います。

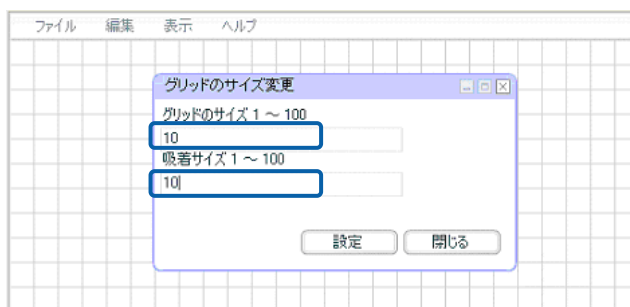
1. [表示]メニューの[グリッドのサイズ]を選択します。



[グリッドのサイズ変更]ダイアログが表示されます。初期設定では、[グリッドのサイズ]が「20」、[吸着サイズ]が「20」に設定されています。

2. [グリッドのサイズ]と[吸着サイズ]に数値を入力します。

ここでは、[グリッドのサイズ]に「10」、[吸着サイズ]に「10」と入力します。

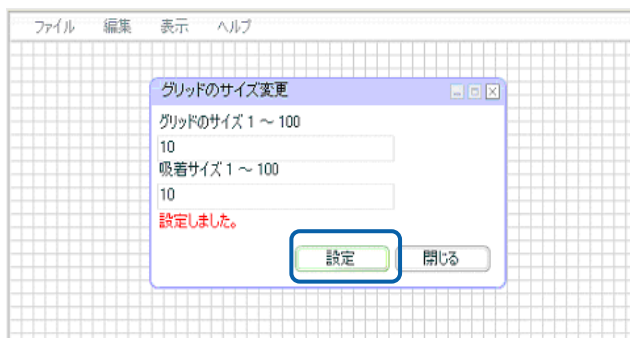


グリッドのサイズは値が大きいほど、グリッドの間隔が広がります。吸着サイズは、オブジェクトが吸着する間隔です。したがって、[グリッドのサイズ]と[吸着サイズ]に同じ数値を指定すると、グリッドに合わせてオブジェクトを配置できます。

グリッドに吸着させたくない場合は、[吸着サイズ]に「1」と入力します。

3. [設定]ボタンをクリックします。

グリッドのサイズが変更されます。



グリッドは、[表示]メニューの[グリッド表示切り替え]を選択すると、表示/非表示を切り替えることができます。

4-3 データバインドの設定

ダッシュボードエディタでは、配置したグラフごとに、標準表形式やクロス集計形式、キューブデータの照会定義をデータとして割り当てることができます。

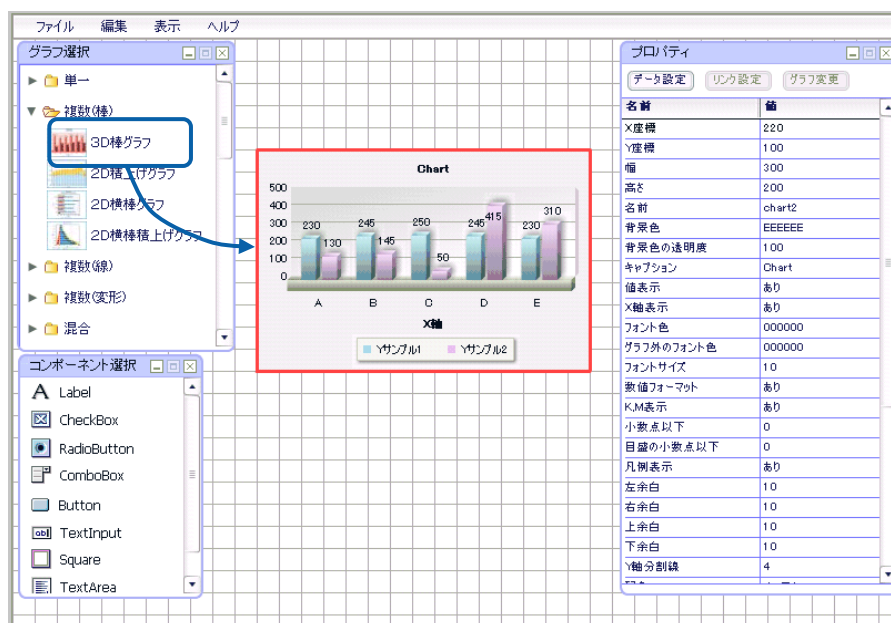
照会定義のデータをグラフに割り当ててを「データバインド」と呼びます。

ここでは、「3D棒グラフ」に「標準表形式」の照会定義をバインドする場合を例に、データバインドの基本的な操作手順を説明します。



データバインドの方法は、グラフの種類によって異なります。グラフ別のデータバインドの方法については、『第2章 グラフのデータバインド』を参照してください。

1. グラフ選択ウィンドウで[複数(棒)]にある[3D棒グラフ]を選択し、ドラッグ&ドロップしてキャンパスの中央に配置します。



2. プロパティウィンドウ上部の[データ設定]ボタンをクリックします。



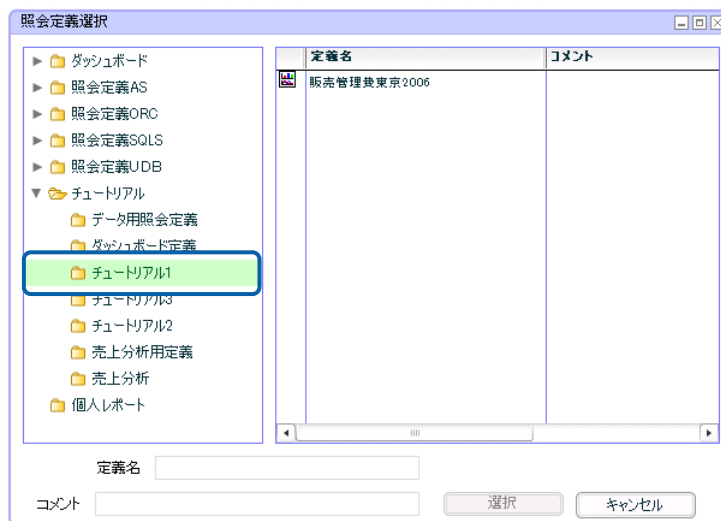
[データバインド]ダイアログが表示されます。

3. [定義選択]の[選択]ボタンをクリックします。



[照会定義選択]ダイアログが表示されます。

4. 使用したい照会定義のあるメニューの[▶]をクリックし、展開してフォルダを選択します。



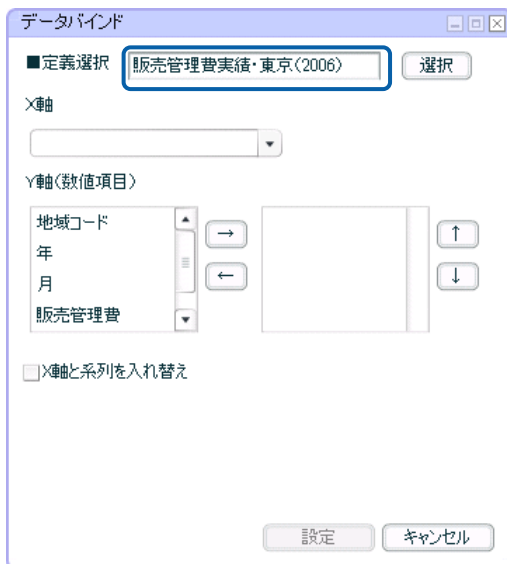
5. 一覧で使用したい照会定義を選択し、[定義名] に選択した照会定義名が表示されたことを確認して、[選択] ボタンをクリックします。

ここでは、「販売管理費実績・東京(2006)」を選択します。

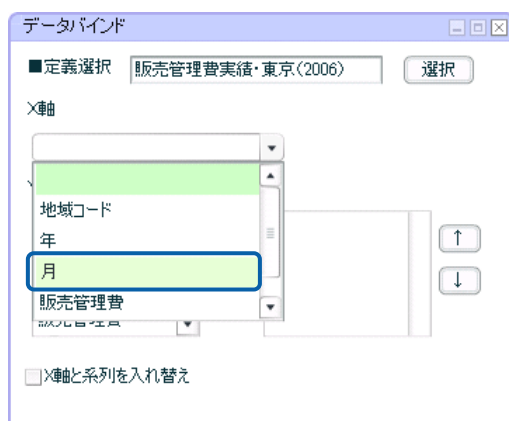


[データバインド] ダイアログの [定義選択] に選択した定義名が表示され、グラフの X 軸と Y 軸が選択できる形に変化します。

ここでは、[X 軸]、[Y 軸 (数値項目)] という項目が表示されます。



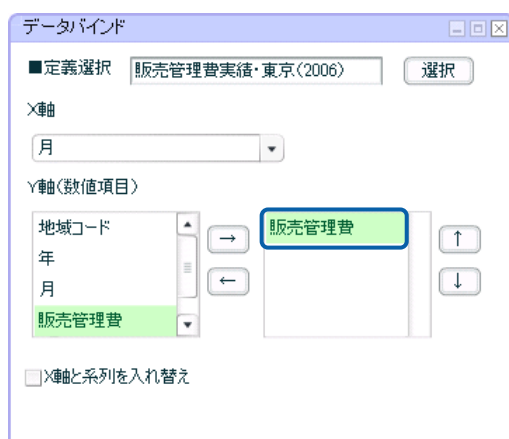
6. [X軸] の [] ボタンをクリックし、ドロップダウンリストから「月」を選択します。



7. [Y軸 (数値項目)] の左側のリストにある「販売管理費」を選択し、[] ボタンをクリックします。



「販売管理費」が右側のリストに追加されます。

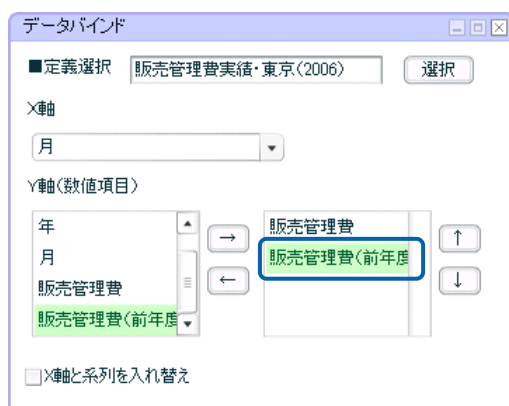


間違った項目を選択した場合には、項目を選択し、[] ボタンをクリックすると、選択した項目を解除することができます。

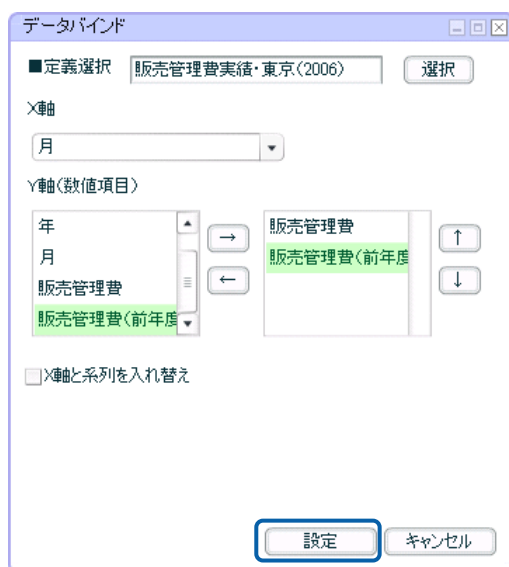


右側のリストの[] ボタン、[] ボタンをクリックし、リストの表示順を入れ替えると、グラフに表示するデータの表示順を変更することができます。

8. 同様に、「販売管理費（前年度）」を右側のリストに追加します。

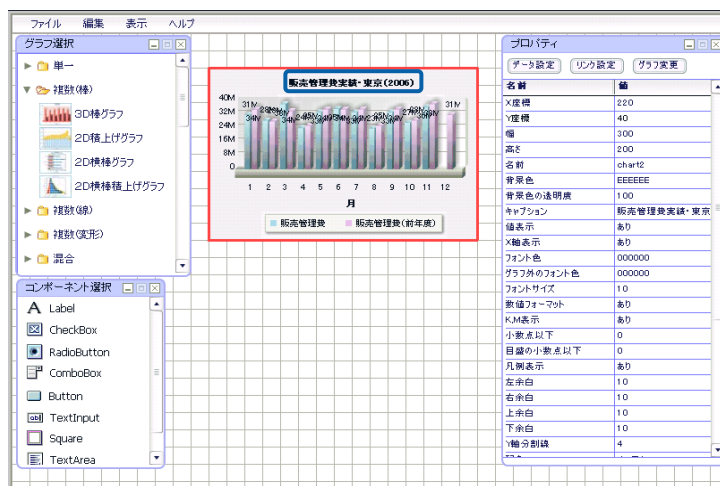


9. リストに2つ項目があることを確認し、[設定] ボタンをクリックします。



照会定義のデータがグラフに割り当てられます。

バインドした照会定義の名前がグラフのキャプションになります。



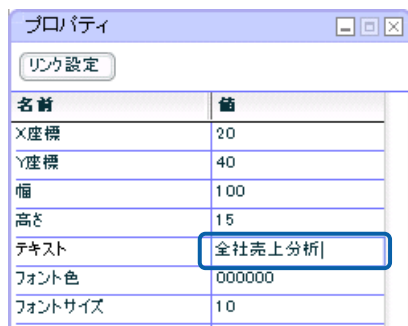
4-4 プロパティの設定

グラフやコンポーネントのプロパティは、プロパティウィンドウで設定します。

設定方法は、入力するプロパティの値によって異なります。以下のような方法があります。

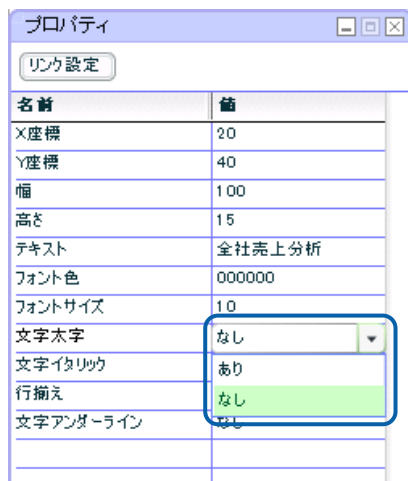
- ・ 数値や文字列を入力する場合

[値] 欄をクリックし、数値や文字列を入力して、< Enter > キーを押します。



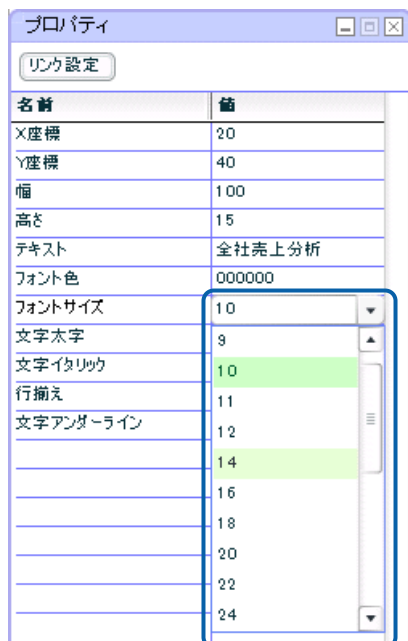
- ・ 「あり」または「なし」をドロップダウンリストから選択する場合

[値] 欄をクリックし、ドロップダウンリストから「あり」または「なし」を選択します。



- ・ 数値をドロップダウンリストから選択する場合

[値] 欄をクリックし、ドロップダウンリストから数値を選択します。



- ・ 色をカラーチャートから選択する場合

[値] 欄をクリックし、カラーチャートで目的の色を選択します。



- ・ ダイアログを表示して設定する場合

[値] 欄をクリックすると、ダイアログが表示されます。

ダイアログで必要な設定を行います。

ダイアログで設定するプロパティには、グラフの [基準値設定] (『第2章 8 基準値の設定』参照) があります。

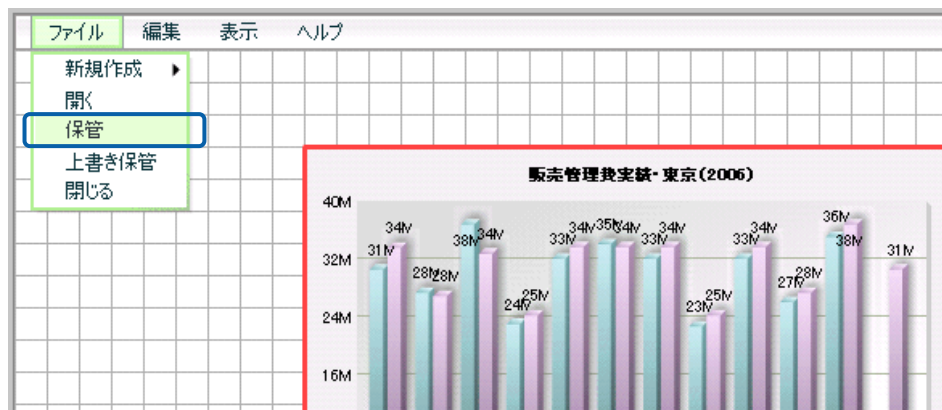
4-5 ダッシュボード定義の保管

ダッシュボードの作成が完了したら、配置したグラフやコンポーネントを「ダッシュボード定義」として保管します。

保管した定義は、他の照会定義と同じように、Web 実行画面で実行できるようになります。

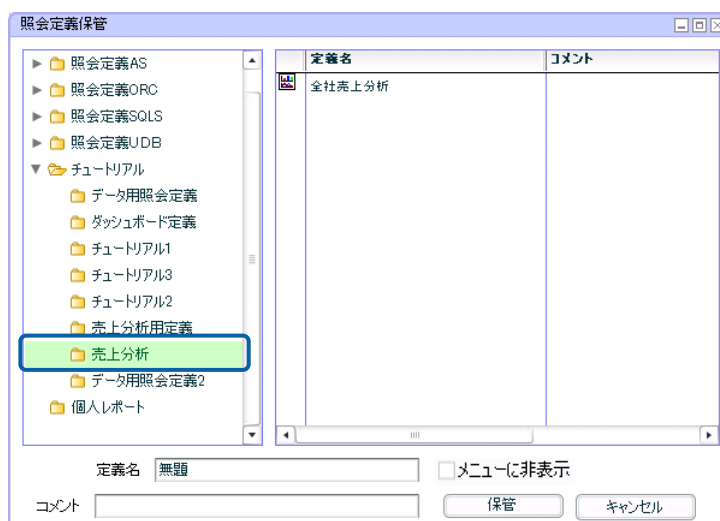
新しく作成したダッシュボード定義に名前を付けて保管するには、以下の手順で行います。

1. [ファイル]メニューの[保管]を選択します。

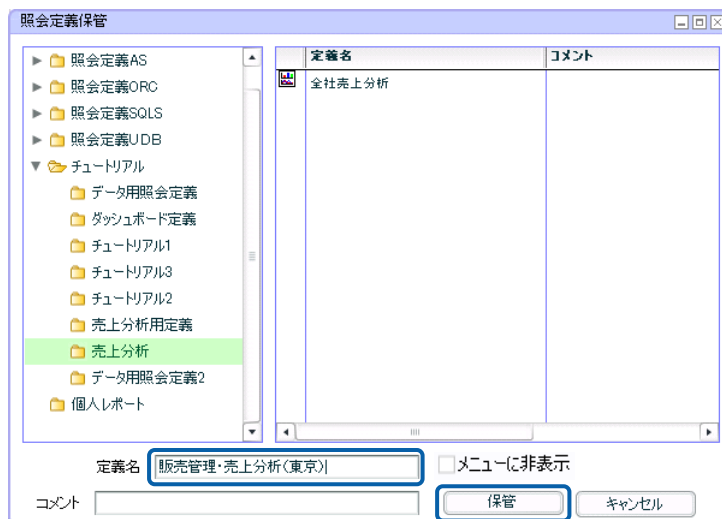


[照会定義保管]ダイアログが表示されます。

2. 保管先にしたいメニューの[▶]をクリックし、フォルダを展開して保管先にしたいフォルダを選択します。



3. [定義名] にダッシュボード定義に付ける名前を入力し、[保管] ボタンをクリックします。



保管が完了します。

保管に失敗した場合には、エラーメッセージが表示されます。

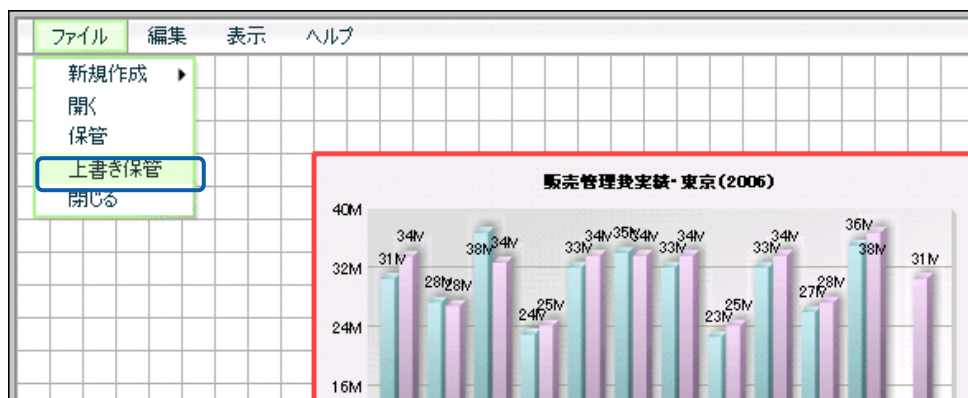
[メニューに非表示]にチェックを入れて保管した場合は、保管した定義は照会定義メニューに表示されません。

上書き保管

既に作成済みの定義を更新して保管する場合には、「上書き保管」します。既に保管した定義のみ実行可能です。

上書き保管するには、以下の手順で行います。

1. [ファイル]メニューの[上書き保管]を選択します。



確認のダイアログが表示されます。

[OK] ボタンをクリックします。

4-6 ダッシュボードエディタの終了

作業が終了したら、ダッシュボードエディタを終了します。

ダッシュボードエディタを終了するには、以下の手順で行います。

1. [ファイル]メニューの[閉じる]を選択します。



確認ダイアログが表示されます。

2. 保管する場合は[はい]ボタン、そのまま終了する場合は[いいえ]ボタン、終了をキャンセルする場合は[キャンセル]ボタンを選択します。

4-7 ダッシュボード定義の実行

保管したダッシュボード定義は、他の照会定義と同様に、Web 実行画面から実行します。

ダッシュボード定義を実行するには、Web 実行画面の照会定義メニューでダッシュボード定義を選択します。



Adobe Flash Player について

ダッシュボードエディタを使用したりダッシュボード定義を実行するためには、ご使用の Windows クライアントマシンに、Adobe Flash Player9 以上をインストールする必要があります。

【実行する Windows クライアントに Adobe Flash Player がインストールされていない場合】

Adobe Flash Player が自動的にダウンロード・インストールされます。

この際、セキュリティ設定によっては、以下のようなセキュリティ警告のダイアログが表示されることがあります。この場合は [インストールする] ボタンをクリックし、インストールしてください。



【実行する Windows クライアントに Adobe Flash Player がすでにインストールされている場合】

最新版のご利用をお勧めします。

以下のリンク先ページで最新版を確認し、ダウンロードしてください。

- ・ 最新版の確認

http://www.adobe.com/jp/support/flashplayer/ts/documents/tn_15507.htm

(2007/9/10 現在、最新のバージョンは、9,0,47,0 です。)

- ・ ダウンロード用サイト

http://www.adobe.com/shockwave/download/?P1_Prod_Version=ShockwaveFlash&Lang=Japanese

第 2 章

グラフのデータバインド

1 グラフの種類とデータ取得方法

この章では、グラフの種類別に、データバインドの方法を説明します。

グラフの種類によって、軸の数や、データを取得すべき数などが異なるため、設定方法が異なります。また、バインドできる定義もそれぞれ異なります。

グラフにバインドできる定義には、「標準表形式」、「クロス集計形式」、「キューブデータ」があります。

・ 標準表形式

標準表形式とは、照会定義の結果をレコード単位で読み込み、そのまま表形式で表示した定義です。

列と行からなる表形式で管理されており、列方向に複数の項目名が、1行に1件分のデータが表示されています。

	月売上	売上(前年度)	粗利	粗利(前年度)
4	220000000.000	200040000.000	55000000.000	50000000.000
5	294300000.000	266600800.000	73400000.000	66604000.000
6	366600000.000	321709090.000	91600000.000	80455000.000
7	256600000.000	217800000.000	64200000.000	54450000.000

・ クロス集計形式

クロス集計形式とは、設定した行キーと列キーによって集計値を配置し、クロス集計の形式で表示した定義です。

行方向と列方向の両方に、行キーと列キーで設定された項目名が配置され、それぞれがクロスする位置に集計値が表示されています。

列キー	地域名	名古屋	大阪	東京
行キー	年	売上	売上	売上
	2005	553640700.000	843800000.000	1383219190.000
	2006	738600000.000	1087900000.000	1877000000.000

- ・ キューブデータ

キューブデータとは、さまざまな角度から分析を行うために、複数の次元を設定し、次元の組み合わせによって集計分析を行う定義です。

分析を行う項目を設定した「分析次元」と、数値の項目を設定した「数値次元」で構成されており、次元を展開し、それぞれのレベルでの集計値を表示することができます。

				年度
営業所	商品カテゴリ	数量	11,691	

展開されていないキューブデータ

ダッシュボードエディタでは、分析定義の展開の形により、「標準表」タイプと「クロス集計」タイプに分類しています。

展開されていない定義の場合は、どちらかを選択してグラフにバインドします。

- ・ 「標準表」タイプ

列エッジ、行エッジのどちらかが数値次元のみで展開された形

	商品カテゴリ	営業所		
		2002年度	2003年度	年度
数量		9,505	2,186	11,691
売上金額		151,931,463	30,373,177	182,304,640
粗利益		65,346,747	13,235,506	78,582,253

行エッジ：数値次元

列エッジ：分析次元

- ・ 「クロス集計」タイプ

列エッジ、行エッジのどちらにも数値次元以外の次元が位置する形

	商品カテゴリ	数量		
		2002年度	2003年度	年度
中部営業所		1,695	300	1,995
九州営業所		2,308	507	2,815
北海道営業所		254	308	562
四国営業所		720	203	923
大阪営業所		1,464	270	1,734
東北営業所		839	176	1,015
関東営業所		2,225	422	2,647
営業所		9,505	2,186	11,691

行エッジ：分析次元

列エッジ：分析次元

バインドできる照会定義はグラフの種類によって、以下のようになります。
また、表に照会定義をバインドして表形式で表示することもできます。

グラフ		照会定義			
グラフ種類	グラフ名	標準表	クロス集計	フォーム	キューブ
単一グラフ	3D 円グラフ		×	-	
複数グラフ	3D 棒グラフ			-	
	2D 棒グラフ			-	
	2D 積上げグラフ			-	
	2D 横棒グラフ			-	
	2D 横棒積上げグラフ			-	
	折れ線グラフ			-	
	2D エリアグラフ			-	
	レーダーチャート			-	
	複数(変形)グラフ	散布図			-
バブルチャート				-	
混合グラフ	棒・線グラフ		×	-	
	積上げ・線グラフ		×	-	
	3D 棒・線グラフ		×	-	
ゲージ	ゲージ			-	
	スピードメーター			-	
	線ゲージ			-	
	球体			-	
	温度計			-	
	LED(縦)			-	
	LED(横)			-	
その他	表(DataGrid)			-	

は一部の形式のみ可



グラフの配置の基本的な操作については、『第1章 4-2 グラフ・コンポーネントの配置』を参照してください。

データバインドの基本的な操作については、『第1章 4-3 データバインドの設定』を参照してください。

2 単一グラフ

単一グラフは、1つのX軸の項目に対し、1つのY軸の値を割り当てるグラフです。

- ・ グラフ：3D円グラフ
- ・ データとして使用できる照会定義：標準表形式、キューブデータ

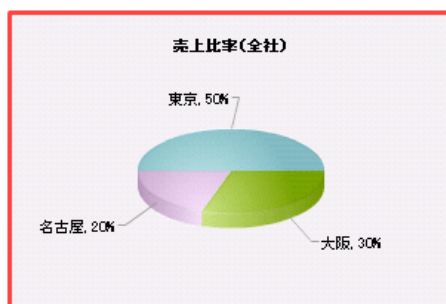
2-1 標準表形式の場合

- ・ 単一グラフで、標準表形式の照会定義を選択した場合は、X軸の項目を1つ、Y軸の値を1つ設定します。
- ・ X軸にバインドした項目名がパイのラベルになり、Y軸にバインドした値が、パイの幅となります。

ここでは、以下のような標準表形式の定義を「単一グラフ(3D円グラフ)」にバインドする例で手順を説明します。

地域名	売上
東京	2173300000.000
名古屋	868900000.000
大阪	1303500000.000

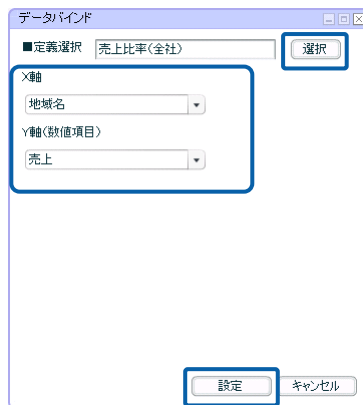
照会定義：「売上比率(全社)」



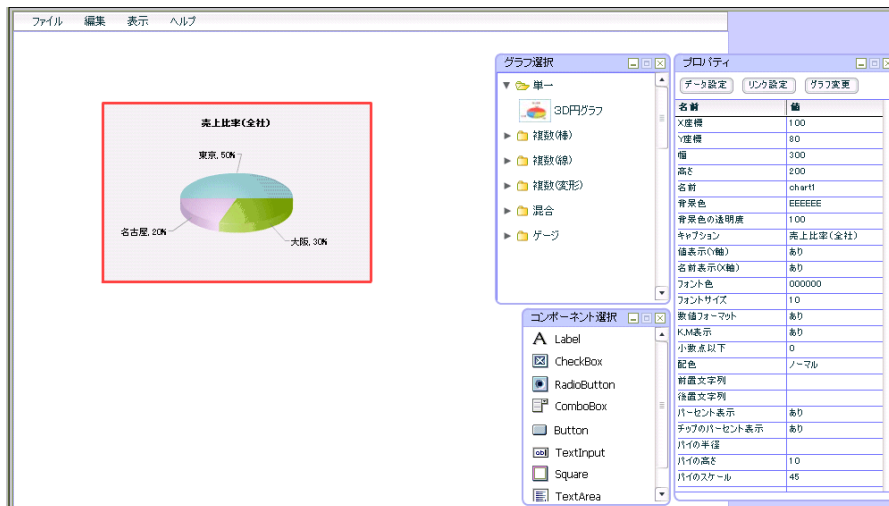
「地域名」をパイのラベル、「売上」をパイの幅として表示

手順

1. 3D円グラフを配置し、プロパティウィンドウの[データ設定]ボタンをクリックします。
[データバインド]ダイアログが表示されます。
2. [定義選択]の[選択]ボタンをクリックし、[照会定義選択]ダイアログでグラフにバインドする照会定義「売上比率(全社)」を選択します。
3. [X軸]の[]ボタンをクリックし、「地域名」を選択します。
4. [Y軸(数値項目)]の[]ボタンをクリックし、「売上」を選択します。
5. [設定]ボタンをクリックします。



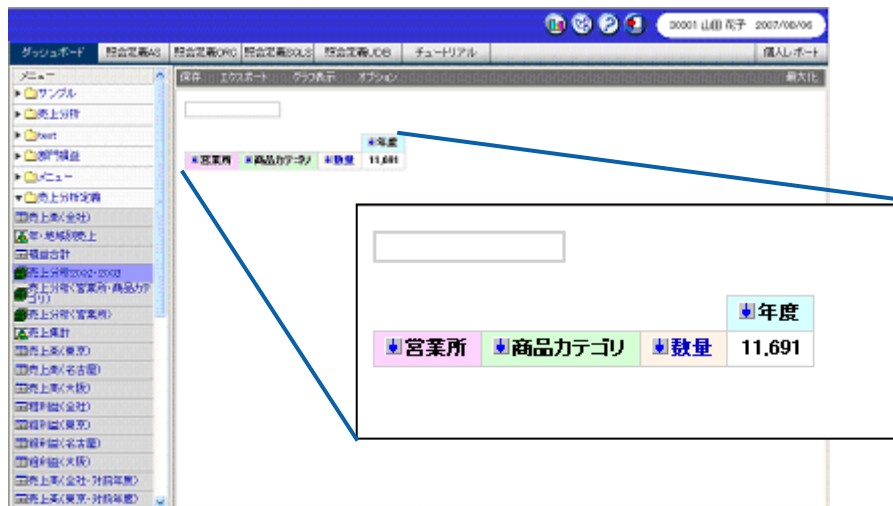
3D円グラフにデータがバインドされます。



2-2 キューブデータの場合

- ・ 単一グラフで、キューブデータ形式の照会定義を選択した場合は、X 軸の項目（分析次元）を 1 つ、Y 軸の値（数値項目）を 1 つ設定します。
- ・ 展開されたキューブデータの定義を選択すると、X 軸の項目は自動的に割り当てられます。ただし、「クロス集計」タイプで展開されたキューブデータの定義は、バインドできません。
- ・ X 軸にバインドした項目名がパイのラベルになり、Y 軸にバインドした値がパイの幅となります。

ここでは、以下のようなキューブデータの定義を「単一グラフ（3D 円グラフ）」にバインドする方法を例に説明します。



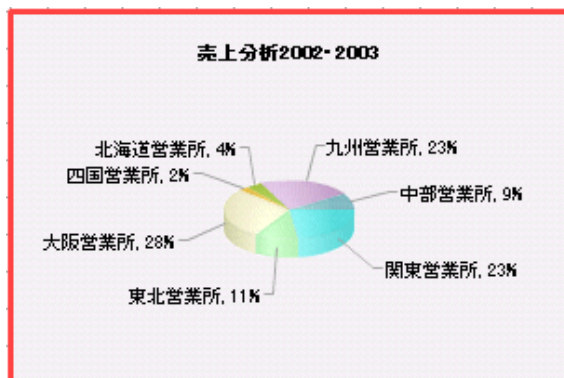
照会定義：「売上分析 2002・2003」

照会定義「売上分析 2002・2003」の数値次元名には「数量」が設定されており、「数量」次元には、「数量」、「売上金額」、「粗利益」の 3 つのレベルが設定されています。

[X 軸] に「営業所」、[Y 軸 (数値項目)] に「売上金額」を設定します。



「営業所」がパイのラベル、「売上金額」がパイの幅として表示されます。



単一グラフにキューブデータの照会定義をバインドする手順の詳細については、『第2章 2-1 標準表形式の場合』を参照してください。

3 複数グラフ

複数グラフは、1つのX軸の項目に対し、複数のY軸の値を選択することができるグラフです。

- ・ グラフ
 - ・ 複数（棒）：3D棒グラフ、2D積上げグラフ、2D横棒グラフ、2D積上げ横棒グラフ
 - ・ 複数（線）：折れ線グラフ、2Dエリアグラフ、レーダーチャート
- ・ データとして使用できる照会定義：標準表形式、クロス集計形式、キューブデータ

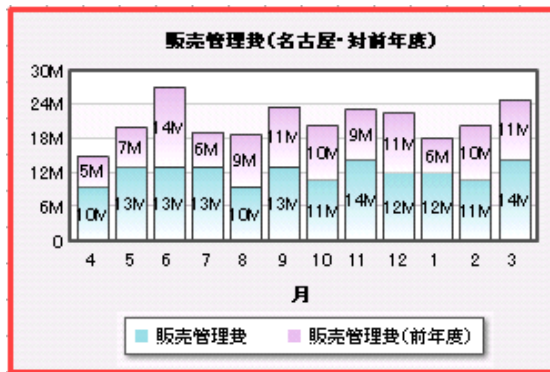
3-1 標準表形式の場合

- ・ 複数グラフで、標準表形式の照会定義を選択した場合は、X軸の項目を1つ、Y軸の値を複数設定します。
- ・ X軸にバインドした項目名がグラフのX軸になり、Y軸にバインドした値が、グラフの値となります。
- ・ Y軸の目盛りは、値がバインドされると、自動的に計算され、表示されます。
- ・ [X軸と系列を入れ替え]にチェックマークを付けると、X軸の項目と系列を入れ替えて表示できます。

ここでは、以下のような標準表形式の定義を「複数グラフ（2D積上げグラフ）」にバインドする例で手順を説明します。

照会定義：「販売管理費（名古屋・対前年度）」

月	販売管理費	販売管理費(前年度)
4	9500000.000	5300000.000
5	13000000.000	7000000.000
6	13100000.000	13800000.000
7	13100000.000	6100000.000
8	9560000.000	9000000.000
9	13100000.000	10500000.000
10	10700000.000	9600000.000
11	14300000.000	8800000.000
12	11900000.000	10500000.000
1	11900000.000	6100000.000
2	10700000.000	9600000.000
3	14300000.000	10500000.000



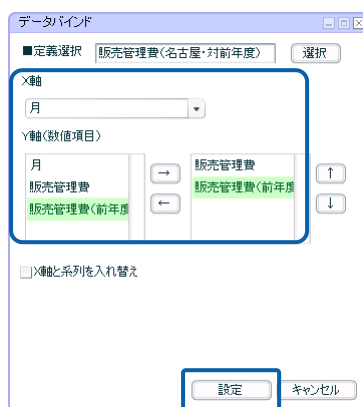
「月」をX軸、「販売管理費」と「販売管理費(前年度)」をY軸として表示

手順

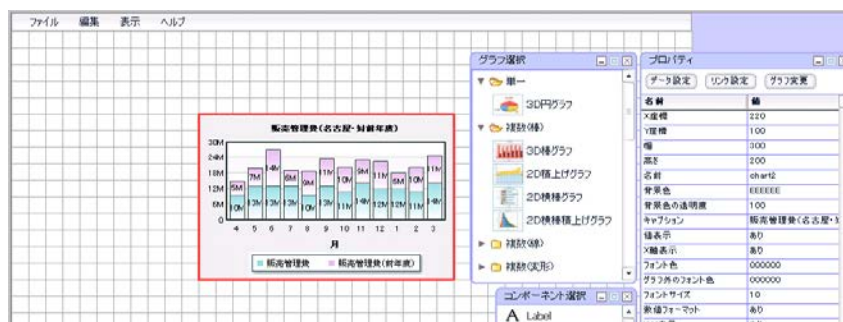
- 2D 積上げグラフを配置し、プロパティウィンドウの [データ設定] ボタンをクリックします。
[データバインド] ダイアログが表示されます。
- [定義選択] の [選択] ボタンをクリックし、[照会定義選択] ダイアログでグラフにバインドする照会定義「販売管理費(名古屋・対前年度)」を選択します。
- [X軸] の [] ボタンをクリックし、「月」を選択します。
- [Y軸(数値項目)] の左側のリストで「販売管理費」と「販売管理費(前年度)」をそれぞれ選択し、[] ボタンをクリックします。

右側のリストに「販売管理費」と「販売管理費(前年度)」が表示されます。

- [設定] ボタンをクリックします。



2D 積上げグラフにデータがバインドされます。



3-2 クロス集計形式の場合

- ・ 複数グラフで、クロス集計形式の照会定義を選択した場合は、クロス集計対象の項目となる値を1つ設定します。
- ・ X 軸にはクロス集計表の列キー、系列には行キーが自動的に設定され、クロス集計対象の項目となる値にバインドした数値がグラフの値となります。
- ・ 列キーが、複数設定されているクロス集計定義の場合は、最初に定義されている項目が自動的に、X 軸に設定されます。
- ・ 行キーが、複数設定されているクロス集計定義の場合は、最初に定義されている項目が自動的に、系列に設定されます。
- ・ Y 軸の目盛は、値がバインドされると、自動的に計算され、表示されます。
- ・ [X 軸と系列を入れ替え] にチェックマークを付けると、X 軸の項目と系列を入れ替えて表示できます。

ここでは、以下のようなクロス集計形式の定義を「複数グラフ(2D エリアグラフ)」にバインドする例で手順を説明します。

照会定義：「売上集計」

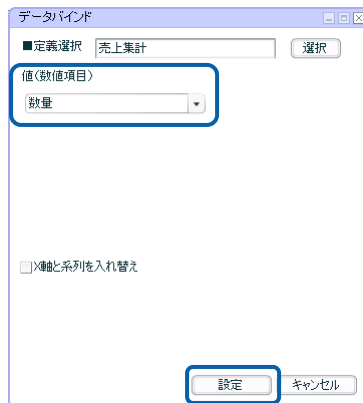
拡大図はクロス集計表の一部です。



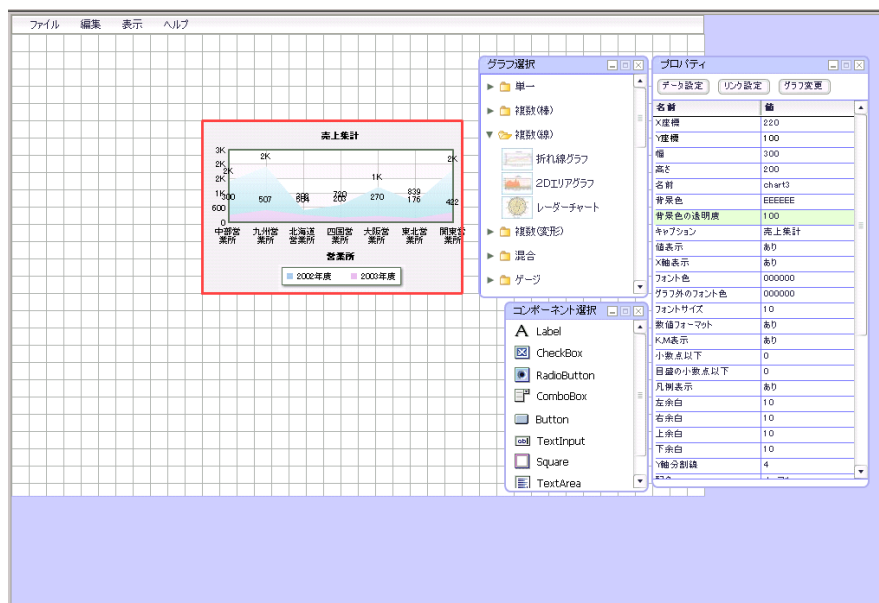
「営業所」を X 軸、「数量」を Y 軸、「年度」を系列として表示

手順

- 2D エリアグラフを配置し、プロパティウィンドウの [データ設定] ボタンをクリックします。
[データバインド] ダイアログが表示されます。
- [定義選択] の [選択] ボタンをクリックし、[照会定義選択] ダイアログでグラフにバインドする照会定義「売上集計」を選択します。
X 軸には列キーの「営業所」が、系列には行キーの「年度」がそれぞれ自動的に割り当てられます。
- [値 (数値項目)] の [] ボタンをクリックし、クロス集計対象の項目となる「数量」を選択します。
- [設定] ボタンをクリックします。



2D エリアグラフにデータがバインドされます。



3-3 キューブデータの場合

複数グラフで、キューブデータの照会定義を選択した場合は、キューブデータの展開の方法が「標準表」タイプか「クロス集計」タイプかによって、設定内容が異なります。

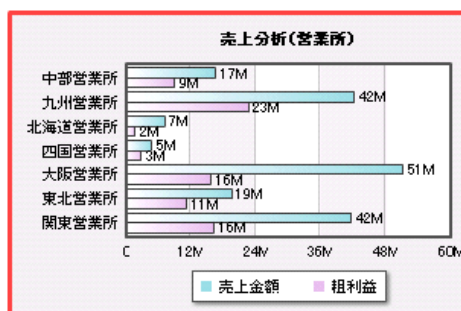
「標準表」タイプ

- ・ 展開されていないキューブデータの定義を選択した場合は、「標準表」タイプを選択し、X軸の項目を1つ、Y軸の値を複数設定します。
- ・ 「標準表」タイプで展開されたキューブデータの定義を選択すると、タイプが自動的に判別され、X軸に次元が自動的に割り当てられます。
- ・ X軸にバインドした項目名がグラフのX軸になり、Y軸にバインドした値が、グラフの値となります。
- ・ Y軸の目盛は、値がバインドされると、自動的に計算され、表示されます。
- ・ [X軸と系列を入れ替え]にチェックマークを付けると、X軸の項目と系列を入れ替えて表示できます。

ここでは、以下のように「標準表」タイプで展開されたキューブデータの定義を「複数グラフ(2D横棒グラフ)」にバインドする例で手順を説明します。

年度	商品カテゴリ					
	中部営業所	九州営業所	北海道営業所	四国営業所	大関営業所	東北営業所
数量	1,995	2,815	562	923	1,734	1,011
売上金額	16,505,478	42,189,620	7,018,382	4,548,900	51,047,583	18,411,261
粗利益	8,913,711	22,517,777	1,587,922	2,732,708	15,528,599	11,835,117

照会定義：「売上分析(営業所)」



「営業所」をX軸、「売上金額」と「粗利益」をY軸として表示

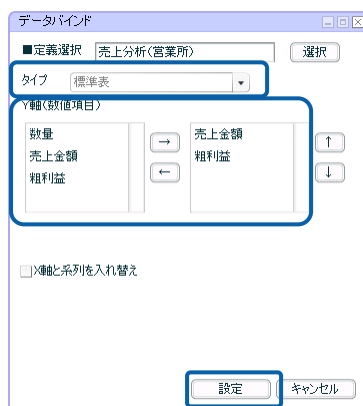
手順

- 2D 横棒グラフを配置し、プロパティウィンドウの [データ設定] ボタンをクリックします。
[データバインド] ダイアログが表示されます。
- [定義選択] の [選択] ボタンをクリックし、[照会定義選択] ダイアログでグラフにバインドする照会定義「売上分析 (営業所)」を選択します。
展開されたキューブデータの場合は、表のタイプが自動的に判別され、X 軸には、自動的に「営業所」が割り当てられます。

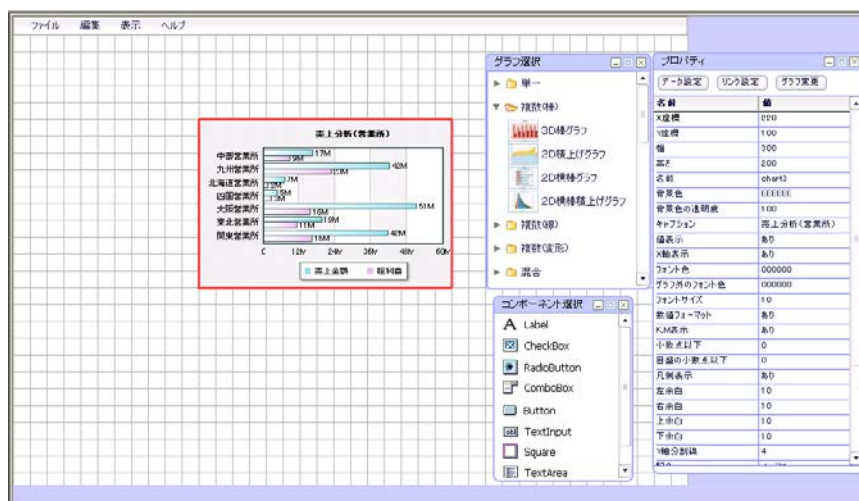


展開されていないキューブデータを選択した場合は、[タイプ] の [] をクリックして「標準表」を選択し、[X 軸] に項目を 1 つ設定します。

- [Y 軸 (数値項目)] の左側のリストで「売上金額」と「粗利益」をそれぞれ選択し、[] ボタンをクリックします。
右側のリストに「売上金額」と「粗利益」が表示されます。
- [設定] ボタンをクリックします。



2D 横棒グラフにデータがバインドされます。



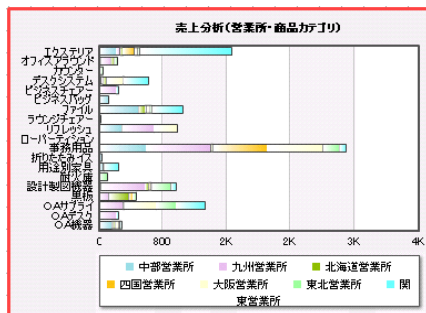
「クロス集計」タイプ

- ・ 展開されていないキューブデータの定義を選択した場合は、「クロス集計」タイプを選択し、X軸の項目を1つ、系列の項目を1つ、数値項目の値を1つ設定します。
- ・ 「クロス集計」タイプで展開されたキューブデータの定義を選択すると、タイプが自動的に判別され、X軸に列キー、系列には行キーが自動的に割り当てられます。
- ・ X軸にバインドした項目がグラフのX軸、系列にバインドした項目が系列、数値項目にバインドした値がグラフの値となります。
- ・ Y軸の目盛は、値がバインドされると、自動的に計算され、表示されます。
- ・ [X軸と系列を入れ替え]にチェックマークを付けると、X軸の項目と系列を入れ替えて表示できます。

ここでは、以下のように「クロス集計」タイプで展開されたキューブデータの定義を「複数グラフ(2D横棒積上げグラフ)」にバインドする例で手順を説明します。

年度	エクステリア	オフィスアラウンド	カウンター
中部営業所	210	18	13
九州営業所	50	125	35
北海道営業所	31	41	
四国営業所	150		
大阪営業所	39		
東北営業所	30	48	35
関東営業所	1,151		
営業所	1,661	232	48

照会定義：「売上分析(営業所・商品カテゴリ)」



「商品カテゴリ」をX軸、「数量」をY軸、「営業所」を系列として表示

手順

1. 2D 横棒積上げグラフを配置し、プロパティウィンドウの[データ設定]ボタンをクリックします。

[データバインド] ダイアログが表示されます。

2. [定義選択] の [選択] ボタンをクリックし、[照会定義選択] ダイアログでグラフにバインドする照会定義「売上分析(営業所・商品カテゴリ)」を選択します。

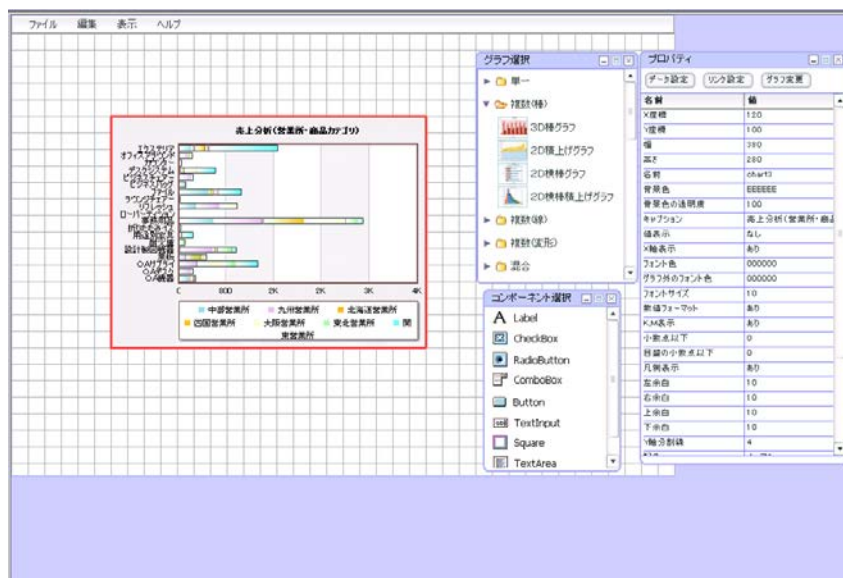
表のタイプが自動的に判別され、X 軸に「商品カテゴリ」、系列に「営業所」が自動的に割り当てられます。



展開されていないキューブデータを選択した場合は、[タイプ] の [] をクリックして「クロス集計」を選択し、[X 軸] と [系列] に項目を1つずつ設定します。

3. [数値項目] の [] ボタンをクリックし、「数量」を選択します。
4. [設定] ボタンをクリックします。

2D 横棒積上げグラフにデータがバインドされます。



4 複数（変形）グラフ

複数（変形）グラフは、1つの項目に対し、複数の値を選択することのできるグラフです。

散布図の場合は、1つの項目に対し、X軸とY軸の値を1つずつ、バブルチャートの場合は、X軸とY軸とZ軸の値を1つずつ設定できます。

- ・ グラフ：散布図、バブルチャート
- ・ データとして使用できる照会定義：標準表形式、クロス集計形式、キューブデータ

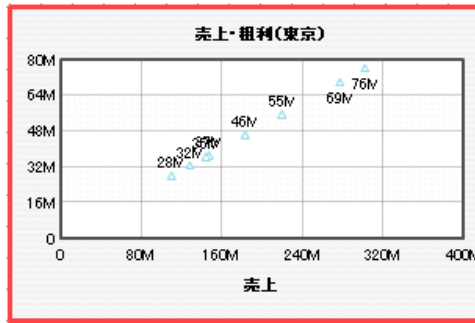
4-1 標準表形式の場合

- ・ 複数（変形）グラフで標準表形式の照会定義を選択した場合は、データの名前を1つ、X軸の値を1つ、Y軸の値を1つ設定します。バブルチャートの場合は、さらにZ軸に値を1つ設定します。
- ・ 名前にバインドした項目がデータの名前になり、X軸にバインドした値とY軸にバインドした値が、グラフの値となります。バブルチャートの場合、Z軸の値はバブルの大きさになります。
- ・ X軸とY軸の目盛りは、値がバインドされると、自動的に計算され、表示されます。
- ・ [名前と系列を入れ替え]にチェックマークを付けると、名前と系列を入れ替えて表示できます。

ここでは、以下のような標準表形式の定義を「複数（変形）グラフ（散布図）」にバインドする例で手順を説明します。

	売上	売上目標	粗利	粗利目標
4	110000000.000	229200000.000	27500000.000	57300000.000
5	147600000.000	229200000.000	36700000.000	57300000.000
6	183300000.000	229200000.000	45800000.000	57300000.000
7	128300000.000	229200000.000	32100000.000	57300000.000
8	144400000.000	229200000.000	36100000.000	57300000.000
9	220000000.000	229200000.000	55000000.000	57300000.000
10	128300000.000	229200000.000	32100000.000	57300000.000
11	183300000.000	229200000.000	45800000.000	57300000.000
12	302500000.000	229200000.000	75600000.000	57300000.000
1	128300000.000	229200000.000	32100000.000	57300000.000
2	277300000.000	229200000.000	69300000.000	57300000.000
3	220000000.000	229200000.000	55000000.000	57300000.000

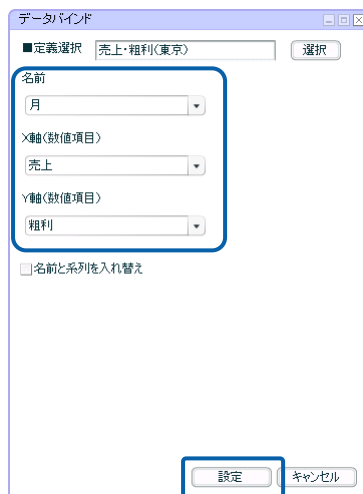
照会定義：「売上・粗利（東京）」



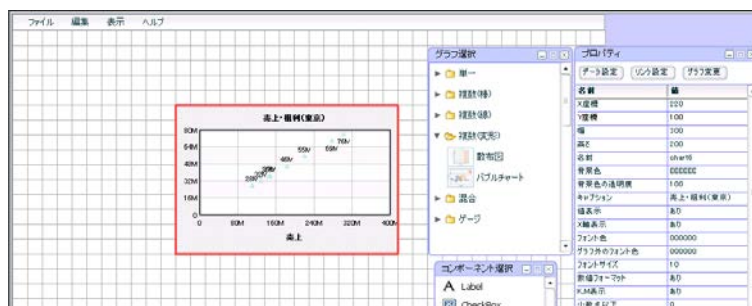
「売上」を X 軸、「粗利」を Y 軸、「月」をアンカーマークとして表示

手順

1. 散布図を配置し、プロパティウィンドウの [データ設定] ボタンをクリックします。
[データバインド] ダイアログが表示されます。
2. [定義選択] の [選択] ボタンをクリックし、[照会定義選択] ダイアログでグラフにバインドする照会定義「売上・粗利(東京)」を選択します。
3. [名前] の [] ボタンをクリックし、「月」を選択します。
4. [X 軸 (数値項目)] の [] ボタンをクリックし、「売上」を選択します。
5. [Y 軸 (数値項目)] の [] ボタンをクリックし、「粗利」を選択します。
6. [設定] ボタンをクリックします。



散布図にデータがバインドされます。



4-2 クロス集計形式の場合

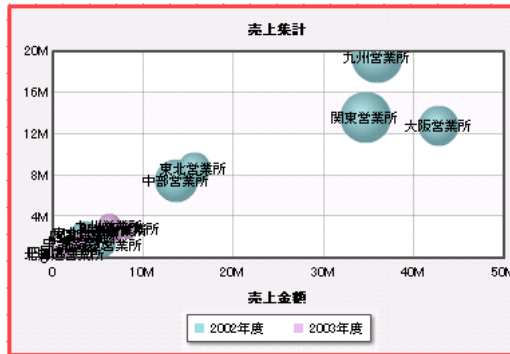
- ・ 複数（変形）グラフで、クロス集計形式の照会定義を選択した場合は、X軸とY軸の値を1つずつ設定します。バブルチャートの場合は、さらにZ軸に値を1つ設定します。
- ・ 名前にはクロス集計表の列キー、系列には行キーが自動的に設定され、X軸にバインドした値とY軸にバインドした値が、グラフの値となります。バブルチャートの場合、Z軸の値はバブルの大きさになります。
- ・ 列キーが、複数設定されているクロス集計定義の場合は、最初に定義されている項目が自動的に、名前に設定されます。
- ・ 行キーが、複数設定されているクロス集計定義の場合は、最初に定義されている項目が自動的に、系列に設定されます。
- ・ 散布図の場合は、クロス集計対象となる項目が2つ以上設定されているクロス集計の定義が使用できます。
- ・ バブルチャートの場合は、クロス集計対象となる項目が3つ以上設定されているクロス集計の定義が使用できます。
- ・ X軸とY軸の目盛は、値がバインドされると、自動的に計算され、表示されます。
- ・ [名前と系列を入れ替え]にチェックマークを付けると、名前と系列を入れ替えて表示できます。

ここでは、以下のようなクロス集計形式の定義を「複数（変形）グラフ（バブルチャート）」にバインドする例で手順を説明します。

照会定義：「売上集計」

年度	半期	四半期	売上	数量	売上金額	粗利益	営業所 中部営業所			中部営業所			中部営業所			中部営業所		
							数量	売上金額	粗利益	数量	売上金額	粗利益	数量	売上金額	粗利益	数量	売上金額	粗利益
2002年度	1H	1Q	200204															
2002年度	1H	1Q	200205															
2002年度	1H	1Q	200206															
2002年度	1H	1Q	200207															
2002年度	1H	1Q	200208															
2002年度	1H	1Q	200209	1	5080	3184												
2002年度	1H	1Q	200210															
2002年度	1H	1Q	200205															
2002年度	1H	1Q	200206															
2002年度	1H	1Q	200207															
2002年度	1H	1Q	200208															
2002年度	1H	1Q	200209	1	5080	3184												
2002年度	1H	1Q	200210	2	10160	6368												
2002年度	1H	1Q	200211															

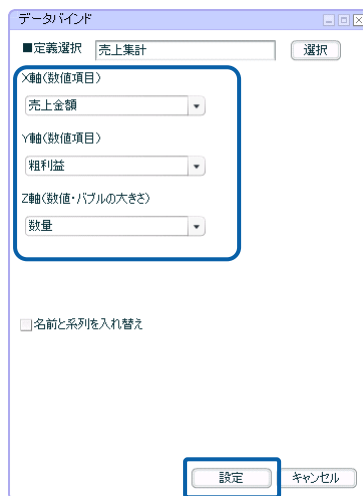
拡大図はクロス集計表の一部です。



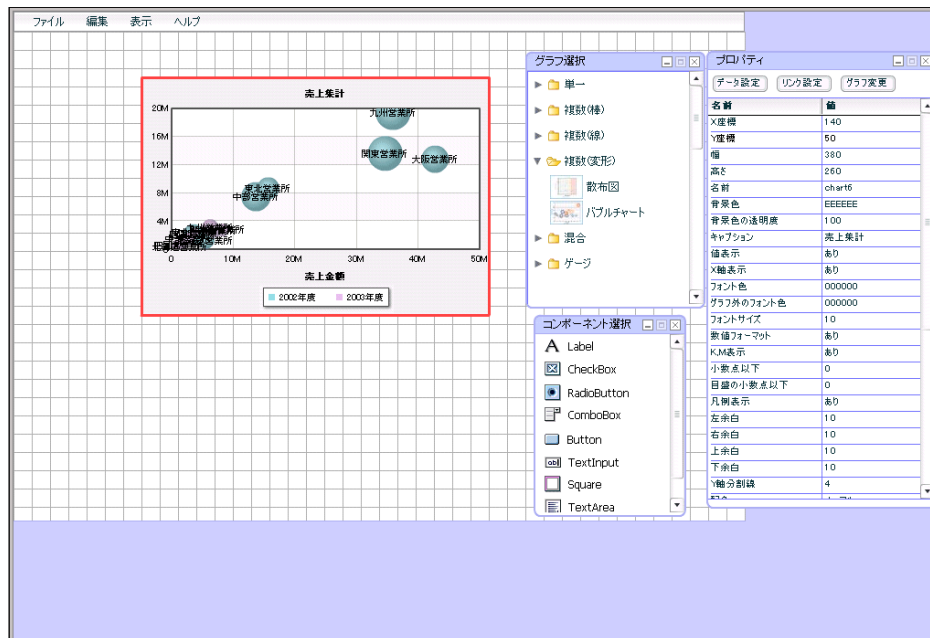
「売上金額」をX軸、「粗利益」をY軸、「数量」をZ軸（バブルの大きさ）、「年度」を系列、「営業所」をバブルとして表示

手順

1. バブルチャートを配置し、プロパティウィンドウの[データ設定]ボタンをクリックします。
[データバインド]ダイアログが表示されます。
2. [定義選択]の[選択]ボタンをクリックし、[照会定義選択]ダイアログでグラフにバインドする照会定義「売上集計」を選択します。
名前にはクロス集計表の最初に定義されている列キーの「営業所」が、系列には最初に定義されている行キーの「年度」がそれぞれ自動的に割り当てられます。
3. [X軸(数値項目)]の[]ボタンをクリックし、クロス集計対象のX軸の項目となる「売上金額」を選択します。
4. [Y軸(数値項目)]の[]ボタンをクリックし、クロス集計対象のY軸の項目となる「粗利益」を選択します。
5. [Z軸(数値・バブルの大きさ)]の[]ボタンをクリックし、「数量」を選択します。
6. [設定]ボタンをクリックします。



バブルチャートにデータがバインドされます。



4-3 キューブデータの場合

複数（変形）グラフで、キューブデータの照会定義を選択した場合は、キューブデータの展開の方法が「標準表」タイプか「クロス集計」タイプかによって、設定内容が異なります。

「標準表」タイプ

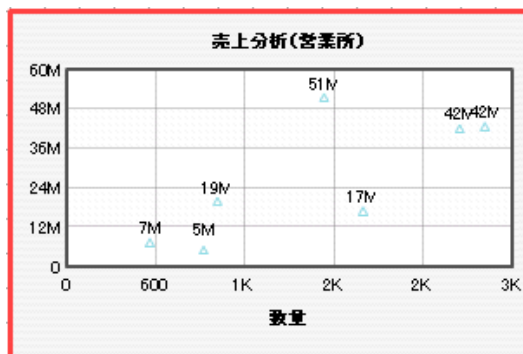
- ・ 展開されていないキューブデータの定義を選択した場合は、「標準表」タイプを選択し、データの名前を1つ、X軸の値を1つ、Y軸の値を1つ設定します。バブルチャートの場合は、さらにZ軸に値を1つ設定します。
- ・ 「標準表」タイプで展開されたキューブデータの定義を選択すると、タイプが自動的に判別され、名前に次元が自動的に割り当てられます。
- ・ 名前にバインドした項目がグラフの項目名になり、X軸にバインドした値とY軸にバインドした値が、グラフの値となります。バブルチャートの場合、Z軸の値はバブルの大きさとなります。
- ・ X軸とY軸の目盛は、値がバインドされると、自動的に計算され、表示されます。
- ・ [名前と系列を入れ替え]にチェックマークを付けると、名前と系列を入れ替えて表示できます。

ここでは、以下のように「標準表」タイプで展開されたキューブデータの定義を「複数（変形）グラフ（散布図）」にバインドする例で手順を説明します。

The screenshot shows a software interface with a table of cube data. The table has columns for '年度' (Year) and '商品カテゴリ' (Product Category). The data is as follows:

年度	商品カテゴリ	中部営業所	九州営業所	北海道営業所	四国営業所	大瀬営業所	東北営業所
数量		1,995	2,815	562	923	1,734	1,011
売上金額		16,505,478	42,189,620	7,018,382	4,548,900	51,047,583	18,411,261
粗利益		8,913,711	22,517,777	1,587,922	2,732,708	15,526,589	11,835,117

照会定義：「売上分析（営業所）」



「数量」をX軸、「売上金額」をY軸、「営業所」をアンカーマークとして表示

手順

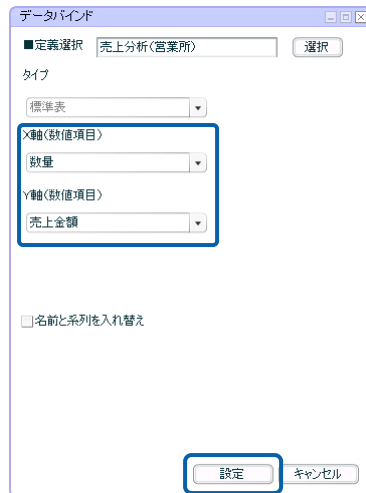
1. 散布図を配置し、プロパティウィンドウの[データ設定]ボタンをクリックします。
[データバインド]ダイアログが表示されます。
2. [定義選択]の[選択]ボタンをクリックし、[照会定義選択]ダイアログでグラフにバインドする照会定義「売上分析（営業所）」を選択します。
表のタイプが自動的に判別され、名前には、自動的に「営業所」が割り当てられます。



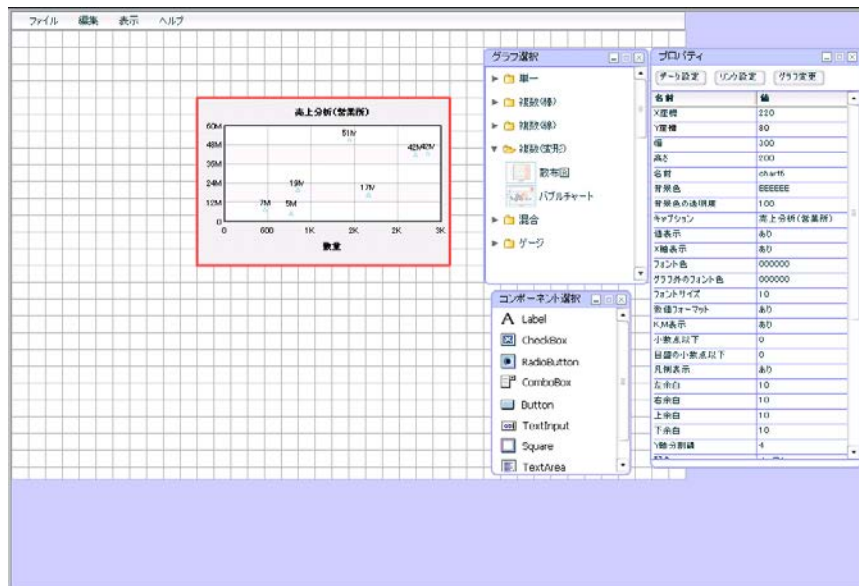
展開されていないキューブデータを選択した場合は、[タイプ]の[]をクリックして「標準表」を選択し、[名前]に項目を1つ設定します。

3. [X軸（数値項目）]の[]ボタンをクリックし、「数量」を選択します。
4. [Y軸（数値項目）]の[]ボタンをクリックし、「売上金額」を選択します。

5. [設定] ボタンをクリックします。



散布図にデータがバインドされます。



「クロス集計」タイプ

- ・ 展開されていないキューブデータの定義を選択した場合は、「クロス集計」タイプを選択し、データの名前を1つ、系列を1つ、X軸とY軸の値を1つずつ設定します。パブルチャートの場合は、さらにZ軸に値を1つ設定します。
- ・ 「クロス集計」タイプで展開されたキューブデータの定義を選択すると、タイプが自動的に判別され、名前に列キー、系列には行キーが自動的に設定されます。
- ・ 名前にバインドした項目がグラフの項目名、系列にバインドした項目が系列になり、X軸にバインドした値とY軸にバインドした値が、グラフの値となります。パブルチャートの場合、Z軸の値はパブルの大きさになります。
- ・ X軸とY軸の目盛は、値がバインドされると、自動的に計算され、表示されます。

- ・ [名前と系列を入れ替え] にチェックマークを付けると、名前と系列を入れ替えて表示できます。ただし、展開されていない「クロス集計」タイプのキューブデータの場合は、名前と系列を入れ替えて表示することはできません。

ここでは、以下のように「クロス集計」タイプで展開されたキューブデータの定義を「複数（変形）グラフ（散布図）」にバインドする方法を例に説明します。

年度		エクステリア	オフィスアラウンド	カウンター
中部営業所	数量	210	18	13
九州営業所	数量	50	125	28
北海道営業所	数量	31		41
四国営業所	数量	150		
大阪営業所	数量	39		
東北営業所	数量	30		35
関東営業所	数量	1,151	48	
営業所	数量	1,661	232	48

照会定義：「売上分析（営業所・商品カテゴリ）」

表のタイプが自動的に判別され、自動的に、名前に「商品カテゴリ」、系列に「営業所」が設定されます。

[X 軸（数値項目）] に「売上金額」、[Y 軸（数値項目）] に「粗利」を設定します。

データバインド

■ 定義選択 売上分析(営業所・商品カテゴリ) 選択

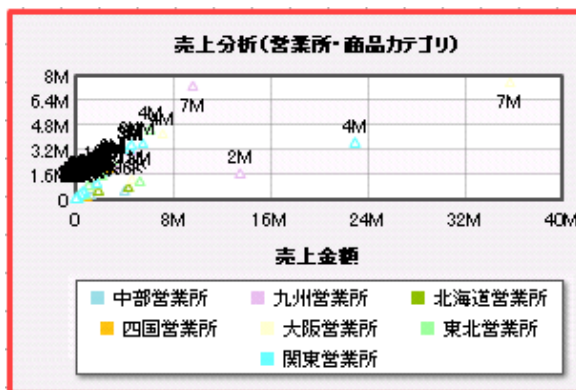
タイプ

X軸(数値項目)

Y軸(数値項目)

名前と系列を入れ替え

「売上金額」が X 軸に、「粗利」が Y 軸に、系列に「営業所」が、アンカーマークに「商品カテゴリ」が表示されます。



複数(変形)グラフに「クロス集計」タイプで展開されたキューブデータをバインドする手順の詳細については、『第 2 章 4-3 キューブデータの場合』の「標準表」タイプ」を参照してください。

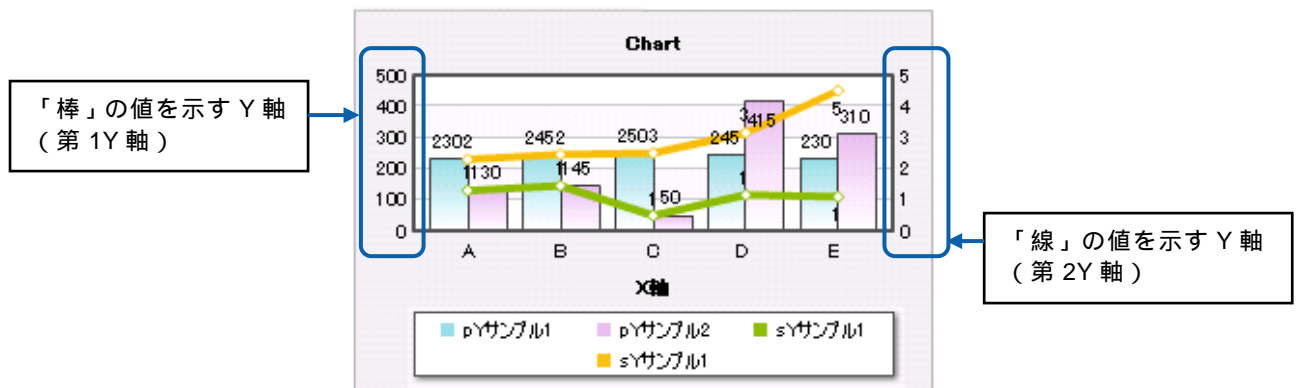
5 混合グラフ

混合グラフは、1つのX軸の項目に対し、複数のY軸の値を選択することができます。

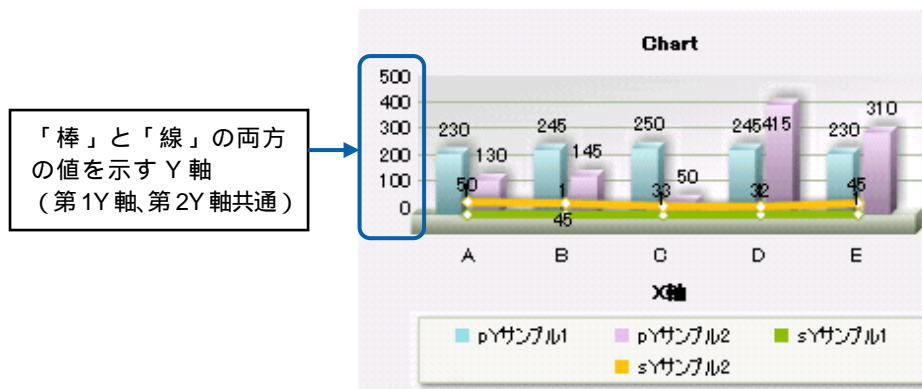
複数グラフと異なり、1つのグラフの中で、棒と折れ線、積上げと折れ線など、2種類の表現ができます。

- ・ グラフ：棒・線グラフ、積上げ・線グラフ、3D棒・線グラフ
- ・ データとして使用できる照会定義：標準表形式、キューブデータ

「棒・線グラフ」と「積上げ・線グラフ」の場合、「棒」と「線」、または「積上げ」と「線」ごとに、Y軸が2つ作成されます。



「3D棒・線グラフ」の場合、Y軸は「棒」も「線」も共通の1つの軸を使用します。



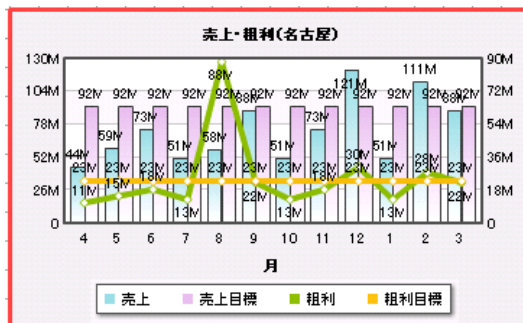
5-1 標準表形式の場合

- ・ 混合グラフで、標準表形式の照会定義を選択した場合は、X軸の項目を1つ、第1Y軸の値を複数、第2Y軸の値を複数設定します。
- ・ X軸にバインドした項目名がグラフのX軸になり、第1Y軸、第2Y軸にバインドした値が、グラフの値となります。
- ・ 第1Y軸に設定した値は線以外(棒、または積上げ)、第2Y軸に設定した値は線で表示されます。
- ・ Y軸の目盛は、値がバインドされると、自動的に計算され、表示されます。

ここでは、以下のような標準表形式の定義を「混合グラフ(棒・線グラフ)」にバインドする例で手順を説明します。

照会定義：「売上・粗利(名古屋)」

月	売上	売上目標	粗利	粗利目標
4	44000000.000	91700000.000	11000000.000	22900000.000
5	58700000.000	91700000.000	14700000.000	22900000.000
6	73300000.000	91700000.000	18300000.000	22900000.000
7	51300000.000	91700000.000	12800000.000	22900000.000
8	57800000.000	91700000.000	88000000.000	22900000.000
9	88000000.000	91700000.000	22000000.000	22900000.000
10	51300000.000	91700000.000	12800000.000	22900000.000
11	73300000.000	91700000.000	18300000.000	22900000.000
12	121000000.000	91700000.000	30300000.000	22900000.000
1	51300000.000	91700000.000	12800000.000	22900000.000
2	110900000.000	91700000.000	27700000.000	22900000.000
3	88000000.000	91700000.000	22000000.000	22900000.000



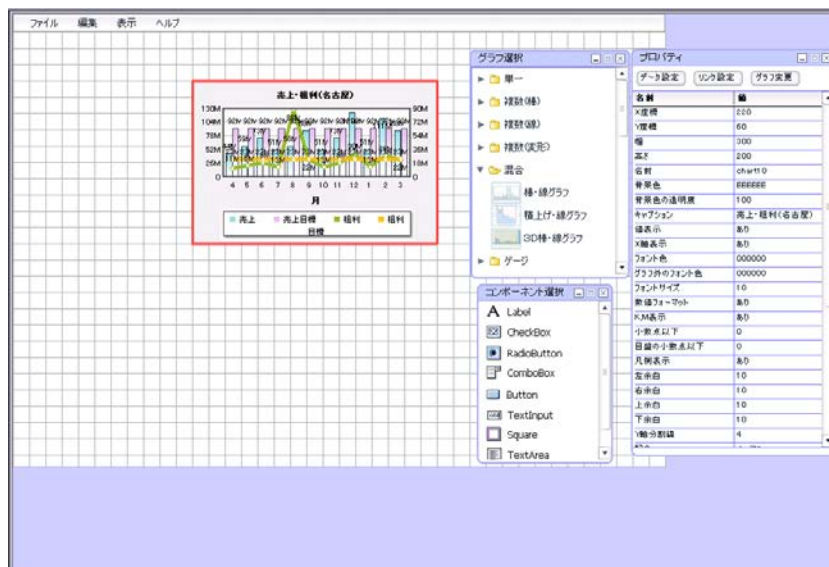
「月」をX軸、「売上」と「売上目標」を第1Y軸(「棒」で表示)、「粗利」と「粗利目標」を第2Y軸(「線」で表示)として表示

手順

- 棒・線グラフを配置し、プロパティウィンドウの[データ設定]ボタンをクリックします。
[データバインド]ダイアログが表示されます。
- [定義選択]の[選択]ボタンをクリックし、[照会定義選択]ダイアログでグラフにバインドする照会定義「売上・粗利(名古屋)」を選択します。
- [X軸]の[]ボタンをクリックし、「月」を選択します。
- [第1Y軸(数値項目)]の左側のリストで「売上」と「売上目標」をそれぞれ選択し、[]ボタンをクリックします。
右側のリストに「売上」と「売上目標」が設定されます。
- 同様にして、[第2Y軸(数値項目)]に「粗利」と「粗利目標」を設定します。
- [設定]ボタンをクリックします。



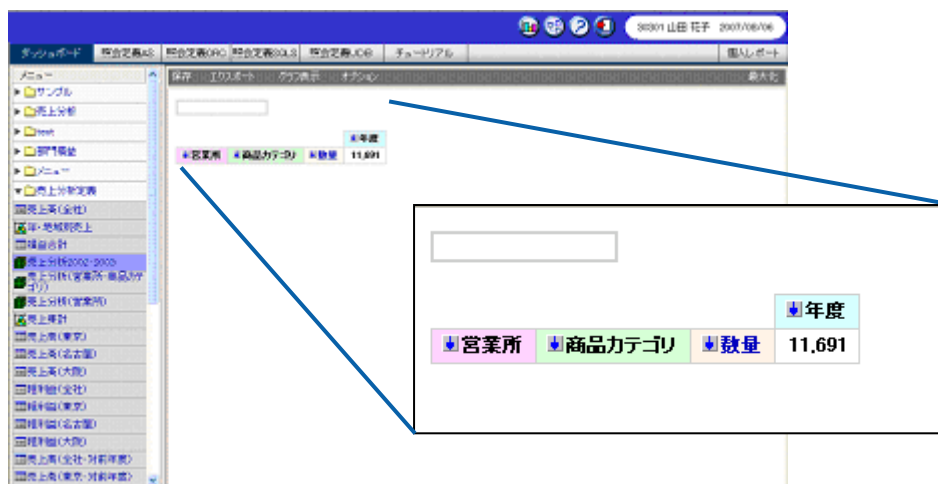
棒・線グラフにデータがバインドされます。



5-2 キューブデータの場合

- ・ 混合グラフで、キューブデータの照会定義を選択した場合は、X軸の項目を1つ、第1Y軸の値を複数、第2Y軸の値を複数設定します。
- ・ X軸にバインドした項目名がグラフのX軸になり、第1Y軸、第2Y軸にバインドした値が、グラフの値となります。
- ・ 第1Y軸に設定した値は線以外(棒、または積上げ)、第2Y軸に設定した値は線で表示されます。
- ・ 「標準表」タイプで展開されたキューブデータの定義を選択すると、X軸に項目が自動的に割り当てられます。ただし、「クロス集計」タイプで展開されたキューブデータは、選択できません。
- ・ Y軸の目盛は、値がバインドされると、自動的に計算され、表示されます。

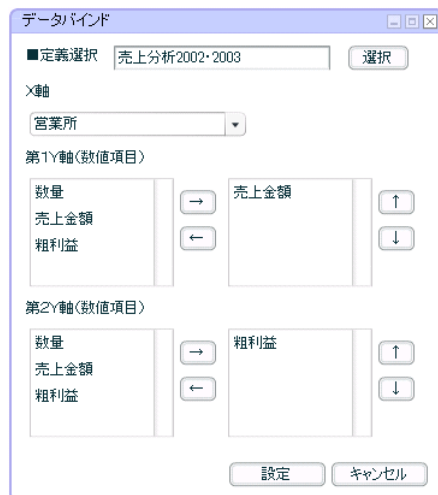
ここでは、以下のようなキューブデータの定義を「混合グラフ(3D棒・線グラフ)」にバインドする方法を例に説明します。



照会定義：「売上分析 2002・2003」

照会定義「売上分析 2002・2003」の数値次元名には「数量」が、「数量」次元には、「数量」、「売上金額」、「粗利益」の3つのレベルが設定されています。

[X 軸] に「営業所」、[第 1Y 軸 (数値項目)] の値に「売上金額」、[第 2Y 軸 (数値項目)] に、「粗利益」を設定します。



「営業所」がグラフの X 軸になり、「売上金額」が第 1Y 軸に「棒」で表示され、「粗利益」が「線」で表示されます。



混合グラフにキューブデータの照会定義をバインドする手順の詳細については、『第 2 章 5-1 標準表形式の場合』を参照してください。

6 ゲージ

ゲージは、ゲージが示す単一の値が、設定した閾値のどの範囲に属しているかを示すことのできるグラフです（「温度計」を除く）。

他のグラフとは異なり、軸はありません。

- ・ グラフ：ゲージ、スピードメーター、線ゲージ、球体、温度計、LED（縦）、LED（横）
- ・ データとして使用できる照会定義：標準表形式、クロス集計形式、キューブデータ

閾値の設定

- ・ ゲージでは、データを割り当てる前に、閾値の設定が必要です。
- ・ プロパティウィンドウで、目盛りの上限と下限、ゲージの色、閾値を設定します。
- ・ データの値が何を示しているのか（よい状態か、悪い状態か）を判定するために、値の範囲が3つ（初期状態では赤、黄色、緑の色の部分）用意されています。

ゲージの閾値は、以下の4つのプロパティで決まります。必ず設定してください。

- ・ 「最小限界値」
- ・ 「境界1の値」
- ・ 「境界2の値」
- ・ 「最大限界値」



範囲には、以下のプロパティを持つことができます。

- ・ 「範囲1の名前」、「範囲1の色」
- ・ 「範囲2の名前」、「範囲2の色」
- ・ 「範囲3の名前」、「範囲3の色」

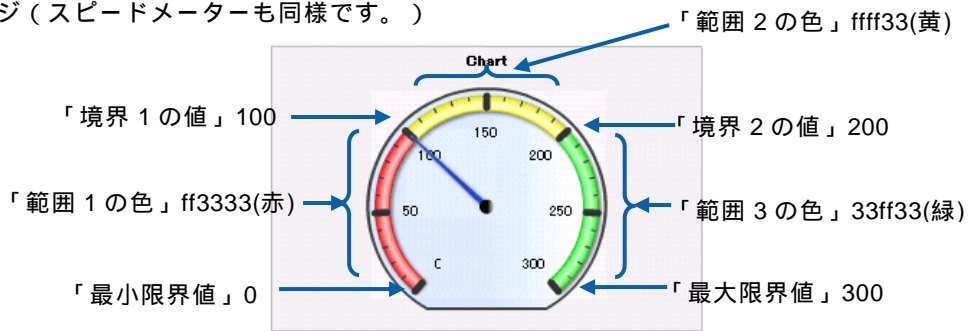


「温度計」の場合、閾値は必ずしも設定する必要はありません。

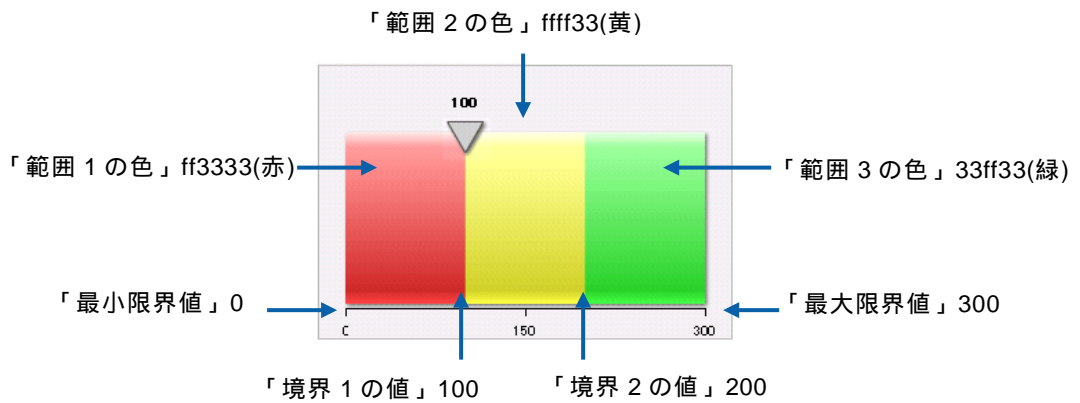
「範囲1の名前」、「範囲2の名前」、「範囲3の名前」を設定できるのは、「線ゲージ」のみです。

サンプルの初期状態のプロパティは以下のとおりです。

ゲージ (スピードメーターも同様です。)

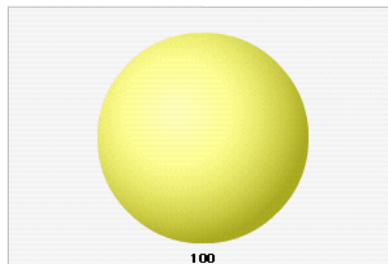


線ゲージ

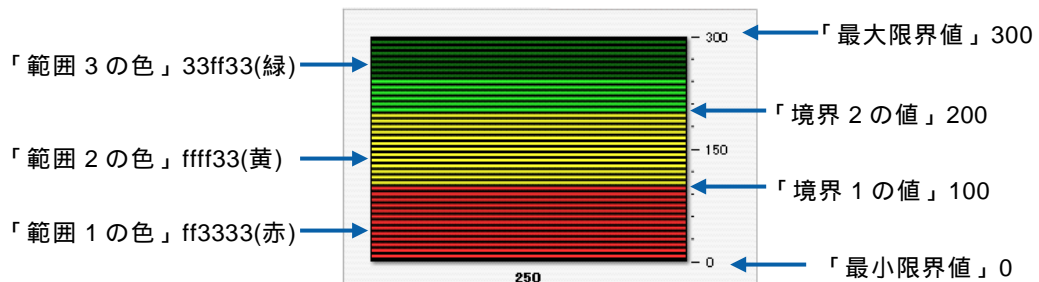


球体 (データの値が示す範囲の色で球体が表示されます。)

- 「最小限界値」 0
- 「範囲 1 の色」 ff3333(赤)
- 「境界 1 の値」 100
- 「範囲 2 の色」 ffff33(黄)
- 「境界 2 の値」 200
- 「範囲 3 の色」 33ff33(緑)
- 「最大限界値」 300



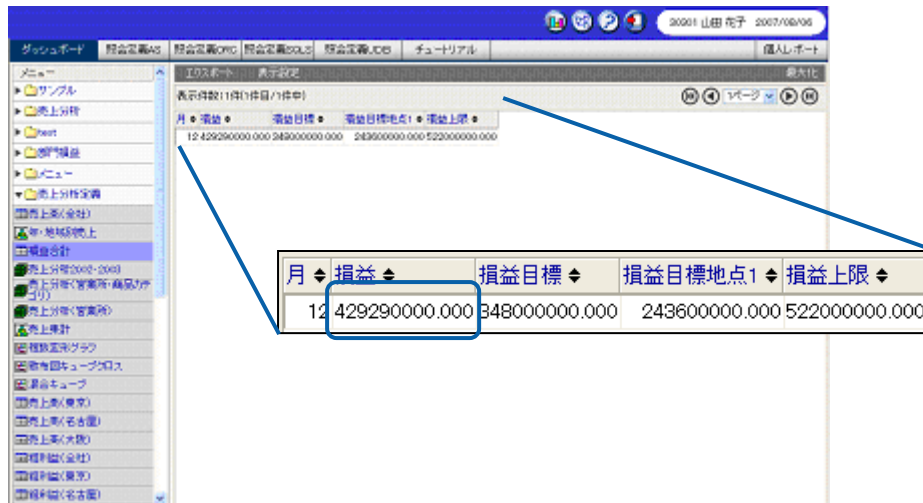
LED (横) (LED (縦) も同様です。)



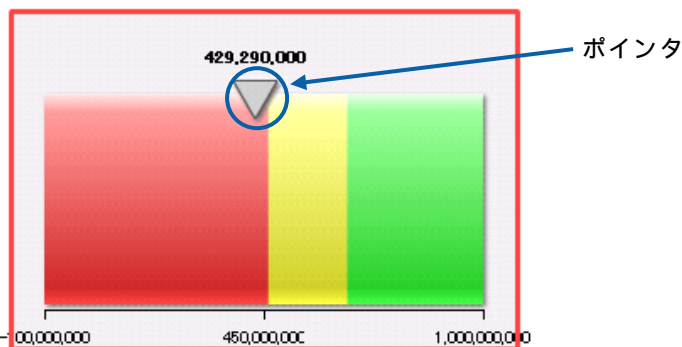
6-1 標準表形式の場合

- ・ ゲージで、標準表形式の照会定義を選択した場合は、データを1つ選択します。
- ・ データにバインドした項目名のリストに表示される最初の値が、ゲージの示す値となります。

ここでは、以下のような標準表形式の定義を「ゲージ（線ゲージ）」にバインドする方法を例に手順を説明します。



照会定義：「損益合計」



[損益] のリストの最初の値が、ポインタの示す値（ここでは、「¥429290000」）になる

手順

1. 線ゲージを配置します。
2. 線ゲージの目盛の下限と上限をプロパティウィンドウで設定します。

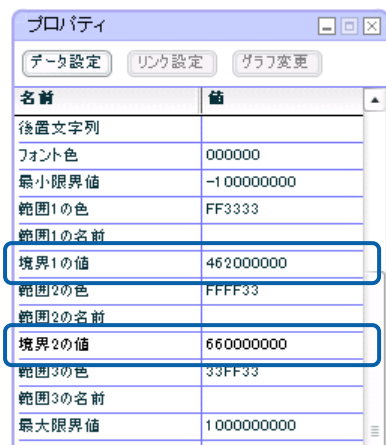
[最小限界値] に「-100000000」、[最大限界値] に「100000000」と入力します。



3. 線ゲージの閾値を設定します。

ここでは、損益の最低到達目標金額を「¥462000000」、最高目標金額を「¥660000000」とします。最低到達金額に達していない場合には悪い状態、最低目標金額から最高目標金額までは良い状態、最高目標金額以上はとても良い状態とします。

[境界 1 の値] に「462000000」、[境界 2 の値] に「660000000」と入力します。

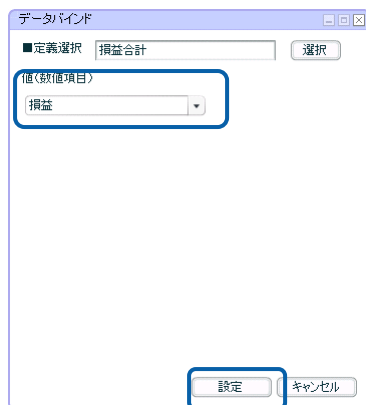


4. プロパティウィンドウの [データ設定] ボタンをクリックします。

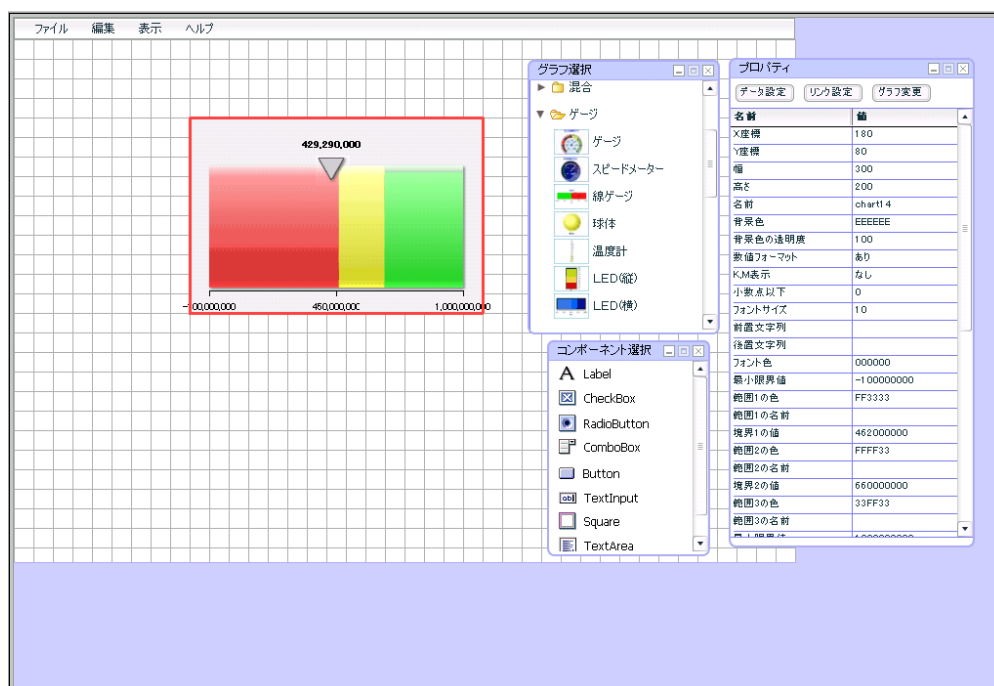
[データバインド] ダイアログが表示されます。

5. [定義選択] の [選択] ボタンをクリックし、[照会定義選択] ダイアログでグラフにバインドする照会定義「損益合計」を選択します。

6. [値 (数値項目)] の [] ボタンをクリックし、「損益」を選択します。
7. [設定] ボタンをクリックします。



線ゲージにデータがバインドされます。



6-2 クロス集計形式の場合

- ・ ゲージで、クロス集計形式の照会定義を選択した場合は、クロス集計対象となる項目を1つ選択します。
- ・ データにバインドしたクロス集計対象となる項目の最初の値が、ゲージの示す値となります。

ここでは、以下のようなクロス集計形式の定義を「ゲージ(スピードメーター)」にバインドする方法を例に説明します。

地域名	名古屋	大阪	東京
年	売上	売上	売上
2005	553640700.000	843800000.000	1383219190.000
2006	738600000.000	1087900000.000	1877000000.000

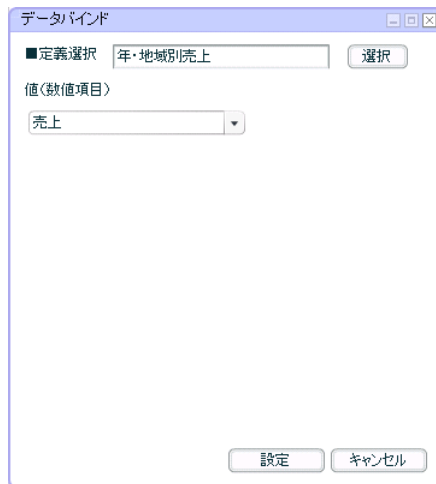
照会定義：「年・地域別売上」

スピードメーターの目盛の下限と上限には、プロパティウィンドウでそれぞれ[最小限界値]に「0」、[最大限界値]に「900000000」を設定します。

境界には[境界1の値]に「300000000」、[境界2の値]に「600000000」を設定します。

名前	値
背景色の透明度	100
数値フォーマット	あり
K,M表示	なし
小数点以下	0
フォントサイズ	10
前置文字列	
後置文字列	
キャプション	Chart
フォント色	FFFFFF
ゲージ外フォント色	000000
最小限界値	0
範囲1の色	FF3333
境界1の値	300000000
範囲2の色	FFFF33
境界2の値	600000000
範囲3の色	33FF33
最大限界値	900000000
アニメーション表示	なし
大目盛の数	4

[値 (数値項目)] で「売上」を選択します。



[売上] の最初の値 (「¥553640700」) が、メーターの示す値となります。

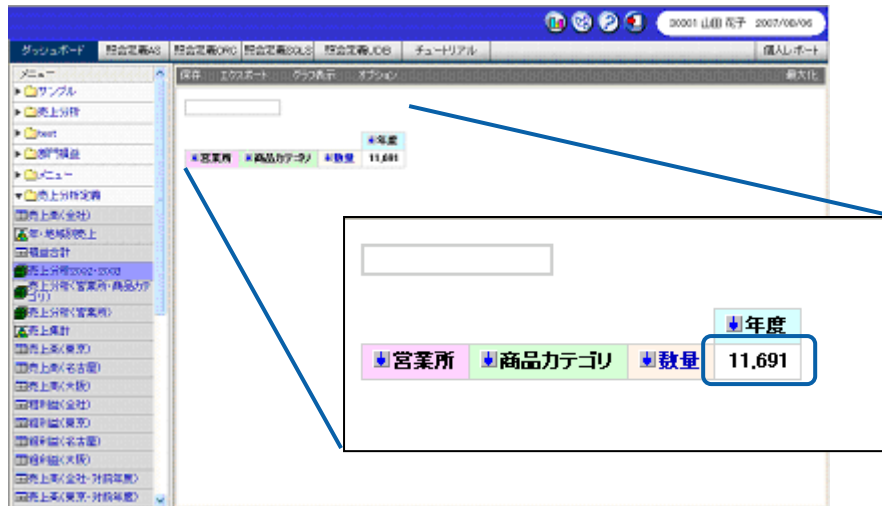


ゲージにクロス集計形式の照会定義をバインドする手順の詳細については、『第2章 6-1 標準表形式の場合』を参照してください。

6-3 キューブデータの場合

- ・ ゲージでキューブデータの照会定義を選択した場合は、数値次元の項目を1つ選択します。
- ・ データにバインドした次元・レベルの最初の値が、ゲージの示す値となります。

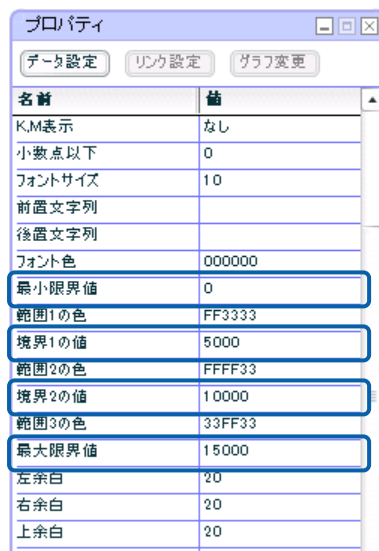
ここでは、以下のような形のキューブデータの定義を「ゲージ(LED(横))」にバインドする方法を例に説明します。



照会定義：「売上分析 2002・2003」

LED(横)の目盛の下限と上限には、それぞれ[最小限界値]に「0」、[最大限界値]に「15000」を設定します。

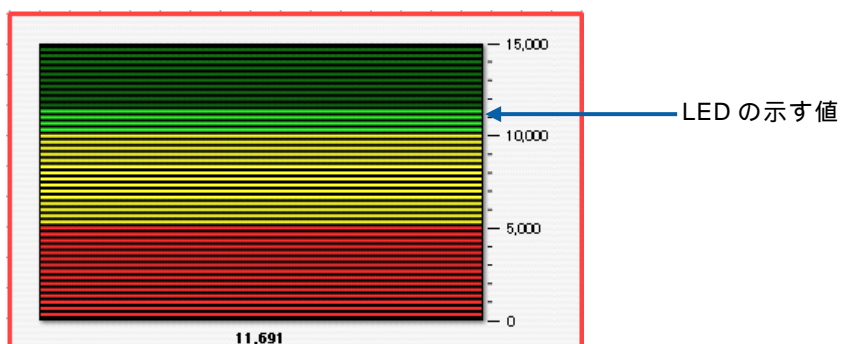
境界には、[境界1の値]に「5000」、[境界2の値]に「10000」を設定します。



[値 (数値項目)] で「数量」を選択します。



「数量」の最初の値 (11691) が、LED の示す値となります。



ゲージにキューブデータの照会定義をバインドする手順の詳細については、『第2章 6-1 標準表形式の場合』を参照してください。

7 表

選択した照会定義のデータを表形式で表示します。

- ・ データとして使用できる照会定義：標準表形式、クロス集計形式、キューブデータ

7-1 標準表形式の場合

- ・ 標準表形式の照会定義を選択した場合は、項目を複数設定します。
- ・ 項目にバインドした項目名が表の列項目になります。
- ・ [行と列を入れ替え]にチェックマークを付けると、表の行と列を入れ替えて表示できます。

ここでは、以下のような標準表形式の定義を「表」にバインドする方法を例に手順を説明します。

月	売上	粗利
4	220,000,000.000	55,000,000.000
5	294,300,000.000	73,400,000.000
6	366,600,000.000	91,600,000.000
7	256,600,000.000	64,200,000.000
8	288,800,000.000	145,800,000.000
9	440,000,000.000	110,000,000.000
10	256,600,000.000	64,200,000.000
11	366,600,000.000	91,600,000.000
12	605,000,000.000	151,300,000.000
1	256,600,000.000	64,200,000.000
2	554,600,000.000	138,600,000.000
3	440,000,000.000	110,000,000.000

照会定義：「売上・粗利(全社・対前年度)」

月	売上	粗利
4	220,000,000.000	55,000,000.000
5	294,300,000.000	73,400,000.000
6	366,600,000.000	91,600,000.000
7	256,600,000.000	64,200,000.000
8	288,800,000.000	145,800,000.000
9	440,000,000.000	110,000,000.000
10	256,600,000.000	64,200,000.000
11	366,600,000.000	91,600,000.000
12	605,000,000.000	151,300,000.000
1	256,600,000.000	64,200,000.000
2	554,600,000.000	138,600,000.000
3	440,000,000.000	110,000,000.000

列項目に「月」と「売上」と「粗利」を表示

手順

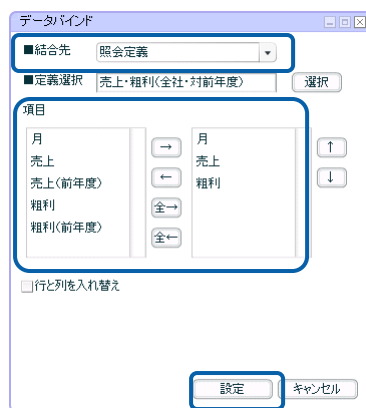
1. コンポーネント選択ウィンドウから表 (DataGrid) をドラッグして配置し、プロパティウィンドウの [データ設定] ボタンをクリックします。

[データバインド] ダイアログが表示されます。

2. [結合先] の [] ボタンをクリックし、「照会定義」を選択します。
3. [定義選択] の [選択] ボタンをクリックし、[照会定義選択] ダイアログで表にバインドする照会定義「売上・粗利(全社・対前年度)」を選択します。
4. [項目] の左側のリストで「月」、「売上」、「粗利」をそれぞれ選択し、[] ボタンをクリックします。

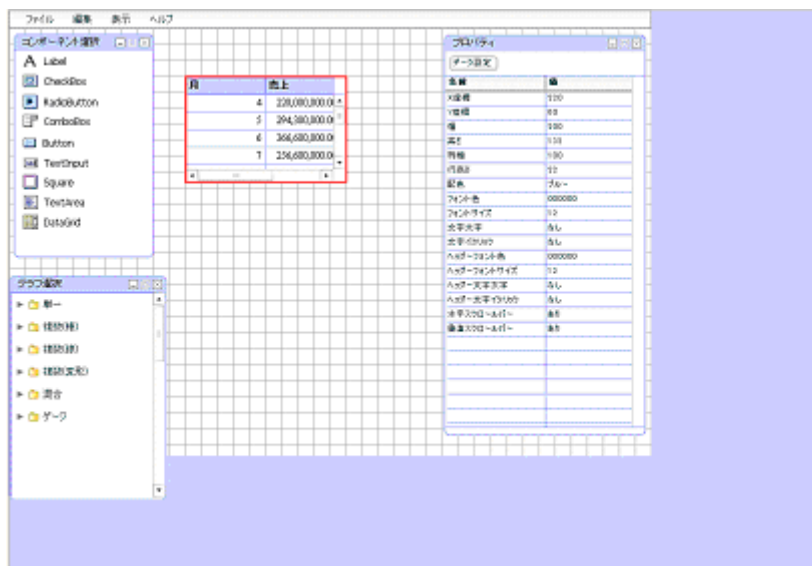
右側のリストに選択した項目が表示されます。

5. [設定] ボタンをクリックします。



表にデータがバインドされます。

適宜、表のサイズや位置を調整します。



7-2 クロス集計形式の場合

- ・ クロス集計形式の照会定義を選択した場合は、照会定義実行時と同じ形式で表が表示されます。
- ・ [行と列を入れ替え] にチェックマークを付けると、表の行と列を入れ替えて表示できます。

ここでは、以下のようなクロス集計形式の定義を「表」にバインドする方法を例に説明します。

照会定義：「売上集計」

年度	半期	四半期	売上	商品名			担当地区					
				数量	売上金額	粗利益	数量	売上金額	粗利益			
2002年度	1H	1Q	200204				6	152580	127998	20	188400	127060
2002年度	1H	1Q	200205									
2002年度	1H	1Q	200206									
2002年度	1H	2Q	200207				5	7450	5340	12	305160	255996
2002年度	1H	2Q	200208							6	152580	127998
2002年度	1H	2Q	200209	1	5080	3184	5	7450	5340			
2002年度	2H	3Q	200210	2	10160	6388	5	7450	5340			
2002年度	2H	3Q	200211									

拡大図はクロス集計表の一部です。

表を配置し、[データバインド] ダイアログの[結合先]で「照会定義」を選択し、照会定義を選択します。

照会定義と同じ形式で表が表示されます。

年度	半期	四半期	売上年月	数量	売上金額
2002年度	1H	1Q	200204		
2002年度	1H	1Q	200205		
2002年度	1H	1Q	200206		
2002年度	1H	2Q	200207		
2002年度	1H	2Q	200208		
2002年度	1H	2Q	200209	1	
2002年度	2H	3Q	200210		2

表にクロス集計形式の照会定義をバインドする手順の詳細については、『第2章 7-1 標準表形式の場合』を参照してください。

7-3 キューブデータの場合

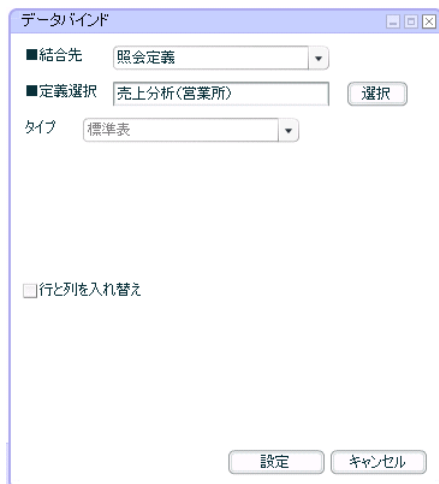
- ・ キューブデータの照会定義を選択した場合は、照会定義実行時と同じ形式で表が表示されます。
- ・ バインドできる照会定義は、展開されたキューブデータだけです。
- ・ [行と列を入れ替え] にチェックマークを付けると、表の行と列を入れ替えて表示できます。

ここでは、以下のように「標準表」タイプで展開されたキューブデータの定義を「表」にバインドする方法を例に説明します。

年度	中部営業所	九州営業所	北海道営業所	四国営業所	大關営業所	東北営業所
数量	1,995	2,815	562	923	1,734	1,011
売上金額	16,505,478	42,189,620	7,018,382	4,548,900	51,047,989	18,411,261
粗利益	8,913,711	22,517,777	1,587,522	2,732,708	15,528,989	11,826,117

照会定義：「売上分析（営業所）」

表を配置し、[データバインド] ダイアログの [結合先] で「照会定義」を選択し、照会定義を選択します。キューブデータの表のタイプが自動的に設定されます。



照会定義と同じ形式で表が表示されます。

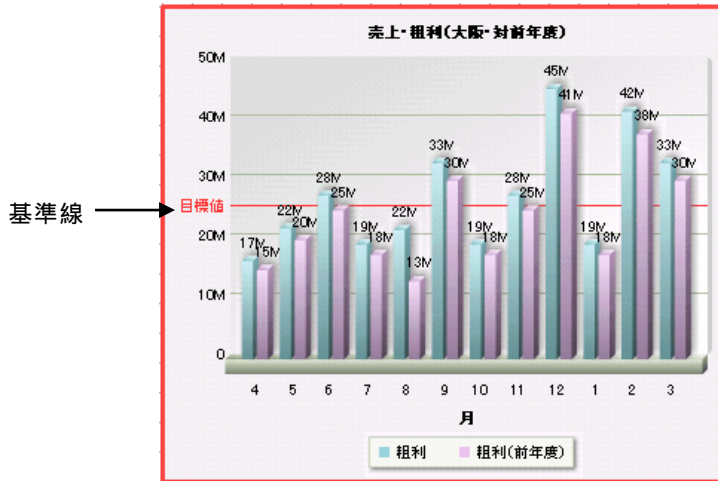
営業所	中部営業所	九州営業所	北海道営業所	四国営業所
数量	1,995	2,815	562	923
売上金額	16,505,478	42,189,620	7,018,382	4,548,900
粗利益	8,913,711	22,517,777	1,587,922	2,732,708

表にキューブデータの照会定義をバインドする手順の詳細については、『第 2 章 7-1 標準表形式の場合』を参照してください。

8 基準値の設定

データバインドしたグラフに基準値を設定することができます。

基準値を設定すると、グラフ上に基準線やゾーンが表示され、基準とする値に到達しているかいないかを簡単に判別できるようになります。

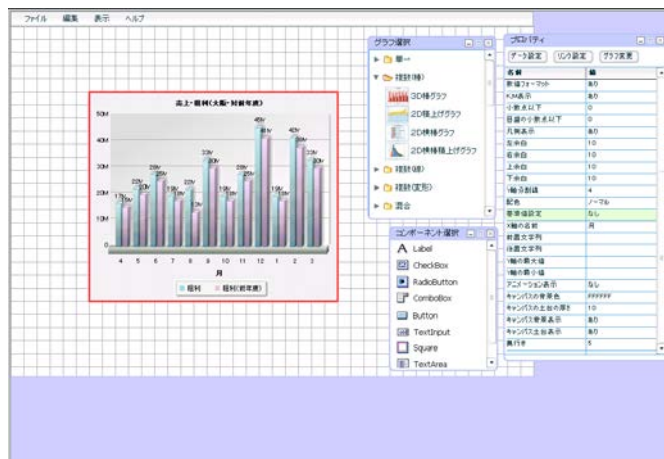


基準値を設定できるグラフは以下のとおりです。

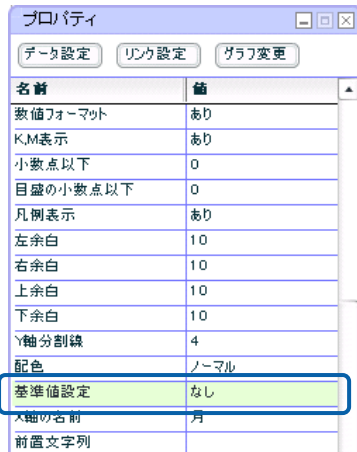
- ・ 複数（棒）：3D 棒グラフ、2D 積上げグラフ、2D 横棒グラフ、2D 積上げ横棒グラフ
- ・ 複数（線）：折れ線グラフ、2D エリアグラフ、
- ・ 複数（変形）：散布図、バブルチャート

ここでは、「3D 棒グラフ」に基準値を設定する場合を例に手順を説明します。

1. 基準線を設定したいグラフを選択します。



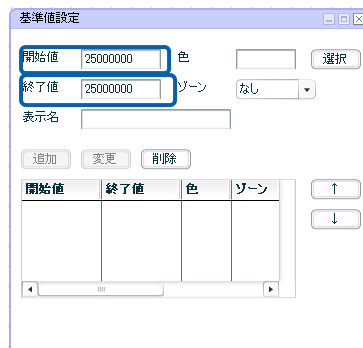
2. プロパティウィンドウの [基準値設定] の [値] の欄をクリックします。



[基準値設定] ダイアログが表示されます。

3. [開始値] と [終了値] に基準値となる値を入力します。

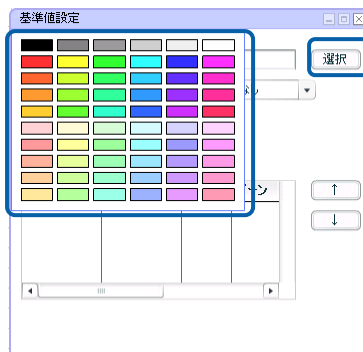
ここでは、[開始値] に「25000000」、[終了値] に「25000000」と入力します。
[開始値] と [終了値] に異なる値を設定し、[ゾーン] で「あり」を選択すると、帯状の太線で表示されます。「なし」を選択すると [開始値] と [終了値] を結ぶ線で表示されます。



4. [表示名] にグラフ上の基準線に表示する名前を入力します。

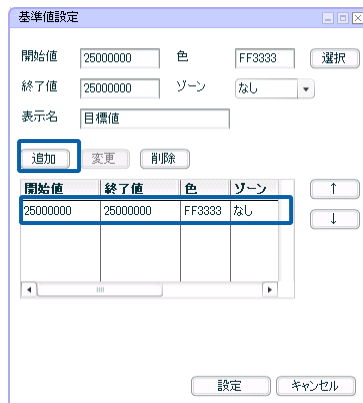
ここでは、「目標値」と入力します。

5. [色] の [選択] ボタンをクリックし、カラーチャートから基準線の色を選択します。



6. [追加] ボタンをクリックします。

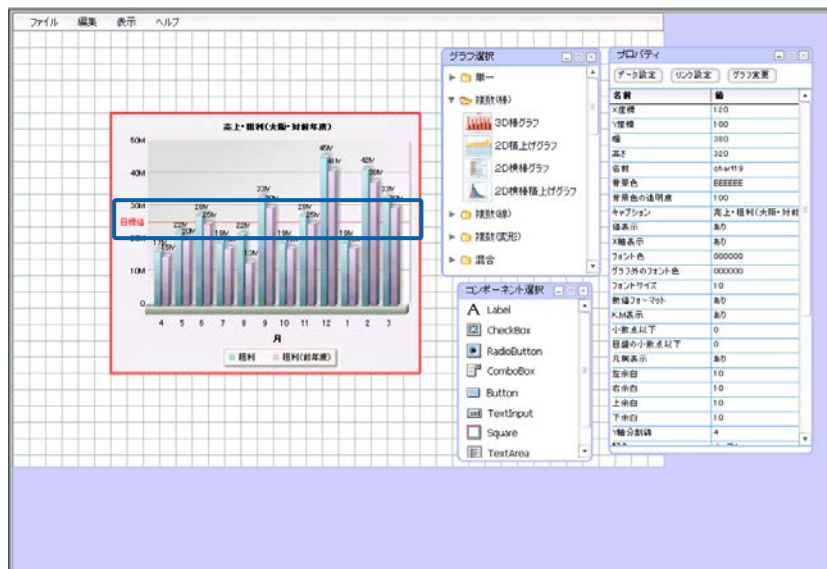
一覧に設定した基準値が表示されます。



7. 複数の基準値を設定する場合は、手順 3~6 を繰り返します。

8. [設定] ボタンをクリックします。

グラフに基準値が設定されます。



散布図とバブルチャートは X 軸と Y 軸にそれぞれ基準値を設定することができません。この場合、[ゾーン] は「あり」に固定されます。ただし、[開始値] と [終了値] に同じ値を設定したときは、線で表示されます。

9 グラフの変更

データバインドしたグラフの種類を変更することができます。

変更後のグラフには、バインドされているデータが引き継がれます。また、グラフのサイズや配置、キャプションなど引き継ぎ可能なものは引き継がれ、元のグラフに固有のプロパティは削除されます。

グラフの種類やバインドされている照会定義の種類によって、変更できるグラフの種類が異なります。

バインドデータ：標準表形式

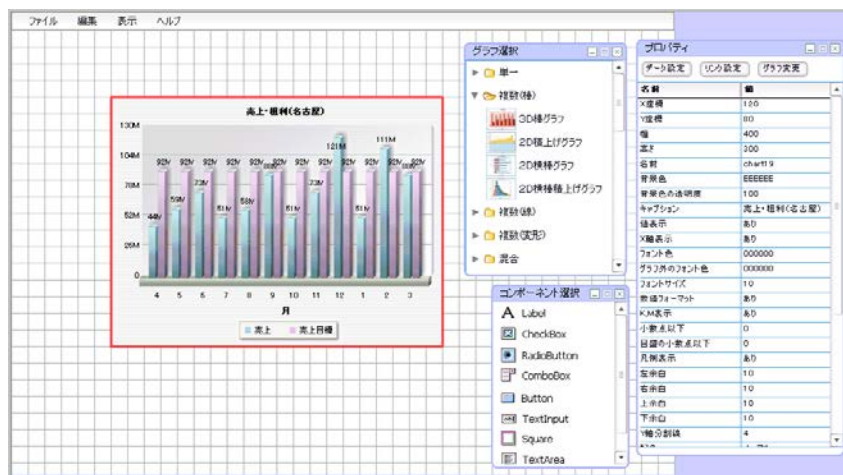
変更元 \ 変更先	単一グラフ	複数グラフ	複数(変形)	混合グラフ	ゲージ
単一グラフ					×
複数グラフ					×
複数(変形)グラフ					×
混合グラフ					×
ゲージ	×	×	×	×	

バインドデータ：クロス集計形式

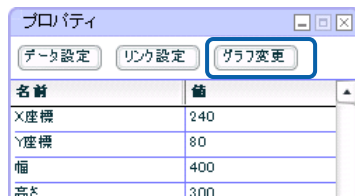
変更元 \ 変更先	単一グラフ	複数グラフ	複数(変形)	混合グラフ	ゲージ
単一グラフ	-	-	-	-	-
複数グラフ	×			×	×
複数(変形)グラフ	×			×	×
混合グラフ	-	-	-	-	-
ゲージ	×	×	×	×	

ここでは、標準表形式のデータがバインドされた、「3D棒グラフ(複数(棒))」を「レーダーチャート(複数(線))」に変更する場合を例に手順を説明します。

1. キャンバス上で種類を変更したいグラフを選択します。



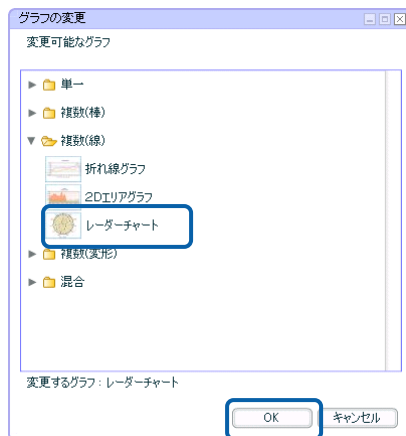
2. プロパティウィンドウの [グラフ変更] ボタンをクリックします。



[グラフ変更] ダイアログが表示されます。

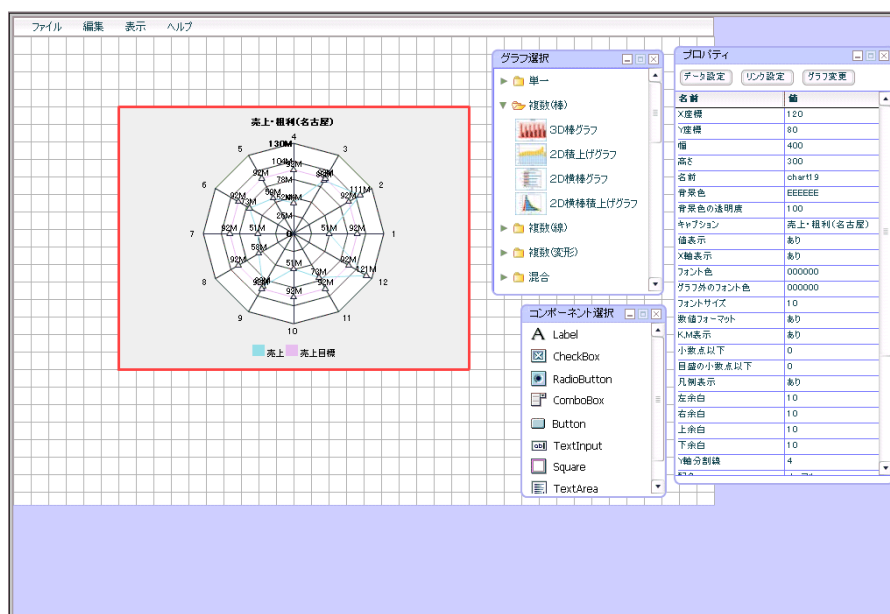
3. [変更可能なグラフ] のリストで変更後のグラフを選択し、[OK] ボタンをクリックします。

ここでは、[複数 (線)] の [▶] をクリックし、[レーダーチャート] を選択します。



グラフの種類やバインドされている照会定義の種類によって、変更できるグラフの種類が異なります。選択できないグラフは、[グラフ変更] ダイアログのリストに表示されません。

- 3D 棒グラフがレーダーチャートに変更されます。

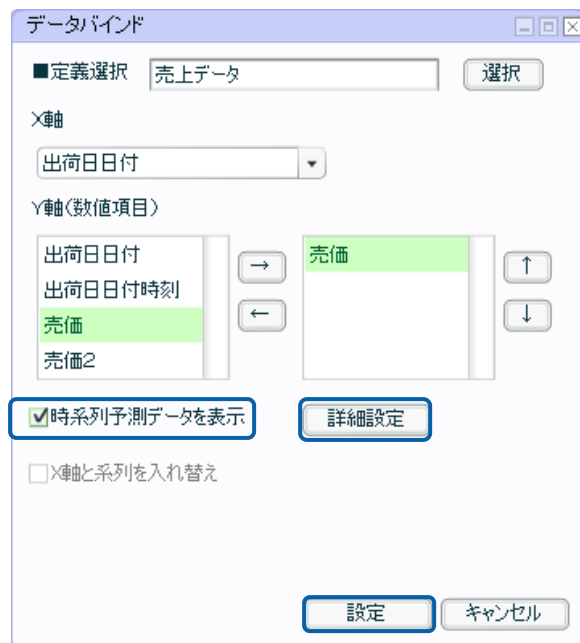


10 予測分析

時系列に並んだ実績値を分析し、予測値をグラフで表示することができます。

10-1 使用方法

1. ダッシュボードエディタで「複数(線) 折れ線グラフ」を選択し、「データ設定」ボタンをクリックします。
2. Y軸(数値項目)が選択されていると、「時系列予測データを表示」チェックボックスがチェック可能になりますので、チェックを入れます。



3. 「設定」ボタンをクリックします。
4. 詳細な設定をおこなう場合は「設定」ボタンをクリックする前に、「詳細設定」ボタンをクリックします。

詳細設定ダイアログが表示されますので、各種項目を設定後に「設定」ボタンをクリックします。

設定できる内容は以下のとおりです。

設定項目		設定内容
予測設定	予測期間の割合	「10%」～「90%」の中から選択します
集計設定	単位	「集計なし」、「月」の中から選択します
	種別	単位に「月」を選択した時に「合計」、「平均」、「最大」、「最小」の中から選択します
項目設定(1)	予測項目名	項目の名前を指定します
	線の種類	「実線」、「点線」の中から選択します
	線の色	「自動」、「予測対象項目と同じ」の中から選択します
表示設定	境界線	「あり」、「なし」の中から選択します

1 変更したい項目を選択し、「変更」ボタンをクリックします。

10-2 注意事項

グラフの種類

本機能は、「複数(線) 折れ線グラフ」の場合のみ使用することができます。

ダッシュボードエディタにおいて、他のグラフを選択した場合は、本機能の設定項目が表示されません。

参照する定義の種類

本機能は、参照する定義が「標準表」の場合のみ使用することができます。

「クロス表」、「キューブ定義」を選択した場合は、本機能の設定項目が表示されません。

X軸に指定できるデータの型と書式

「X軸」に指定できるデータの型と書式は以下のとおりです。

データ型	データ書式	対応()、非対応(x)
日付型	YYYY-MM-DD YYYY-M-D YYYY/MM/DD YYYY/M/D YYYYMMDD	
	上記以外	x
日付時刻型	YYYY-MM-DD * YYYY-M-D * YYYY/MM/DD * YYYY/M/D * YYYYMMDD*	(2)
	上記以外	x
文字列型(年月日)	YYYY-MM-DD * YYYY-M-D * YYYY/MM/DD * YYYY/M/D * YYYYMMDD *	(2)
	上記以外	x
文字列型(年月)	YYYY-MM YYYY-M YYYY/MM YYYY/M YYYYMM	
	上記以外	x
数値型		x

2 時、分、秒、ミリ秒の値は使用されません。

Y軸(数値項目)に指定できるデータの型

「Y軸(数値項目)」で指定する値項目のデータ型は以下のとおりです。

データ型	対応()、非対応(x)
数値型	
文字列型(数値文字列)	
文字列型(数値文字列以外)	x
日付型	x
日付時刻型	x

実行エラーになるパターン

以下の場合、実行時にエラーとなります。

- ・ 「X軸に指定できるデータの型と書式」で非対応(x)のデータ型とデータ書式の場合
- ・ X軸のデータが空の場合
- ・ X軸のデータが日時順でソートされていない場合
- ・ 「Y軸(数値項目)に指定できるデータの型」で非対応(x)のデータ型の場合
- ・ 最大データ件数が20000件を超える場合(予測データを含む)

例)「予測期間の割合」が「50%」の時、予測に使用するデータが10000件より大きい場合、エラーとなります。

- ・ 予測対象項目のデータ期間が、
X軸のデータ型が年月日の時：8日に満たない場合
X軸のデータ型が年月の時：93日に満たない場合

第 3 章

コンポーネントによる
データの更新・検索・表示

1 コンポーネントの種類とデータ取得方法

コンポーネントを利用すると、ダッシュボード上にテキストや四角形を配置したり、グラフを更新することができます。また、表形式でデータを表示することもできます。

ダッシュボードエディタには、コンポーネントとして、以下の9種類が用意されています。

各コンポーネントの機能とプロパティの設定は以下のとおりです。

コンポーネントの種類	機能	プロパティの設定
ラベル (Label)	<ul style="list-style-type: none"> ダッシュボード上にテキストを表示 	<ul style="list-style-type: none"> [テキスト] に表示したいテキストを入力
チェックボックス (CheckBox)	<ul style="list-style-type: none"> グラフを表示するための検索条件として使用 チェックボックスにチェックマークを付けてボタンをクリックすると、「値」で検索した結果がグラフに表示 	<ul style="list-style-type: none"> @INPUT(@GET("変数名"))を含む定義をバインドしたグラフを配置し、チェックボックスのプロパティで @INPUT(@GET()) で指定した変数名を [プロパティ名] に、検索したい値を [値] に入力する
ラジオボタン (RadioButton)	<ul style="list-style-type: none"> グラフを表示するための検索条件として使用 ラジオボタンを1つ選択し、「ボタン」をクリックすると、選択したラジオボタンの「値」で検索した結果がグラフに表示 「自動で更新」の機能を使うと、「ボタン」がなくても結果を表示可能 	<ul style="list-style-type: none"> 2つ以上の配置が必要 @INPUT(@GET("変数名"))を含む定義をバインドしたグラフを配置し、ラジオボタンのプロパティで @INPUT(@GET()) で指定した変数名を [プロパティ名] に、検索したい値を [値] に入力する (『第3章 2-1 ラジオボタンの場合』参照)
コンボボックス (ComboBox)	<ul style="list-style-type: none"> グラフを表示するための検索条件として使用 コンボボックスで値を1つ選択しボタンをクリックすると、選択した「表示名」の「値」で検索した結果がグラフに表示 「自動で更新」の機能を使うと、「ボタン」がなくても結果を表示可能 	<ul style="list-style-type: none"> @INPUT(@GET("変数名"))を含む定義をバインドしたグラフを配置し、コンボボックスの [機能設定] ダイアログで @INPUT(@GET()) で指定した変数名を [プロパティ名] に、ドロップダウンリストに表示するテキストを [表示名] に、それに対応する値を [値] に入力 (『第3章 2-2 コンボボックスの場合』参照)
ボタン (Button)	<ul style="list-style-type: none"> チェックボックス、ラジオボタン、コンボボックス、テキストインプットを使用したときに、データを送信し、グラフを更新する 「自動更新」の機能を使うと、指定した時間間隔でグラフのデータを自動的に更新可能 (『第3章 3 自動更新の設定』参照) 	-

コンポーネントの種類	機能	プロパティの設定
テキスト入力 (TextInput)	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフを表示するための検索条件として使用 ・テキスト入力に値を入力し、ボタンをクリックすると、入力した「値」で検索した結果がグラフに表示 	<ul style="list-style-type: none"> ・@INPUT(@GET("変数名"))を含む定義をバインドしたグラフを配置し、テキスト入力のプロパティで@INPUT(@GET())で指定した変数名を[プロパティ名]に入力
スクエア (Square)	<ul style="list-style-type: none"> ・ダッシュボード上に四角形を表示 	-
テキストエリア (TextArea)	<ul style="list-style-type: none"> ・ダッシュボード上に複数行にわたるテキストを表示 	-
表 (DataGrid)	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフにバインドされている照会定義のデータを表形式で表示 (『第3章 4 データの表示』参照) ・表に照会定義をバインド (『第2章 7 表』参照) 	-






コンポーネントによって設定する内容が異なります。
各コンポーネントのプロパティについては、『付録 2 コンポーネントのプロパティ』を参照してください。

2 データの更新と検索

ラジオボタン、チェックボックス、コンボボックス、テキストインプット、およびボタンを、@INPUT(@GET())を使用した定義でバインドしたグラフとともに利用すると、各コンポーネントの値によってデータを検索し、グラフを更新することができます。

コンポーネントを利用してグラフのデータを更新するためのダッシュボード定義を作成するには、以下の手順で行います。

1 照会定義の作成	@INPUT(@GET())を使用した照会定義を作成します。 使用する本製品の機能 ... 定義設定
	
2 グラフの配置	グラフを配置し、「1.照会定義の作成」で作成した照会定義をグラフにデータバインドします。 使用する本製品の機能 ... ダッシュボードエディタ
	
3 コンポーネントの配置	ラジオボタンやボタンなどのコンポーネントを配置し、「データ更新」の機能とプロパティを設定します。 ダッシュボードエディタ上で、@INPUT(@GET("変数名"))で指定した「変数名」と、検索する「値」を設定します。 使用する本製品の機能 ... ダッシュボードエディタ
	
4 ダッシュボード定義の実行	保管したダッシュボード定義を Web 上の定義実行画面で実行し、コンポーネントを使用します。 本製品を実行

2-1 ラジオボタンの場合

ラジオボタンを使用したダッシュボード定義の作成方法を前ページの作成手順にしたがって、説明します。

ここでは、以下のように表示したい地域名のラジオボタンを選択し、[データ更新] ボタンをクリックすると、目的の地域のデータだけが表示されるグラフの作成を例に手順を説明します。



1 照会定義の作成

検索条件に @INPUT(@GET("変数名")) を使用した照会定義を作成します。

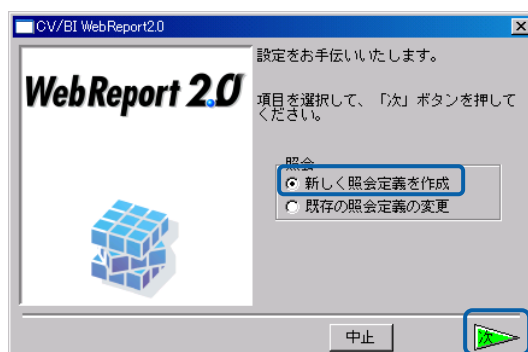
「東京」、「名古屋」、「大阪」という3つの地域があり、地域名を指定して、それぞれの売上データを見るレポートを作成します。

以下の手順で行います。

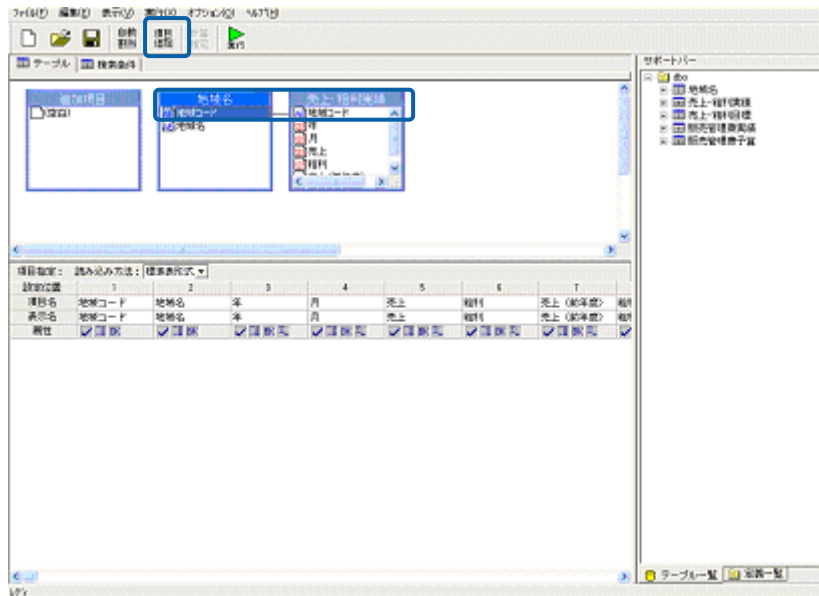
1. 本製品にログインし、[定義設定] ボタンをクリックします。



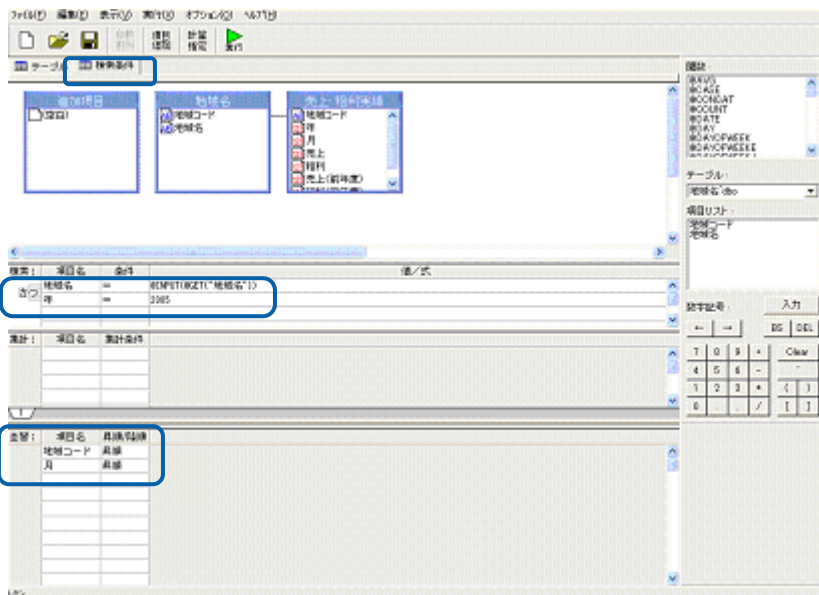
2. 定義設定ウィザードを起動し、[新しく照会定義を作成] を選択します。[次] ボタンをクリックします。



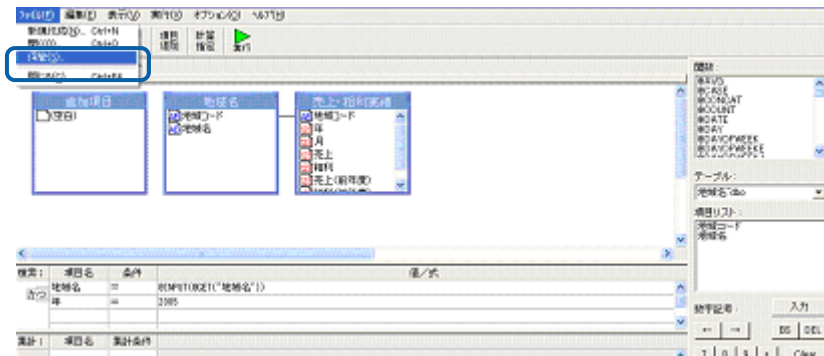
3. テーブル指定域に、「地域名テーブル」、「売上・粗利実績テーブル」をドロップします。
4. 「地域コード」でテーブル結合し、[自動割当] ボタンで項目を設定します。



5. [検索条件] タブをクリックします。
6. 検索条件に以下の設定をします。
 - | 「地域名」 = @INPUT(@GET("地域名")) か?
 - | 「年」 = 2005
7. 並替条件に、以下の設定をします。
 - | 「地域コード」昇順
 - | 「月」昇順



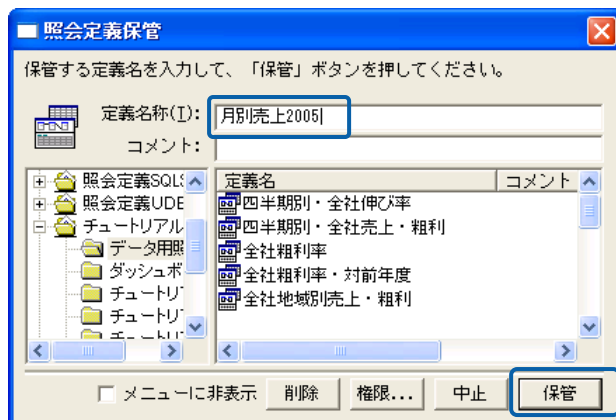
8. [ファイル]メニューの[保管]を選択します。



[照会定義保管]ダイアログが表示されます。

9. 任意のメニュー、フォルダを選択し、[定義名称]に名前を入力し、[保管]ボタンをクリックします。

ここでは、「チュートリアル」メニューの「データ用照会定義」というフォルダに、「月別売上2005」という名前で保管します。



10. 定義設定画面を終了します。

2 グラフの配置

ダッシュボードエディタを起動し、ダッシュボード定義を作成します。

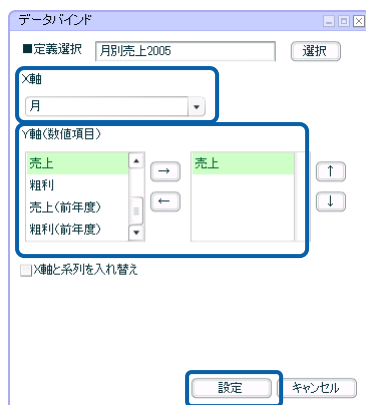
グラフを配置し、「1 照会定義の作成」で作成した照会定義（「月別売上2005」）をバインドします。

以下の手順で行います。

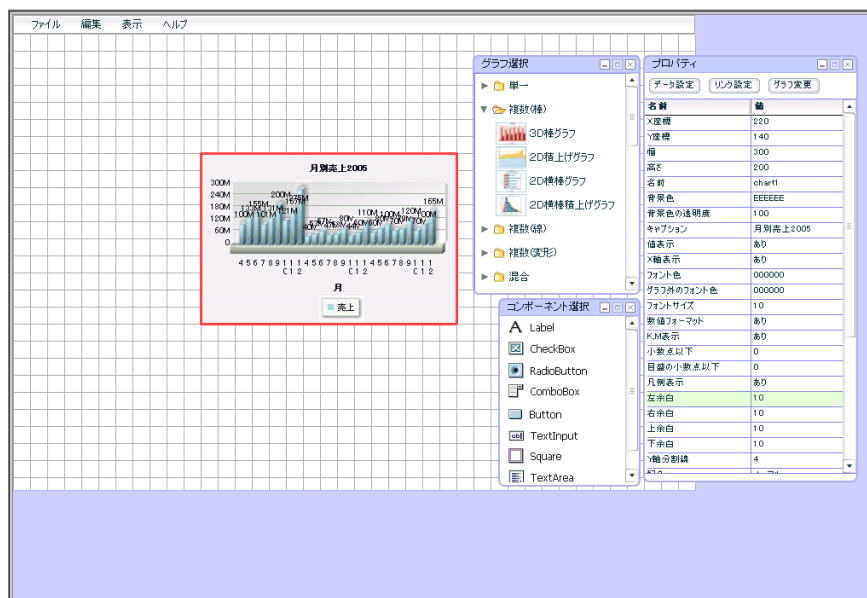
1. ダッシュボードエディタを起動します。
2. キャンバス上にグラフを配置します。

ここでは、3D棒グラフをグラフ選択ウィンドウからドラッグ&ドロップします。

3. プロパティウィンドウの [データ設定] ボタンをクリックします。
[データバインド] ダイアログが表示されます。
4. [定義選択] の [選択] ボタンをクリックし、[照会定義選択] ダイアログで照会定義を選択します。
ここでは、「1 照会定義の作成」で作成した「月別売上 2005」を選択します。
5. [X 軸] に「月」、[Y 軸 (数値項目)] に「売上」を設定し、[設定] ボタンをクリックします。



グラフにデータがバインドされます。



このときは、@INPUT(@GET())の検索条件が無視された状態でデータが表示されます。



複数グラフへのデータバインドの手順については、『第2章 3 複数グラフ』を参照してください。

3 コンポーネントの配置

ラジオボタンとボタンを配置し、コンポーネントに「データ更新」の機能とプロパティを設定します。

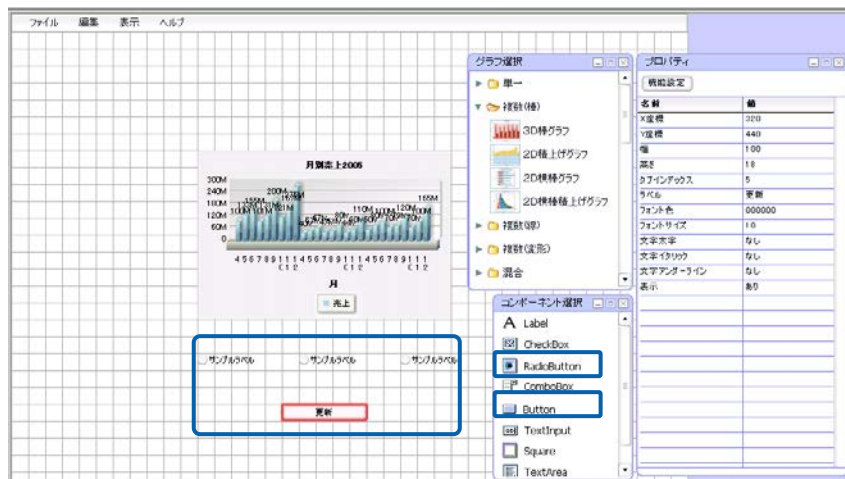


チェックボックス、ラジオボタン、コンボボックス、テキストインプットを配置する際には、選択されたデータをサーバーへ送信するためのボタンが必要です。

ただし、ラジオボタンやコンボボックスのデータ更新の機能で「自動で更新」の機能を設定した場合は、ボタンがなくても、値を選択するだけでデータを更新することができます。

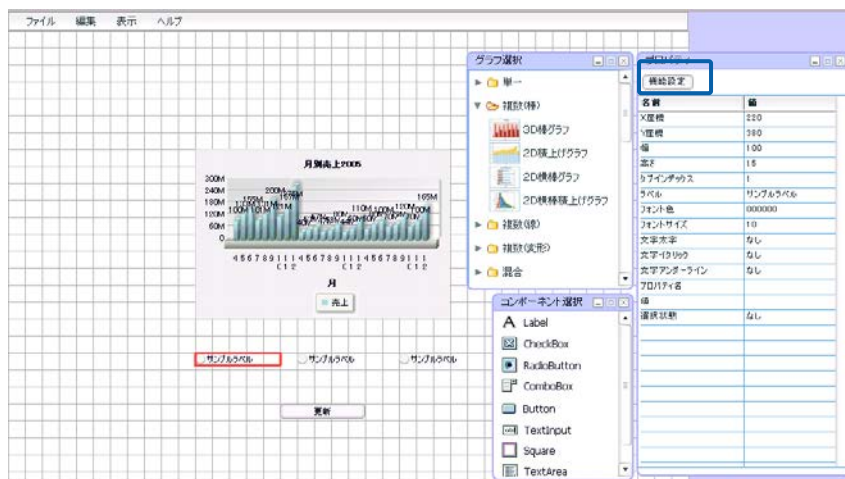
以下の手順で行います。

1. コンポーネント選択ウィンドウからラジオボタンを3つ、ボタンを1つドラッグ&ドロップし、キャンバス上に配置します。



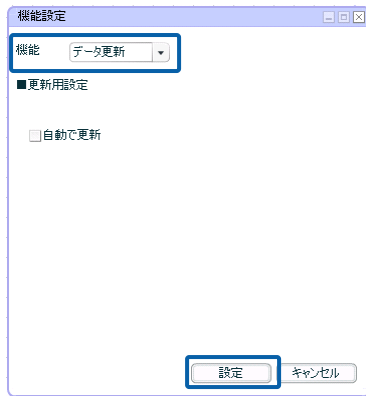
2. ラジオボタンに「データ更新」の機能を設定します。

図の のラジオボタンを選択し、プロパティウィンドウの [機能設定] ボタンをクリックします。



[機能設定] ダイアログが表示されます。

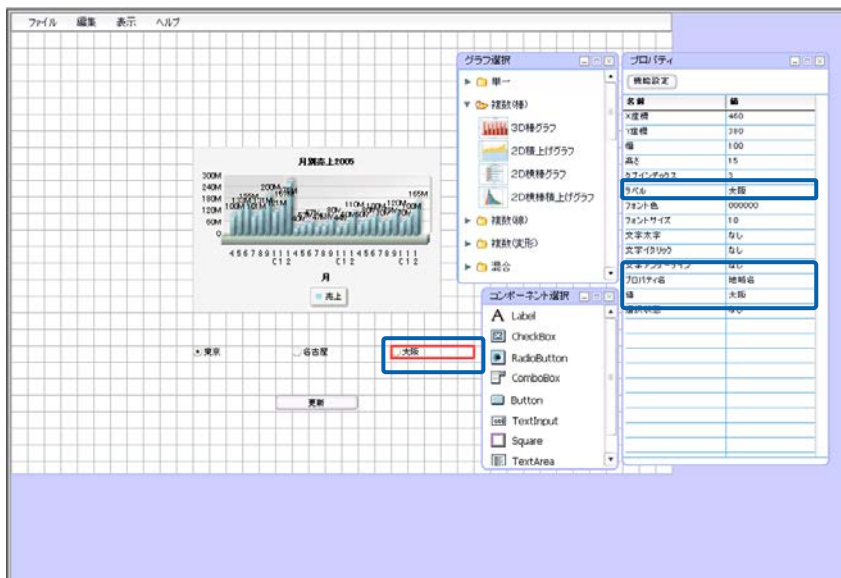
3. [機能]の[]ボタンをクリックし、[データ更新]を選択します。
4. [設定]ボタンをクリックします。



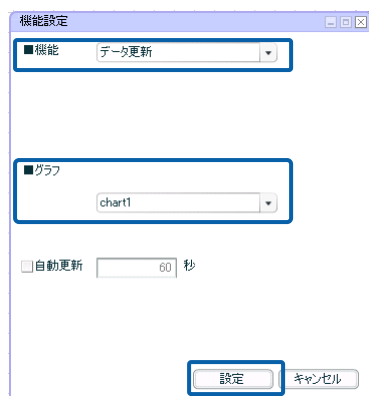
[自動で更新]チェックボックスにチェックマークを付けると、ダッシュボード定義実行時にボタンが配置されていなくても、値を選択するだけで、データが更新されます。

5. 手順 2~4 を繰り返し、 のラジオボタンも同様に設定します。
6. ラジオボタンのプロパティを設定します。
ラジオボタンを選択し、プロパティウィンドウで[プロパティ名]に照会定義の@INPUT(@GET("変数名"))で指定した変数名を、[値]に検索したい値を設定します。

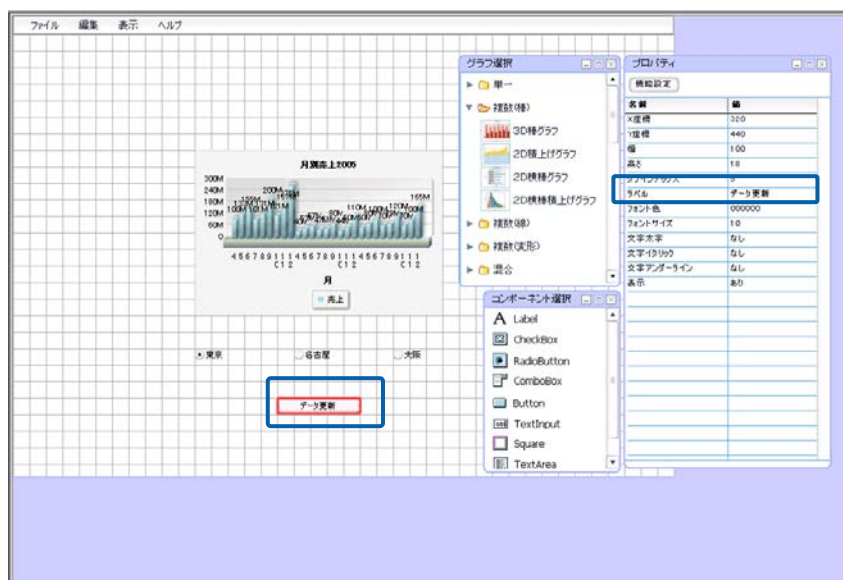
プロパティ	ラジオボタン		
	のラジオボタン	のラジオボタン	のラジオボタン
[ラベル]	「東京」	「名古屋」	「大阪」
[プロパティ名]	「地域名」	「地域名」	「地域名」
[値]	「東京」	「名古屋」	「大阪」
[選択状態]	「あり」	「なし」	「なし」



7. ボタンに「データ更新」の機能を設定します。
ボタンを選択し、プロパティウィンドウの [機能設定] ボタンをクリックします。
[機能設定] ダイアログが表示されます。
8. [機能] の [] ボタンをクリックし、「データ更新」を選択します。
9. [グラフ] の [] ボタンをクリックし、データを更新したいグラフを選択します。
ここでは、キャンパス上の 3D 棒グラフの「名前」(「chart1」) を選択します。
グラフの名前は、プロパティウィンドウの [名前] で確認できます。
10. [設定] ボタンをクリックします。



11. ボタンのラベルを設定します。
ボタンを選択し、プロパティウィンドウで [ラベル] にボタンに表示する名前を入力します。
ここでは、「データ更新」と入力します。



12. 編集した内容をダッシュボード定義として保管します。
[ファイル] メニューの [保管] を選択し、「月別売上 (地域) 2005」という名前で保管します。
13. ダッシュボードエディタを終了します。

4 ダッシュボード定義の実行

Web 実行画面で保管したダッシュボード定義を実行し、ラジオボタンの設定が正しくできているか確認します。

以下の手順で行います。

1. Web 実行画面でメニュー、フォルダを選択し、保管した定義名（「月別売上（地域）2005」）をクリックします。

初期状態では、「東京」のラジオボタンの [選択状態] が「あり」に設定されているので、東京のデータだけが表示されます。



2. 変更したい地域名のラジオボタンをクリックし、[データ更新] ボタンをクリックします。

ここでは、「名古屋」を選択します。

グラフが更新され、名古屋のデータだけが表示されます。



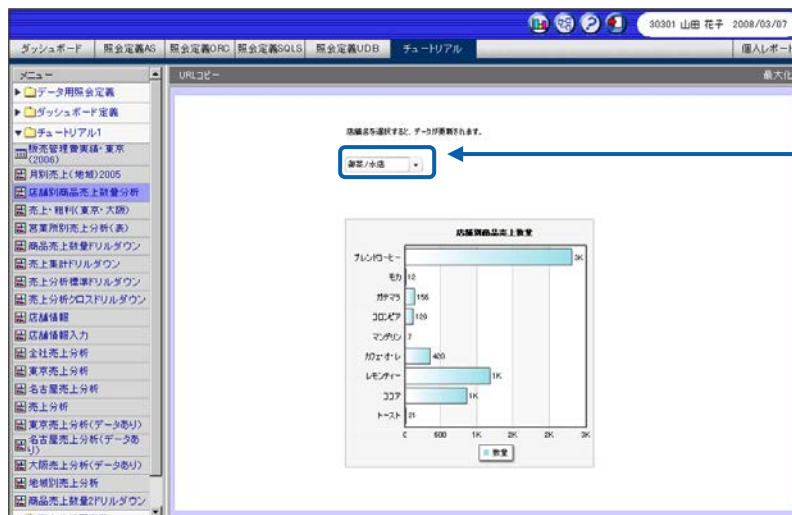
2-2 コンボボックスの場合

ここでは、コンボボックスを使用したダッシュボード定義の作成方法を説明します。

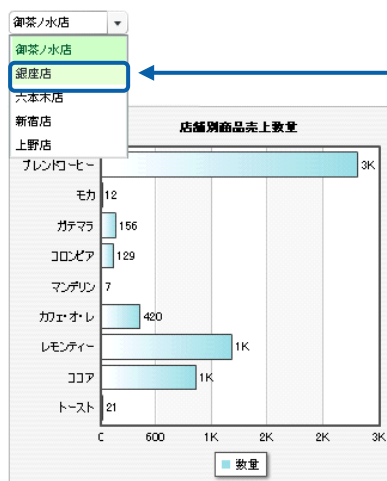
コンボボックスにはボタンと組み合わせて使用しなくても、コンボボックスで値を選択するだけでデータを更新する機能が用意されています。

ここでは、以下のように店舗名を選択すると、その商品別売上データが表示されるグラフの作成を例に手順を説明します。

手動でコンボボックスの値を設定する方法と、存在する「照会定義」の結果の「フィールド」で指定された列の値から設定する方法があります。



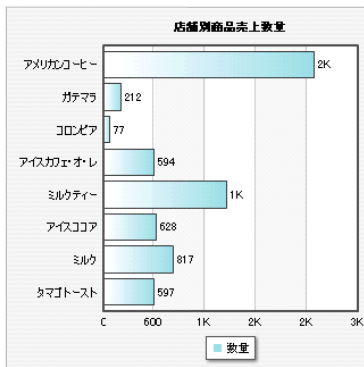
店舗名を選択すると、データが更新されます。



「銀座店」のデータを検索

店舗名を選択すると、データが更新されます。

銀座店



「銀座店」の「店舗別商品売上数量」

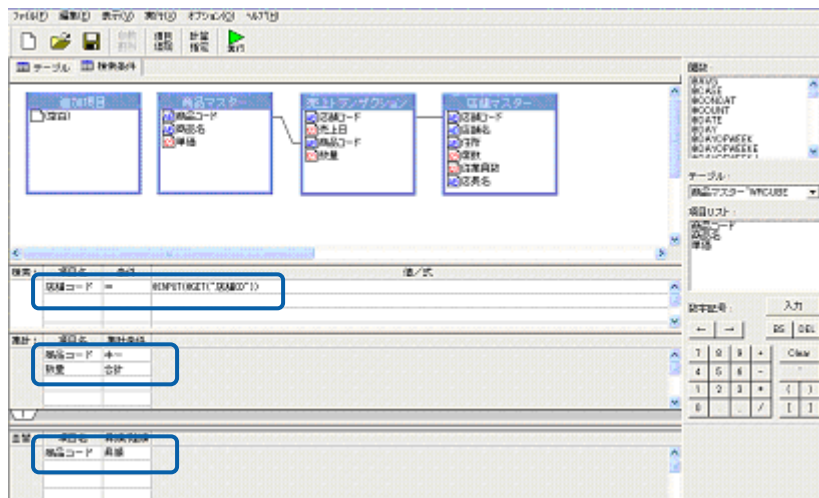
手順（手動で値を設定する場合）

1. 検索条件「（@INPUT(@GET("変数名"))）」を使用した照会定義を作成します。

「御茶ノ水店」「銀座店」「六本木店」「新宿店」「上野店」などの店舗名を含む商品別の売上データを、店舗コードで照会し、それぞれの店舗の商品別売上数量を見るレポート（「店舗別商品売上数量」）を作成します。

検索条件を以下のように設定します。

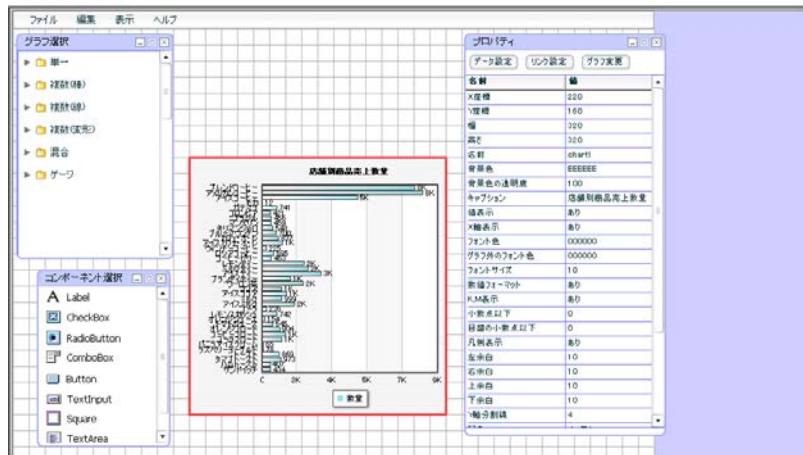
- 検索 : 「店舗コード」 = @INPUT(@GET("店舗 CD"))
- 集計 : 「商品コード」のキー
「数量」の合計
- 並び替え条件 : 「商品コード」の昇順



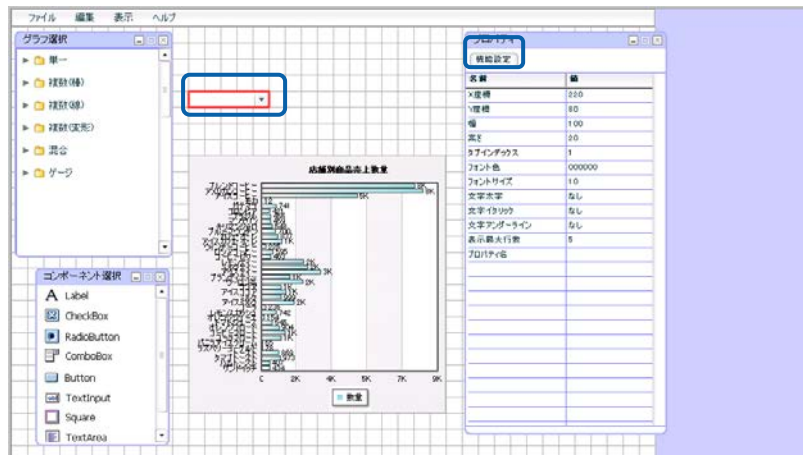
照会定義の作成については、『第3章 2-1 ラジオボタンの場合』の「1 照会定義の作成」を参照してください。

2. 2D 横棒グラフを配置し、グラフに 1 で作成した照会定義（「店舗別商品売上数量」）をバインドします。

ここでは、[X軸]に「商品名」、[Y軸（数値項目）]に「数量」を設定します。

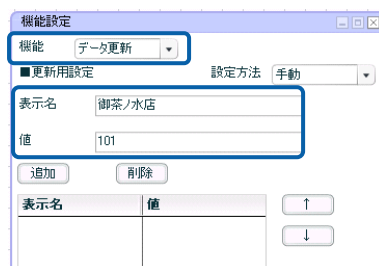


3. コンポーネント選択ウィンドウからコンボボックスを1つドラッグ&ドロップし、キャンバス上に配置します。
4. コンボボックスを選択し、プロパティウィンドウの[機能設定]ボタンをクリックします。



[機能設定]ダイアログが表示されます。

5. [機能]の[]ボタンをクリックし、[データ更新]を選択します。
6. [表示名]に「御茶ノ水店」、[値]に「101」と入力します。



7. [追加] ボタンをクリックします。

一覧に設定した内容が表示されます。

8. 手順 6、7 を繰り返して、コンボボックスに表示する [表示名] と [値] を設定します。

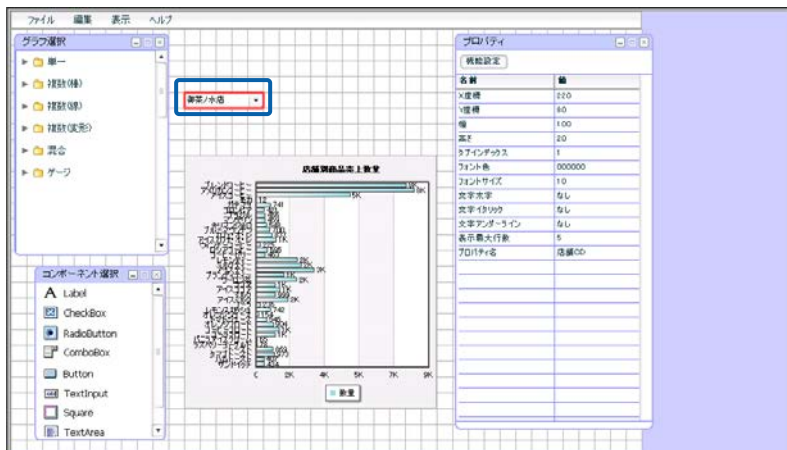
[表示名]	[値]
「銀座店」	「102」
「六本木店」	「103」
「新宿店」	「104」
「上野店」	「105」

9. [プロパティ名] に照会定義の @INPUT(@GET("変数名")) で指定した変数名「店舗 CD」を入力します。

10. [自動で更新] チェックボックスにチェックマークを付けます。

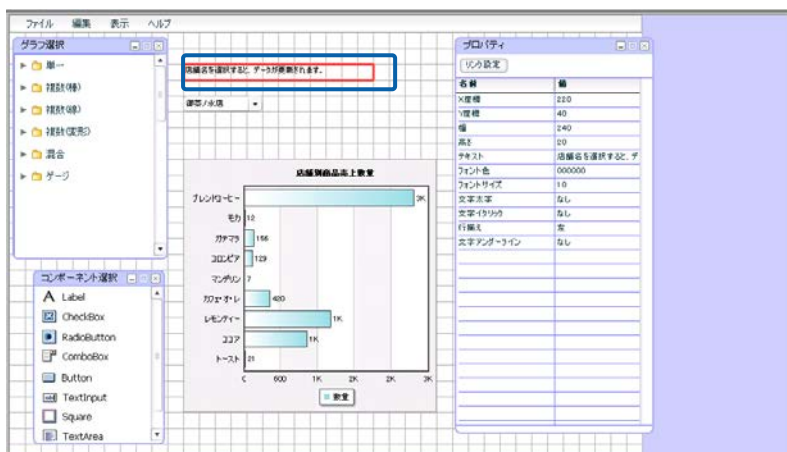
11. [設定] ボタンをクリックします。

コンボボックスに、最初に設定した表示名の「御茶ノ水店」が表示されます。



- 必要に応じて、コンボボックスの上に使用方法を示すテキストを配置します。

コンポーネント選択ウィンドウからラベルをドラッグ&ドロップで配置し、プロパティウィンドウの[テキスト]に「店舗名を選択すると、データが更新されます。」と入力します。



- 編集した内容をダッシュボード定義として保管します。
[ファイル]メニューの[保管]を選択し、「店舗別商品売上数量分析」という名前で保管します。
- ダッシュボードエディタを終了します。
- Web 実行画面で保管したダッシュボード定義を実行し、コンボボックスの設定が正しくできているか確認します。

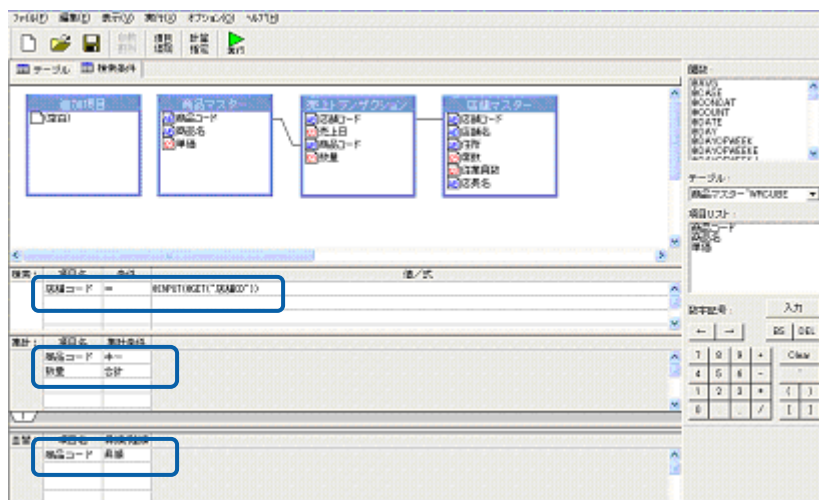
手順（定義の結果から値を取得する場合）

1. 検索条件「（@INPUT(@GET("変数名"))）」を使用した照会定義を作成します。

「御茶ノ水店」「銀座店」「六本木店」「新宿店」「上野店」などの店舗名を含む商品別の売上データを、店舗コードで照会し、それぞれの店舗の商品別売上数量を見るレポート（「店舗別商品売上数量」）を作成します。

検索条件を以下のように設定します。

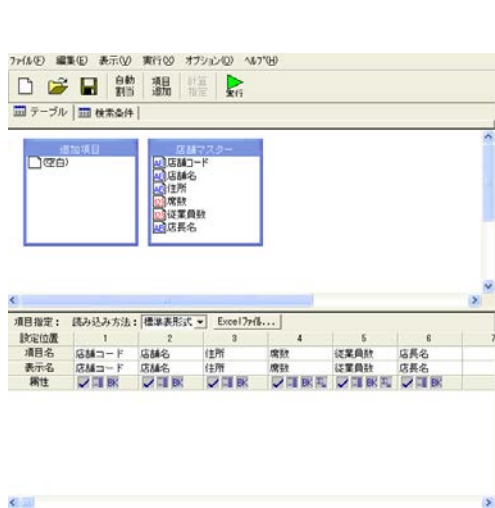
- ┆ 検索 : 「店舗コード」 = @INPUT(@GET("店舗 CD"))
- ┆ 集計 : 「商品コード」のキー
 「数量」の合計
- ┆ 並び替え条件 : 「商品コード」の昇順



照会定義の作成については、『第3章 2-1 ラジオボタンの場合』の「1 照会定義の作成」を参照してください。

2. コンボボックスの値として使用する結果を持つ照会定義を作成します。

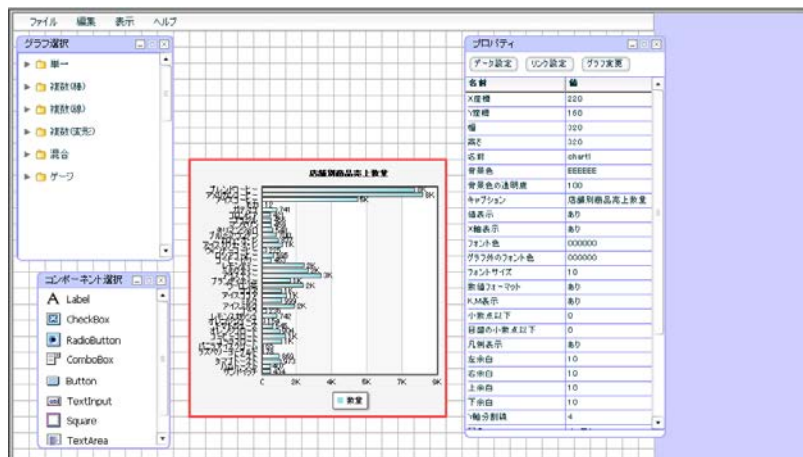
ここでは、店舗名や住所などの店舗情報を持った「店舗マスター」テーブルを照会する定義（「店舗情報一覧」）を作成します。



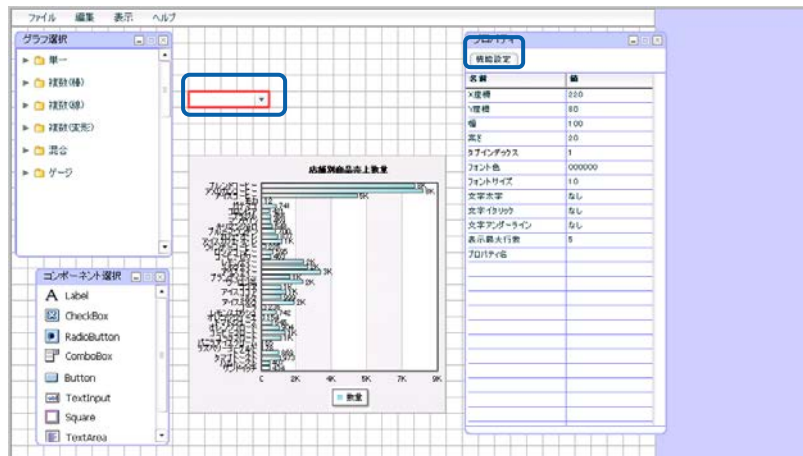
店舗コード	店舗名	住所	席数	従業員数	店長名
101	御茶ノ水店	東京都千代田区神田2-9-8	163	12	藤田 真之介
102	銀座店	東京都中央区守屋5-12-2カインビル5F	72	8	堀口 幸夫
103	六本木店	東京都神楽川区九本3-3-15マキビル501	59	5	櫻井 芳太郎
104	新宿店	東京都山科区西山1-19-18	198	18	尾崎 洋行
105	上野店	東京都台東区東上野2-21-5スターダストビル2F	88	8	稲畑 淳也
106	渋谷店	東京都渋谷区渋谷15-5-12	202	19	石川 百合之介
107	池袋店	東京都豊島区東池袋4-11-7南口ビル3F	82	9	永井 展花
108	高円寺店	東京都杉並区高円寺南3-50-1プラザビル2F	90	7	井伏 清次
109	立川店	東京都立川市横野1-3-22太陽ビル1F	52	4	藤原 真太郎
110	八王子店	東京都八王子市山崎4-7-5	170	11	井原 内典
201	板本町店	神奈川県横浜市中区新富1-2-23	156	10	滝沢 金馬
202	大倉山店	神奈川県横浜市港北区有楽町1366JBOビル	256	22	石川 浩夫
203	川崎店	神奈川県川崎市川崎区藤が4-12-3	92	8	有島 勉
204	溝ノ口店	神奈川県横浜市高津区津田3-3-5ラッキービル5F	60	6	阿部 元次
205	平塚店	神奈川県平塚市松森町23-8新設ビル1F	88	8	林 真幸子
206	厚木店	神奈川県厚木市北千住3-10-10マッカーサービル	160	10	谷崎 一彦
301	津田沼店	千葉県習志野市関人町5-12-21	150	10	小林 英一
302	浦安店	千葉県浦安市小島2-12-6グリーンビル3F	62	5	藤田 半郎
303	松戸店	千葉県松戸市富士が丘288	160	11	大塚 幸夢
304	柏店	千葉県柏市山町1-15-23サニービル2F	84	9	三島 妙子
401	大宮店	埼玉県倉吉市流石町2-126	102	14	吉川 幸次
402	春日部店	埼玉県春日部市愛宕2-30-24ライオンビル6F	80	6	堀 昌夫
403	川越店	埼玉県川越市橋本町1-32-1サランビル1F	32	3	坂口 信雄

- 2D 横棒グラフを配置し、グラフに 1 で作成した照会定義（「店舗別商品売上数量」）をバインドします。

ここでは、[X 軸] に「商品名」、[Y 軸（数値項目）] に「数量」を設定します。



- コンポーネント選択ウィンドウからコンボボックスを 1 つドラッグ&ドロップし、キャンバス上に配置します。
- コンボボックスを選択し、プロパティウィンドウの [機能設定] ボタンをクリックします。



[機能設定] ダイアログが表示されます。

- [機能] の [] ボタンをクリックし、[データ更新] を選択します。
- [更新用設定] [設定方法] の [] ボタンをクリックし、[定義から取得] を選択します。



8. [選択] ボタンをクリックします。

9. 照会定義一覧が表示されます。2 で作成した照会定義（「店舗情報一覧」）を選択します。

10. 表示名に「店舗名」、「値」に「店舗コード」を選択します。

「最大表示件数」は、コンボボックスに表示させる最大の件数を設定できます。

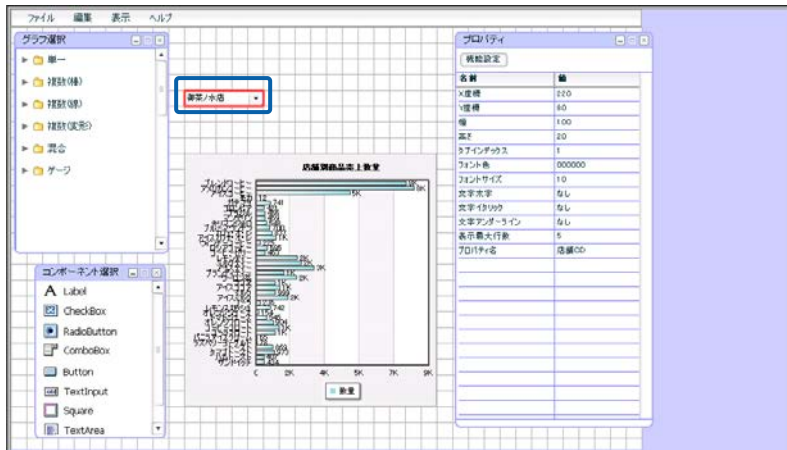
「先頭行を空白にする」にチェックをつけると、コンボボックスの初期値が空白となります。

11. [プロパティ名] に照会定義の@INPUT(@GET(“変数名”))で指定した変数名「店舗 CD」を入力します。

12. [自動で更新] チェックボックスにチェックマークを付けます。

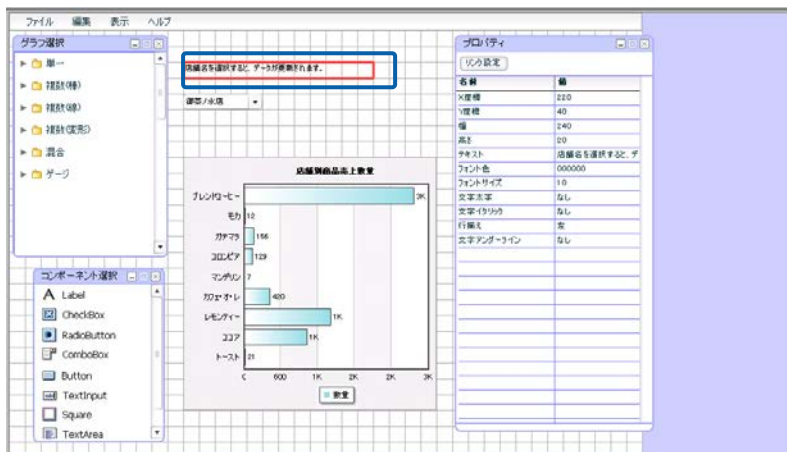
13. [設定] ボタンをクリックします。

コンボボックスに、照会結果の一番初めの「御茶ノ水店」が表示されます。



- 必要に応じて、コンボボックスの上に使用方法を示すテキストを配置します。

コンポーネント選択ウィンドウからラベルをドラッグ&ドロップで配置し、プロパティウィンドウの[テキスト]に「店舗名を選択すると、データが更新されます。」と入力します。

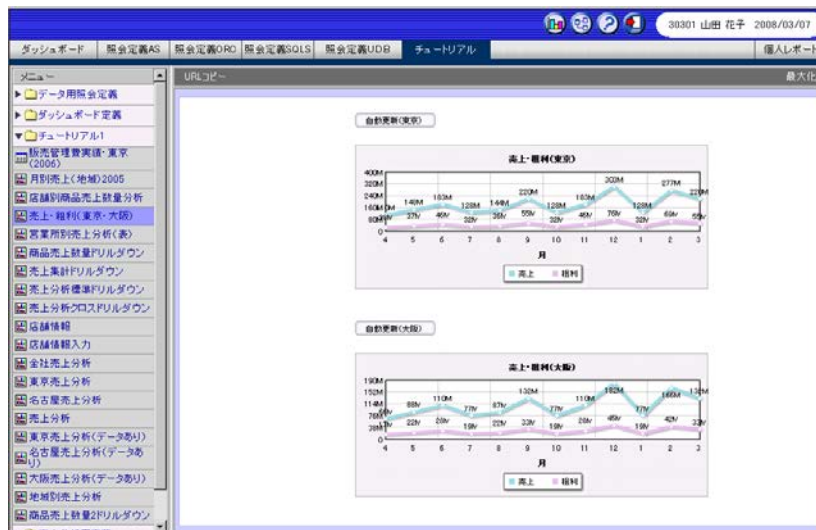


- 編集した内容をダッシュボード定義として保管します。
[ファイル]メニューの[保管]を選択し、「店舗別商品売上数量分析2」という名前で保管します。
- ダッシュボードエディタを終了します。
- Web 実行画面で保管したダッシュボード定義を実行し、コンボボックスの設定が正しくできているか確認します。

3 自動更新の設定

自動更新の設定をしたボタンをキャンバス上に配置しておく、ダッシュボード定義実行時にボタンをクリックしなくても、指定した時間間隔で自動的にデータを再取得して、グラフを表示できます。

ここでは、以下のように指定した時間間隔（180 秒毎）で自動的にデータが更新されるグラフの作成を例に手順を説明します。



指定した時間間隔でグラフが自動更新

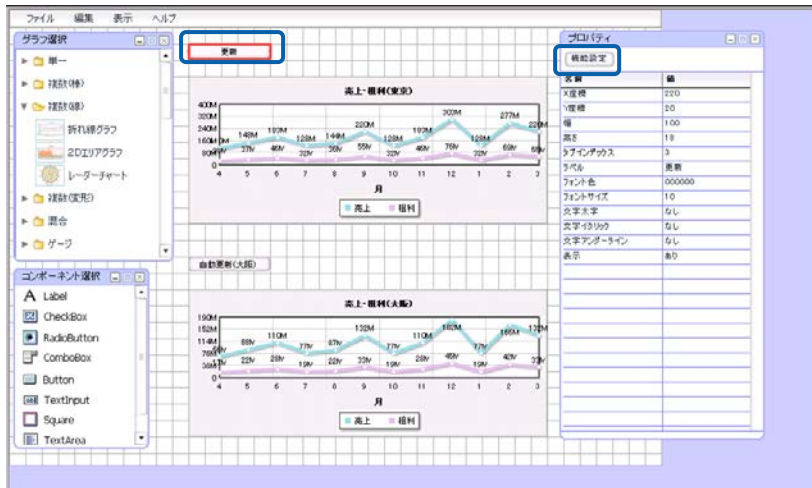
手順

1. グラフを配置し、データバインドします。

ここでは、折れ線グラフを2つ配置し、それぞれ照会定義「売上・粗利（東京）」、「売上・粗利（大阪）」をバインドします。

2. コンポーネント選択ウィンドウからボタンを1つドラッグ&ドロップし、キャンバス上に配置します。

- ボタンを選択し、プロパティウィンドウの [機能設定] ボタンをクリックします。

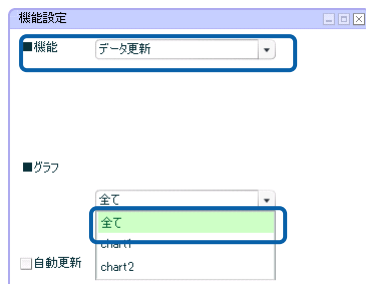


[機能設定] ダイアログが表示されます。

- [機能] の [] ボタンをクリックし、[データ更新] を選択します。
- [グラフ] の [] ボタンをクリックし、データを自動的に再取得したいグラフを選択します。

ここでは、[全て] を選択します。

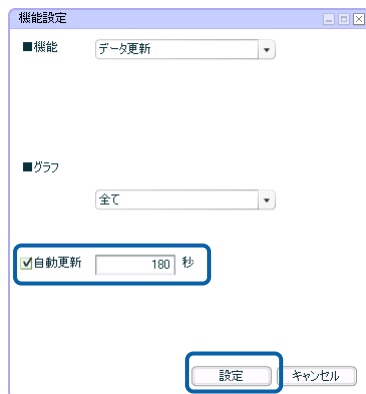
特定のグラフだけデータを自動更新したい場合は、[グラフ] で目的のグラフのグラフ名を選択します。



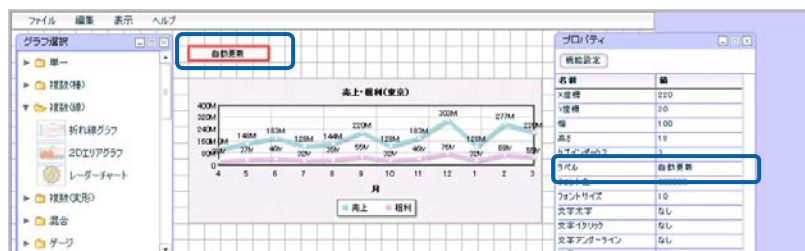
- [自動更新] チェックボックスにチェックマークを付けて、自動更新の間隔を秒単位で指定します。

ここでは、自動更新の時間間隔に「180」秒と設定します。

- [設定] ボタンをクリックします。



8. ボタンのラベルを設定します。
ボタンを選択し、プロパティウィンドウで [ラベル] にボタンに表示する名前を入力します。
ここでは、「自動更新」と入力します。



9. 編集した内容をダッシュボード定義として保管します。
10. ダッシュボードエディタを終了します。
11. ダッシュボード定義を実行します。



ボタンに自動更新の設定をした場合でも、ボタンをクリックしたときに、データを再取得することができます。
また、ボタンは非表示にしておくことができます。ボタンを非表示にするには、プロパティウィンドウの [表示] で [なし] を選択します。

4 データの表示

「表」(DataGrid)を利用すると、グラフにバインドされているデータを表形式で表示することができます。また、表の行と列を入れ替えて表示することもできます。

ここでは、以下のようなダッシュボード定義を作成する例で手順を説明します。



グラフにバインドされているデータをグラフの下に表示

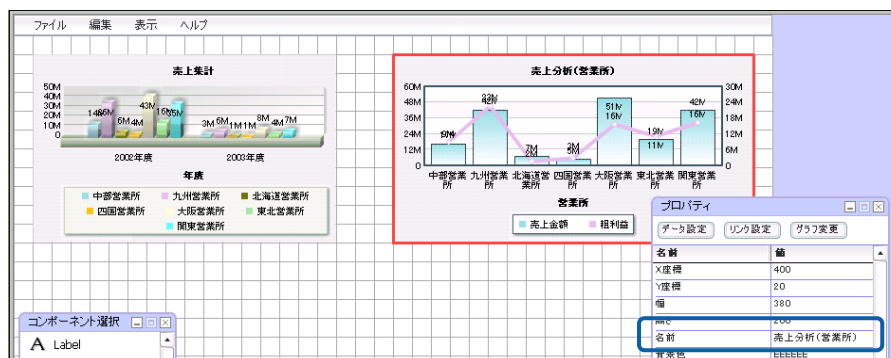
手順

1. グラフを2つ配置し、データバインドします。

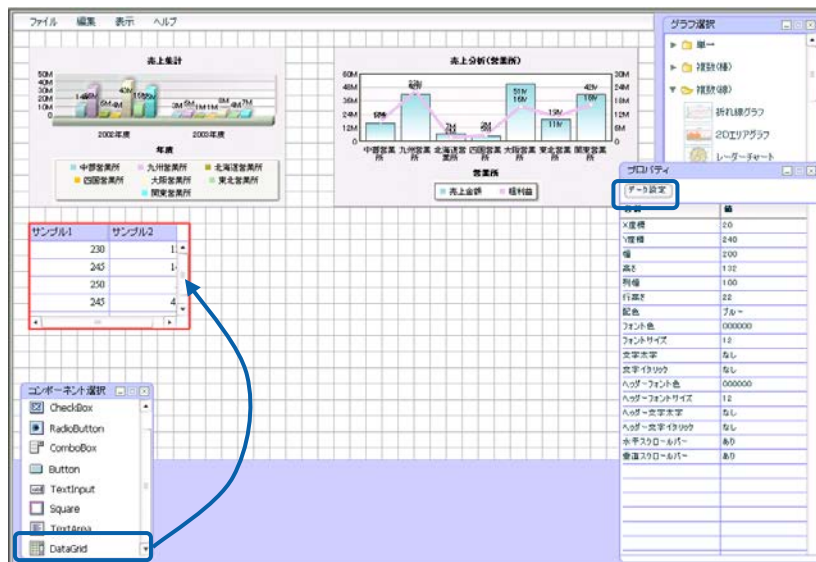
ここでは、3D棒グラフと棒・線グラフを配置し、それぞれ照会定義「売上集計」（クロス集計形式）と、「売上分析（営業所）」（標準表タイプのキューブデータ）をバインドします。

2. 2つのグラフを区別するために、グラフに名前を設定します。

プロパティウィンドウの[名前]にそれぞれ、「売上集計」、「売上分析（営業所）」と入力します。



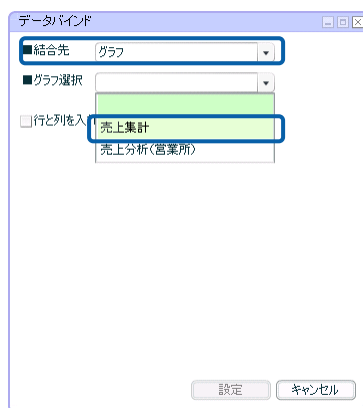
- コンポーネント選択ウィンドウから表 (DataGrid) をドラッグ&ドロップし、キャンバス上に配置します。
- プロパティウィンドウの [データ設定] ボタンをクリックします。



[データバインド] ダイアログが表示されます。

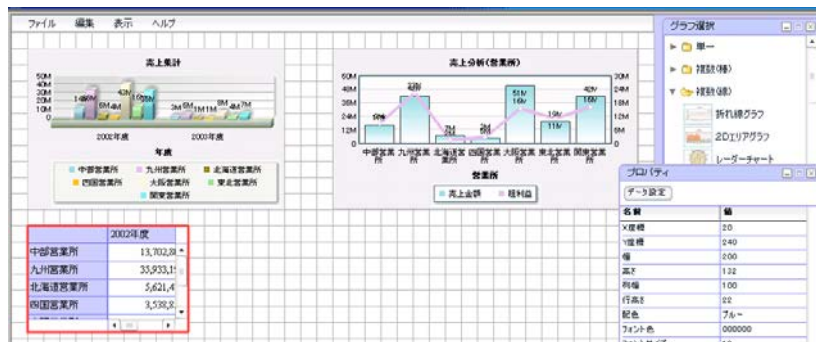
- [結合先] の [] ボタンをクリックし、「グラフ」を選択します。
- [グラフ選択] の [] ボタンをクリックし、データを表示したいグラフを選択します。

ここでは、「売上集計」を選択します。



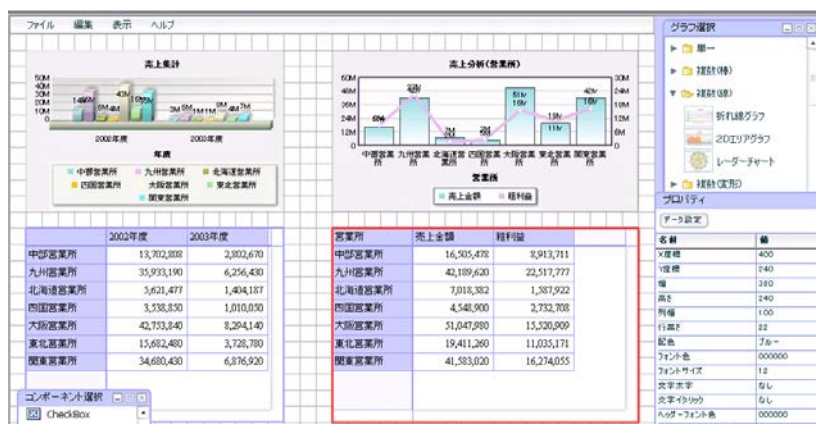
7. [設定] ボタンをクリックします。

選択したグラフのデータが表形式で表示されます。



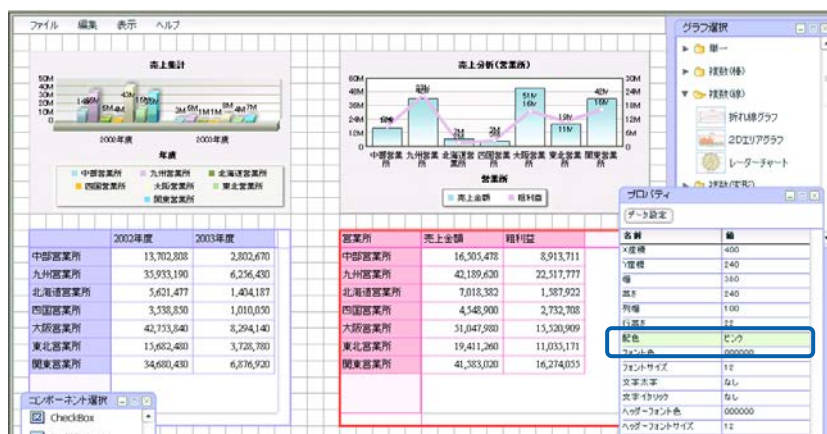
8. 表のサイズや位置を変更します。

9. 手順3~8を繰り返して表を配置し、「売上分析(営業所)」のグラフのデータを表示します。



10. 必要に応じて、表の配色を変更します。

プロパティウィンドウの[配色]で目的の配色を選択します。



11. 編集した内容をダッシュボード定義として保管します。

12. ダッシュボードエディタを終了します。

13. ダッシュボード定義を実行します。

5 入力値チェック

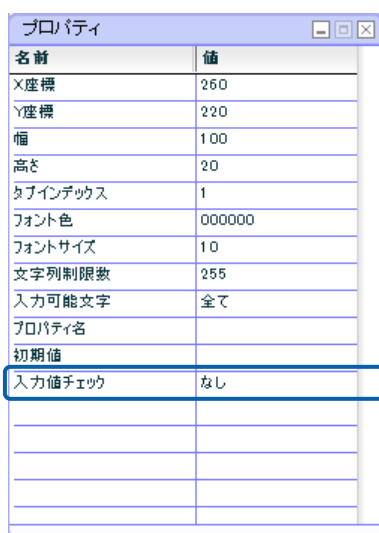
「テキストインプット」(TextInput)の[入力値チェック]を設定すると、入力したテキストを検査し、検査ポリシーに反する場合はエラーメッセージを表示します。

検査の種類は以下のとおりです。各検査の併用も可能です。

種類	説明
空白チェック	入力値が空白かどうかを検査します。
書式チェック	入力値の日時や数値の桁数を検査します。 日時の場合は、書式の検査に加え、入力値が実在する日時か否かも判別します。
範囲チェック	2つのテキストインプット(開始値と終了値)の日時や数値の範囲を検査します。 指定した範囲を超える場合や開始値が終了値より小さい場合にエラーとします。

手順

1. テキストインプットを配置します。
2. テキストインプットを選択し、プロパティウィンドウで[入力値チェック]をクリックします。



3. チェック内容を入力し、[設定] ボタンをクリックします。

・ 空白チェック

The screenshot shows a dialog box titled '入力値チェック' (Input Value Check). The '空白チェック' (Blank Check) option is checked and highlighted with a blue border. Below it, the '書式チェック' (Format Check) and '範囲チェック' (Range Check) options are unchecked. The '書式チェック' section has '種類' (Type) set to '日時' (Date/Time) and an empty '書式文字列' (Format String) field. The '範囲チェック' section has '種類' (Type) set to '開始' (Start), an empty 'グループID' (Group ID) field, '単位' (Unit) set to '年' (Year), and an empty '最大範囲' (Maximum Range) field. At the bottom, there are '設定' (Settings) and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

指定する項目は以下のとおりです。

項目	説明
空白チェック	チェックを付けたら機能が有効になります。

・ 書式チェック

The screenshot shows the same '入力値チェック' dialog box, but now the '書式チェック' (Format Check) option is checked and highlighted with a blue border. The '空白チェック' option is now unchecked. In the '書式チェック' section, '種類' (Type) is '日時' (Date/Time) and the '書式文字列' (Format String) field contains 'YYYY-MM-DD'. The '範囲チェック' section remains the same as in the previous screenshot. The '設定' (Settings) and 'キャンセル' (Cancel) buttons are at the bottom.

指定する項目は以下のとおりです。

項目	説明
書式チェック	チェックを付けると機能が有効になります。
種類	「日時」、「数値」の何れかを選択します。
書式文字列	日時や数値の書式文字列を指定します。 使用可能な文字列については、次の表を参照してください。

また、書式文字列に使用可能な文字列と意味は以下のとおりです。

種類	書式文字列	許可する入力値
日時	YYYY	1900 ~ 2099 (年)
	YY	00 ~ 99 (1950 ~ 2049年)
	MM	01 ~ 12 (月)
	DD	01 ~ 31 (日)
	hh	00 ~ 23 (時)
	mm	00 ~ 59 (分)
	ss	00 ~ 59 (秒)
	/ (半角スラッシュ) - (半角ハイフン) .(半角ピリオド) :(半角コロン) (半角スペース)	左に同じ
数値	#	任意の数字 (1桁以上)
	0	任意の数字 (1桁)
	.(半角ピリオド)	左に同じ (小数点)

・ 範囲チェック

開始値の場合

入力値チェック

空白チェック

書式チェック

種類

書式文字列

範囲チェック

種類

グループID

単位

最大範囲

終了値の場合

入力値チェック

空白チェック

書式チェック

種類

書式文字列

範囲チェック

種類

グループID

最大範囲

指定する項目は以下のとおりです。

項目		説明
範囲チェック		チェックを付けると機能が有効になります。
種類		「開始」、「終了」の何れかを選択します。
「開始」 の場合	グループ ID	半角英数字の文字列で指定します。 対応する終了値のテキストインプットのグループ ID と同じ文字列を指定する必要があります。
	単位	「年」、「月」、「日」、「時」、「分」、「秒」、「数値」の何れかを選択します。
	最大範囲	0 以上の整数値を指定します。 0 を指定すると範囲は検査せず、開始値と終了値の大小関係のみ検査します。
「終了」 の場合	グループ ID	半角英数字の文字列で指定します。 対応する開始値のテキストインプットのグループ ID と同じ文字列を指定する必要があります。

第 4 章

データのドリルダウン とリンク

1 ドリルダウンの設定

データバインドされたグラフにドリルダウンの設定をしておくと、ダッシュボード定義の実行時にグラフのX軸や棒、アンカーマークなどをクリックしたときに、設定したキー項目でドリルダウンが行われ、軸となる項目が切り替わったグラフが表示されます。

ドリルダウンの設定方法は、バインドされている照会定義の種類により異なります。

ここでは、バインドされているデータごとのドリルダウンの設定について説明します。

1-1 標準表形式の場合

- ・ バインドするデータが標準表形式の場合は、ドリルダウンの集計キーとなるキー項目を設定します。
- ・ キー項目を設定すると、標準表形式のデータがバインドされたグラフのX軸名や棒、アンカーマークなどをクリックしたときに、クリックしたデータをキー項目で集計した結果が表示されます。
- ・ ドリルダウンはキー項目に設定した順に行われます。
- ・ ドリルダウンしたグラフを別のウィンドウに表示できます。

グラフの種類ごとにドリルダウンの動きが異なります。

バインドデータが標準表形式の場合は以下のとおりです。

グラフの種類	クリック箇所	動作	ドリルダウンの動き
単一グラフ	パイ	可	クリックしたデータをキー項目で集計した結果を表示
複数グラフ	棒、アンカーマーク、 積み上げ（グラフの一部）	可	クリックしたデータをキー項目で集計した結果を表示 （系列の要素と数は同じ）
	系列名	不可	
	X軸名	可	クリックしたデータをキー項目で集計した結果を表示 （系列の要素と数は同じ）
複数（変形） グラフ	アンカーマーク、バブル （グラフの一部分）	可	クリックしたデータをキー項目で集計した結果を表示
	系列名	不可	
混合グラフ	棒、アンカーマーク、 積み上げ（グラフの一部）	可	クリックしたデータをキー項目で集計した結果を表示 （系列の要素と数は同じ）
	系列名	不可	
	X軸名	可	クリックしたデータをキー項目で集計した結果を表示 （系列の要素と数は同じ）
ゲージ	グラフ全体	不可	

ここでは、以下のような標準表形式の照会定義がバインドされた 2D 横棒グラフ (X 軸に「商品名」、Y 軸に「数量」をバインド) にドリルダウンを設定する例で手順を説明します。

商品名	数量	商品コード	単価	店舗コード	店舗名	住所	席数	従業員数
ウイナーコーヒー	59 303	580 202	大倉山店	神奈川県横浜市港北区大倉町1366.8.00ビル	256	22		
キリマンジャロ	107 206	550 203	川崎店	神奈川県川崎市川崎区小	92	9		
オレンジジュース	22 508	550 103	六本木店	東京都港区六本木3-3-15	48	51		
ミルクティー	190 402	450 202	銀座店	神奈川県横浜市港北区大岡町1366.8.00ビル	256	224		
パナアイスクリーム	9 515	530 103	六本木店	東京都港区六本木3-3-15	48	51		
アイスココア	94 502	580 203	銀座店	神奈川県横浜市港北区大	256	224		
コーラプロト	146 514	580 203	川崎店	神奈川県川崎市川崎区小	92	9		
マンデリン	82 205	500 202	御茶ノ水店	神奈川県横浜市港北区大	256	1200		
ロシアコーヒー	50 304	600 203	新宿店	神奈川県川崎市川崎区小				
ブレンドコーヒー	236 101	450 202	御茶ノ水店	神奈川県横浜市港北区大				
ハイムトースト	90 603	380 202	大倉山店	神奈川県横浜市港北区大				

照会定義: 「商品売上数量」

拡大図は標準表の一部です。

機能: ドリルダウン

別ウインドウ表示

項目名: 商品名, 数量, 商品コード, 単価, 店舗コード, 店舗名, 住所, 席数, 従業員数

キー項目リスト: 店舗名, 売上日

ドリルダウンのキー項目に「店舗名」と「売上日」を設定

↓ 保管されたダッシュボード定義を実行

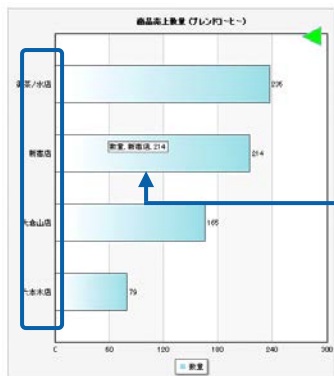
商品売上数量

商品名	数量
ウイナーコーヒー	59
キリマンジャロ	107
オレンジジュース	22
ミルクティー	190
パナアイスクリーム	9
アイスココア	94
コーラプロト	146
マンデリン	82
ロシアコーヒー	50
ブレンドコーヒー	236
ハイムトースト	90

「ブレンドコーヒー」の棒部分ををクリック



最初のキー項目「店舗名」でドリルダウン

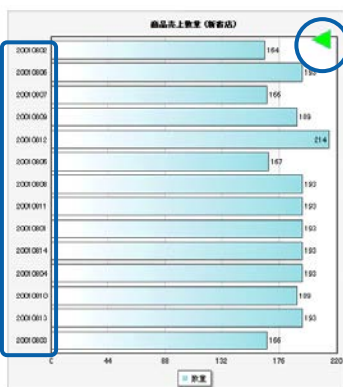



「新宿店」の棒部分を
をクリック

ブレンドコーヒーの「店舗別の売上数量」



2番目のキー項目「売上日」でドリルダウン

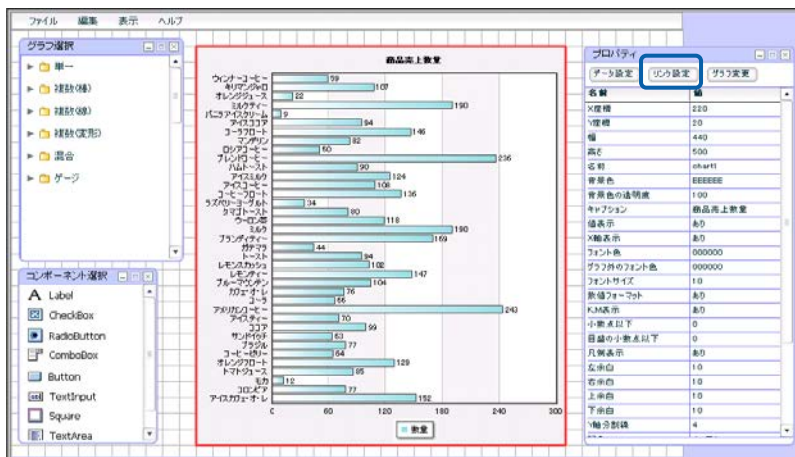


別ウィンドウにグラフを表示しないときは、
グラフの右上に表示される  をクリックすると、
前の画面に戻る

ブレンドコーヒーの「新宿店」の「売上日別の売上数量」

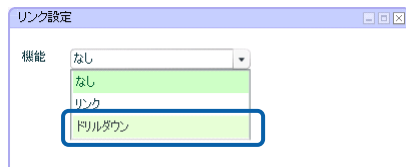
手順

1. グラフを配置し、データをバインドします。
2. グラフを選択し、プロパティウィンドウで [リンク設定] ボタンをクリックします。

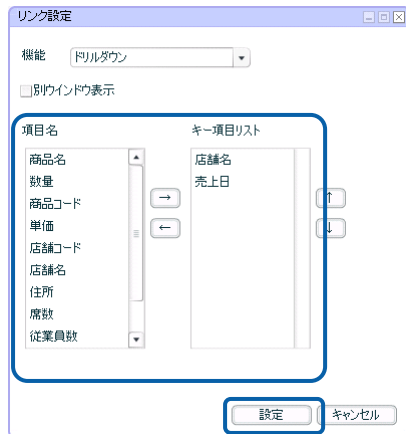


[リンク設定] ダイアログが表示されます。

3. [機能]の[]ボタンをクリックし、[ドリルダウン]を選択します。



4. [項目名]で「店舗名」と「売上日」をそれぞれ選択し、[]ボタンをクリックします。
[キー項目リスト]に「店舗名」と「売上日」が追加されます。
5. [設定]ボタンをクリックします。



グラフにドリルダウンが設定されます。

6. 編集した内容をダッシュボード定義として保管し、ダッシュボードエディタを終了します。
7. Web 実行画面で保管したダッシュボード定義を実行し、ドリルダウンの設定が正しくできているか確認します。

1-2 クロス集計形式の場合

- ・ バインドデータがクロス集計表形式の場合は、ドリルダウンの集計キーとなる X 軸のキー項目に、クロス集計の列キーが、系列のキー項目に行キーが自動的に設定されます。
- ・ ドリルダウンの設定を行うと、クロス集計形式のデータがバインドされたグラフの X 軸や棒、アンカーマーク、系列などをクリックしたときに、グラフの X 軸と系列に設定されているキー項目の順に集計結果が表示されます。
- ・ 列キー、行キーが複数設定されているクロス集計の定義がバインドされているグラフの場合に、ドリルダウンが行われます。

グラフの種類ごとにドリルダウンの動きが異なります。

バインドデータがクロス集計形式の場合は以下のとおりです。

グラフの種類	クリック箇所	動作	ドリルダウンの動き
複数グラフ	棒、アンカーマーク、積み上げ	可	次の行キーと列キーの集計結果を表示
	系列名	可	系列に設定されている次の行キーの集計結果を表示
	X軸名	可	X軸に設定されている次の列キーの集計結果を表示
複数(変形)グラフ	アンカーマーク、バブル	可	次の行キーと列キーの集計結果を表示
	系列名	可	系列に設定されている次の行キーの集計結果を表示
ゲージ	グラフ全体	不可	

ここでは、以下のようなクロス集計形式の照会定義がバインドされた2D横棒積み上げグラフ(X軸に「営業所」、系列に「年度」、値に「売上金額」をバインド)にドリルダウンを設定し、別のウィンドウに表示する例で手順を説明します。

年度	半期	四半期	売上	年月	数量	売上金額	粗利益	数量	売上金額	粗利益	数量	売上金額	粗利益	数量	売上金額	粗利益
2002年度	1H	1Q	200204													
2002年度	1H	1Q	200205													
2002年度	1H	1Q	200206					5	7450	5340	12	305160	255996	20	188400	127060
2002年度	1H	2Q	200207											40	376800	254120
2002年度	1H	2Q	200208								6	152580	127998	20	188400	127060
2002年度	1H	2Q	200209	1	5080	3184	5	7450	5340							
2002年度	2H	3Q	200210	2	10160	6368	5	7450	5340							
2002年度	2H	3Q	200211													

照会定義：「売上集計」

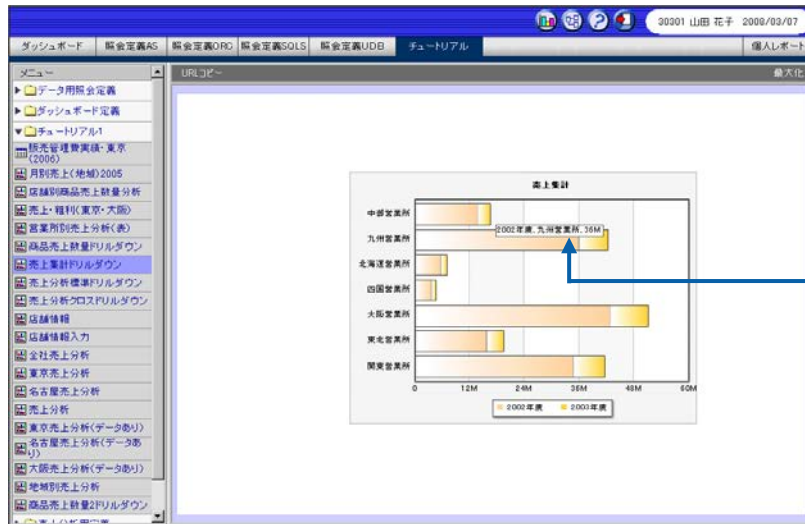
拡大図はクロス集計表の一部です。

クロス集計形式の照会定義がバインドされているときは、自動的にキー項目が設定される

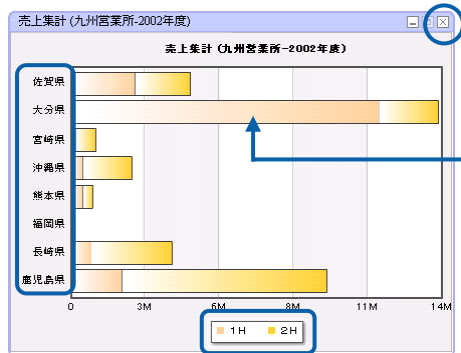


保管されたダッシュボード定義を実行

X軸名と系列名のドリルダウン



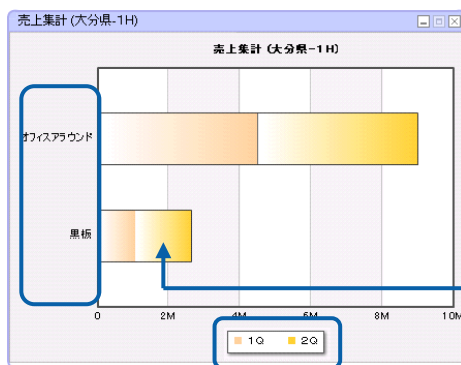
X軸が次の列キー「担当地区」、系列が次の行キー「半期」でドリルダウン



九州営業所の 2002 年度における担当地区別半期の売上



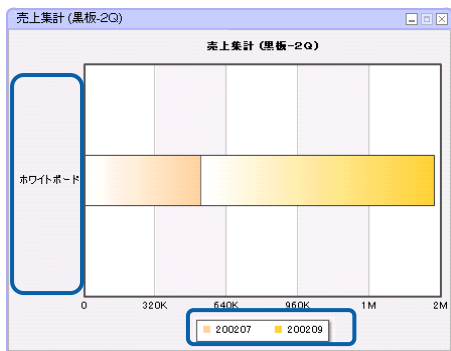
X軸が次の列キー「商品カテゴリ」、系列が次の行キー「四半期」でドリルダウン



大分県の 1H (上半期) における商品カテゴリ別四半期の売上

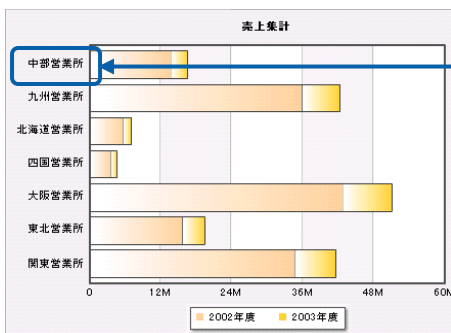


X軸が次の列キー「商品名」、系列が次の行キー「売上年月」でドリルダウン



大分県の黒板の2Q (第2四半期)における商品別の売上

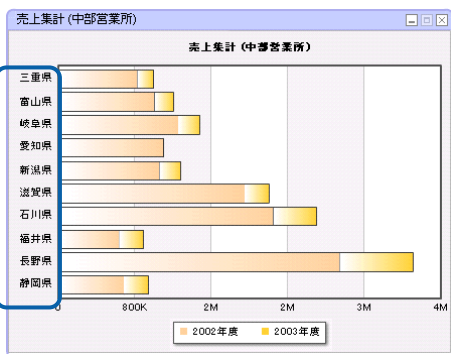
X軸名のドリルダウン



最初のグラフでX軸の「中部営業所」をクリック

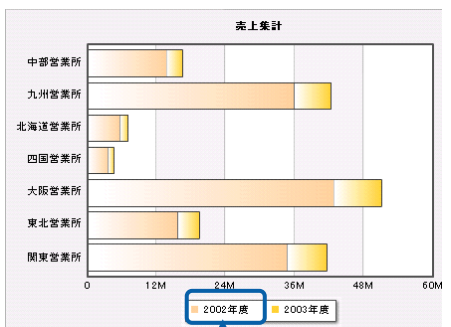


X軸のみ次の列キー「担当地区」でドリルダウン



中部営業所における担当地区別の売上

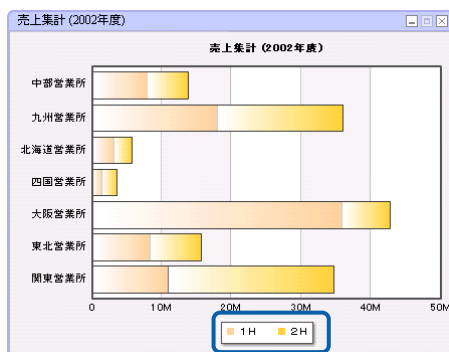
系列名のドリルダウン



最初のグラフで系列の「2002年度」をクリック



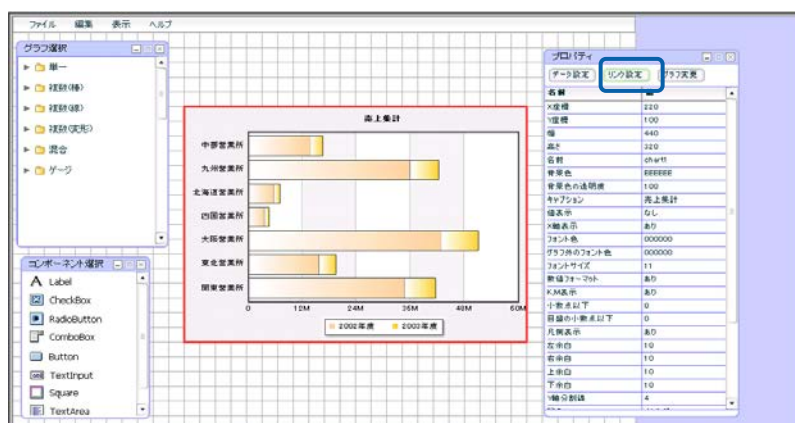
系列のみ次の行キー「半期」でドリルダウン



2002年度における半期毎の営業所別の売上

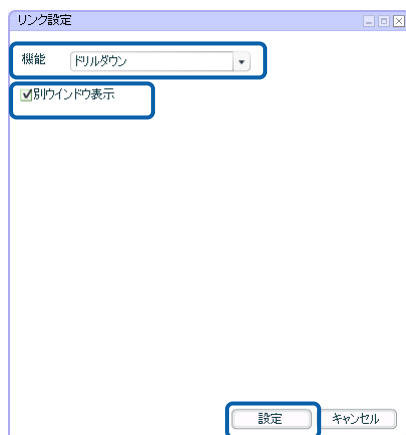
手順

1. グラフを配置し、データをバインドします。
2. グラフを選択し、プロパティウィンドウで [リンク設定] ボタンをクリックします。



[リンク設定] ダイアログが表示されます。

3. [機能] の [] ボタンをクリックし、[ドリルダウン] を選択します。
4. [別ウィンドウ表示] チェックボックスにチェックマークを付けます。
5. [設定] ボタンをクリックします。



グラフにドリルダウンが設定されます。

6. 編集した内容をダッシュボード定義として保管し、ダッシュボードエディタを終了します。

7. Web 実行画面で保管したダッシュボード定義を実行し、ドリルダウンの設定が正しくできているか確認します。

1-3 キューブデータの場合

バインドデータがキューブデータの場合は、キューブデータの展開の方法が「標準表」タイプか「クロス集計」タイプかによって、設定内容が異なります。

また、ドリルダウンの方法には、以下の2つがあります。

- ・ 同次元でドリルダウンする方法
1段階ずつレベルを下げてドリルダウンします。
- ・ ドリルダウン先を手動で設定する方法
次元やレベルを変更してドリルダウンします。

「標準表」タイプの場合

バインドデータが「標準表」タイプの場合は、以下のようにドリルダウンします。

- ・ 同次元でドリルダウンする場合
自動的にドリルダウンのキー項目に次のレベルが設定されます。

グラフの X 軸名や棒、アンカーマークなどをクリックすると、照会定義で定義されている次元が 1 レベルずつ順にキー項目に設定され、クリックした箇所のデータの 1 レベル下の集計結果が表示されます。
- ・ 次元・レベルを変更してドリルダウンする場合
ドリルダウンのキー項目に次元・レベルを設定します。

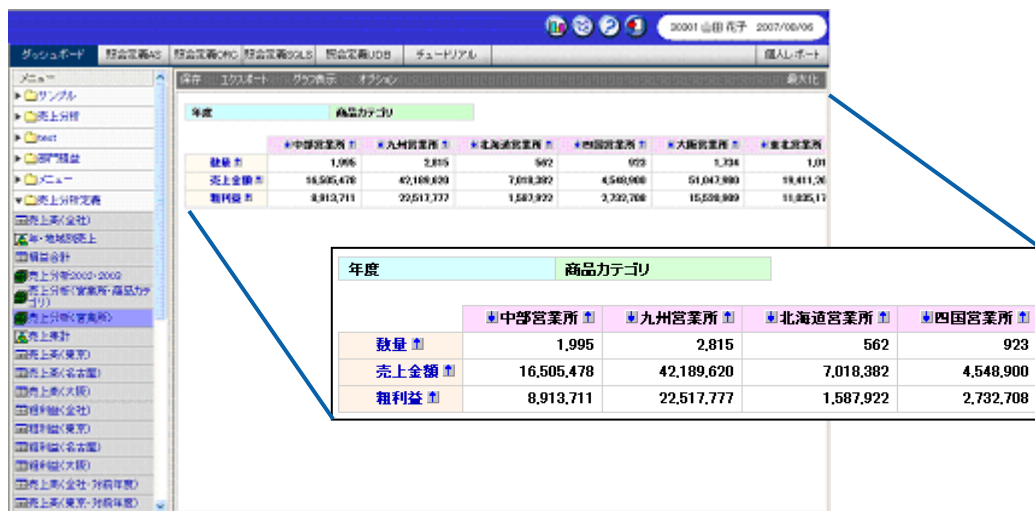
グラフの X 軸名や棒、アンカーマークなどをクリックすると、クリックした箇所のデータの指定した次元・レベルの集計結果が表示されます。

グラフの種類ごとにドリルダウンの動きが異なります。

バインドデータがキューブデータ（「標準表」タイプ）の場合は以下のとおりです。

グラフの種類	クリック箇所	動作	ドリルダウンの動き
単一グラフ	パイ	可	<ul style="list-style-type: none"> ・クリックしたデータの1レベル下の集計結果を表示 ・ドリルダウン先を指定した場合は、クリックしたデータの指定した次元・レベルの集計結果を表示
複数グラフ	棒、アンカーマーク、積み上げ（グラフの一部）	可	<ul style="list-style-type: none"> ・クリックしたデータの1レベル下の集計結果を表示 ・ドリルダウン先を指定した場合は、クリックしたデータの指定した次元・レベルの集計結果を表示 （系列の要素と数は同じ）
	系列名	不可	
	X軸名	可	<ul style="list-style-type: none"> ・クリックしたデータの1レベル下の集計結果を表示 ・ドリルダウン先を指定した場合は、クリックしたデータの指定した次元・レベルの集計結果を表示 （系列の要素と数は同じ）
複数（変形）グラフ	アンカーマーク、バブル（グラフの一部分）	可	<ul style="list-style-type: none"> ・クリックしたデータの1レベル下の集計結果を表示 ・ドリルダウン先を指定した場合は、クリックしたデータの指定した次元・レベルの集計結果を表示
	系列名	不可	
混合グラフ	棒、アンカーマーク、積み上げ（グラフの一部）	可	<ul style="list-style-type: none"> ・クリックしたデータの1レベル下の集計結果を表示 ・ドリルダウン先を指定した場合は、クリックしたデータの指定した次元・レベルの集計結果を表示 （系列の要素と数は同じ）
	系列名	不可	
	X軸名	可	<ul style="list-style-type: none"> ・クリックしたデータの1レベル下の集計結果を表示 ・ドリルダウン先を指定した場合は、クリックしたデータの指定した次元・レベルの集計結果を表示 （系列の要素と数は同じ）
ゲージ	グラフ全体	不可	

ここでは、以下のような「標準表」タイプのキューブデータがバインドされた3D棒グラフ(X軸に「営業所」、Y軸に「売上金額」と「粗利益」をバインド)に次元・レベルを変更してドリルダウンを設定する例で手順を説明します。



照会定義：「売上分析（営業所）」

機能: ドリルダウン

別枠ウィンドウ表示

同次元でドリルダウン

ドリルダウン先を手動で設定

項目名

- 年度
 - 年度
 - 半期
 - 四半期
 - 売上年月
- 営業所
- 商品カテゴリ
 - 商品カテゴリ
 - 商品名

キー項目リスト

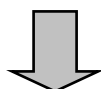
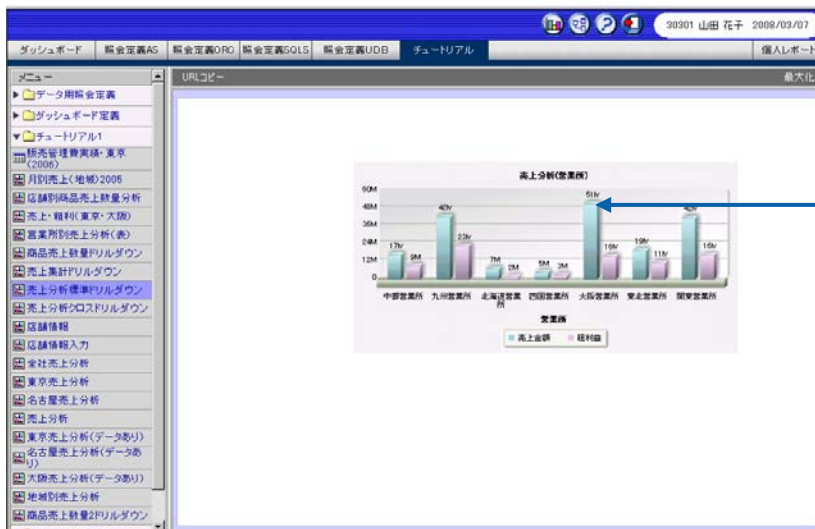
- 年度
- 商品カテゴリ

ドリルダウンのキー項目に「年度」と「商品カテゴリ」を設定

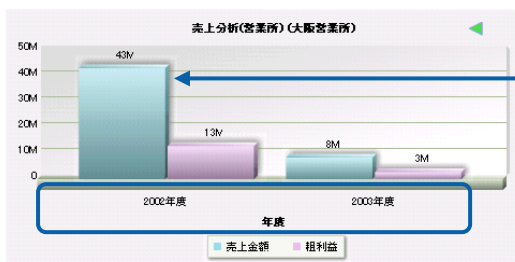
設定 キャンセル



保管されたダッシュボード定義を実行



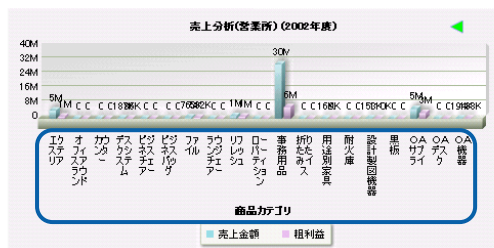
最初のキー項目「年度」でドリルダウン



大阪営業所の年度別の売上と粗利益



2番目のキー項目「商品カテゴリ」でドリルダウン



2002年度の商品カテゴリ別の売上と粗利益

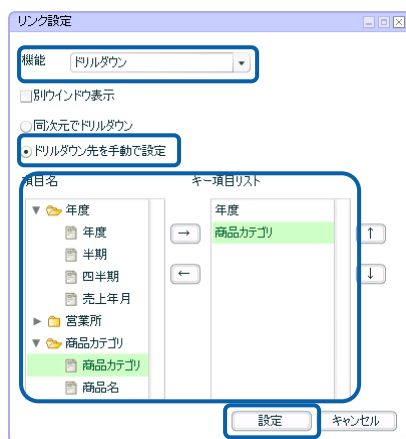
手順

1. グラフを配置し、データバインドします。
2. グラフを選択し、プロパティウィンドウで [リンク設定] ボタンをクリックします。



[リンク設定] ダイアログが表示されます。

3. [機能] の [] ボタンをクリックし、[ドリルダウン] を選択します。
4. [ドリルダウン先を手動で設定] をクリックして選択します。
5. [項目名] で「年度」と「商品カテゴリ」をそれぞれ選択し、[] ボタンをクリックします。
[キー項目リスト] に「年度」と「商品カテゴリ」が追加されます。
6. [設定] ボタンをクリックします。



グラフにドリルダウンが設定されます。

7. 編集した内容をダッシュボード定義として保管し、ダッシュボードエディタを終了します。
8. Web 実行画面で保管したダッシュボード定義を実行し、ドリルダウンの設定が正しくできているか確認します。



上記の「標準表」タイプのキューブデータ（[営業所] 次元に「営業所」、「担当地区」、「担当者」の順でレベルが定義されている）がバインドされているグラフに [同次元でドリルダウン] を設定した場合は、グラフの X 軸名や棒、アンカーマークなどをクリックするごとに、1 レベルずつドリルダウンが行われ、X 軸の項目が「営業所」、「担当地区」、「担当者」の順に切り替わります。

「クロス集計」タイプの場合

バインドデータが「クロス集計」タイプの場合は、以下のようにドリルダウンします。

- ・ 同次元でドリルダウンする場合

自動的にドリルダウンのキー項目に行方向、列方向のレベルが設定されます。

グラフの X 軸名や棒、アンカーマーク、系列などをクリックすると、照会定義で定義されている行方向と列方向の次元が1レベルずつ順にキー項目に設定され、クリックした箇所のデータの1レベル下の集計結果が表示されます。

- ・ 次元・レベルを変更してドリルダウンする場合

ドリルダウンのキー項目に X 軸と系列の次元・レベルをそれぞれ設定します。X 軸だけ次元、レベルを変更したり、系列だけ次元・レベルを変更することもできます。

グラフの X 軸名や棒、アンカーマーク、系列などをクリックすると、クリックした箇所のデータの指定した次元・レベルの集計結果が表示されます。

ドリルダウン先を手動で設定し、次元・レベルを変更してドリルダウンを行う場合、以下の設定はできません。



- ・ レベルが上の項目をドリルダウン先に設定すること
(たとえば、「年度 半期 四半期 売上年月」とレベルが設定されている場合に、「四半期 半期」という順番で設定するなど)
 - ・ すでにグラフの X 軸または系列に指定されている項目をドリルダウン先に設定すること
 - ・ X 軸、系列ともに同じ項目をドリルダウン先に設定すること
-

グラフの種類ごとにドリルダウンの動きが異なります。

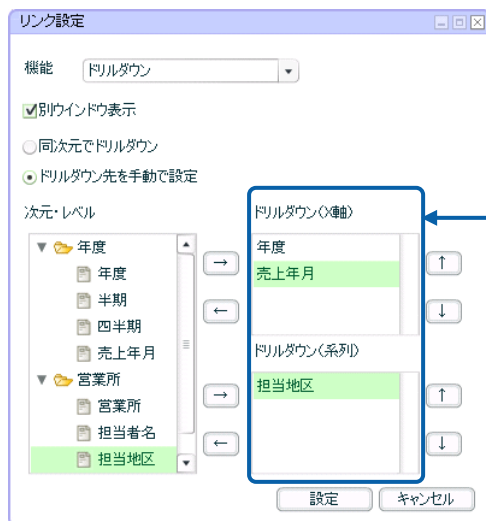
バインドデータがキューブデータ（「クロス集計」タイプ）の場合は以下のとおりです。

グラフの種類	クリック箇所	動作	ドリルダウンの動き
複数グラフ	棒、アンカーマーク、積み上げ	可	<ul style="list-style-type: none"> 次のレベルの行キーと列キーの集計結果を表示 ドリルダウン先を指定した場合は、指定した X 軸と系列の次元・レベルの集計結果を表示
	系列名	可	<ul style="list-style-type: none"> 系列に設定されている次の行キーのレベルの集計結果を表示 ドリルダウン先を指定した場合は、指定した系列の次元・レベルの集計結果を表示
	X 軸名	可	<ul style="list-style-type: none"> X 軸に設定されている次の列キーのレベルの集計結果を表示 ドリルダウン先を指定した場合は、指定した X 軸の次元・レベルの集計結果を表示
複数（変形）グラフ	アンカーマーク、バブル	可	<ul style="list-style-type: none"> 次のレベルの行キーと列キーの集計結果を表示 ドリルダウン先を指定した場合は、指定した X 軸と系列の次元・レベルの集計結果を表示
	系列名	可	<ul style="list-style-type: none"> 系列に設定されている次の行キーのレベルの集計結果を表示 ドリルダウン先を指定した場合は、指定した系列の次元・レベルの集計結果を表示
ゲージ	グラフ全体	不可	

ここでは、以下のような「クロス集計」タイプのキューブデータがバインドされた 2D 横棒積み上げグラフ（X 軸に「商品カテゴリ」、系列に「営業所」、数値項目に「数量」をバインド）に次元・レベルを変更しドリルダウンを設定して別ウィンドウに表示する例で手順を説明します。

年度		エクステリア	オフィスアラウンド	カウンター
中部営業所	数量	210	18	13
九州営業所	数量	50	125	
北海道営業所	数量	31	41	
四国営業所	数量	150		
大阪営業所	数量	39		
東北営業所	数量	30	48	35
関東営業所	数量	1,151		
営業所	数量	1,661	232	48

照会定義：売上分析（営業所・商品カテゴリ）

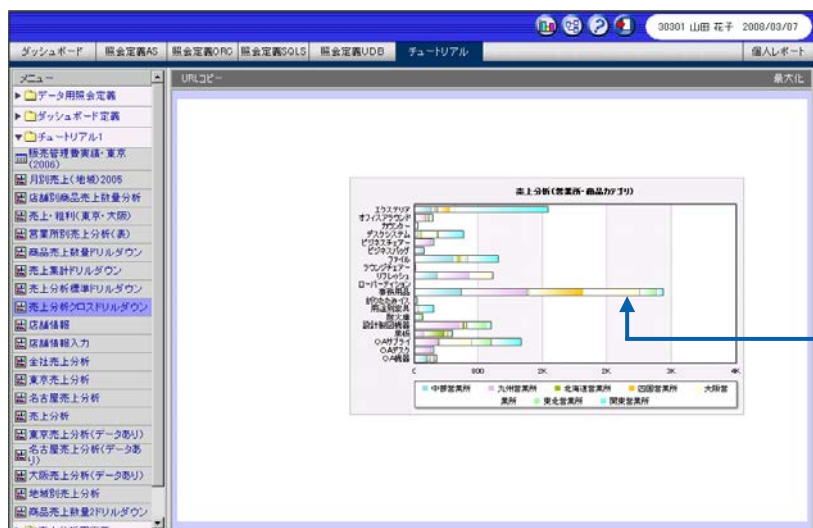


X 軸のキー項目に「年度」と「売上年月」を、系列のキー項目に「担当地区」を設定



保管されたダッシュボード定義を実行

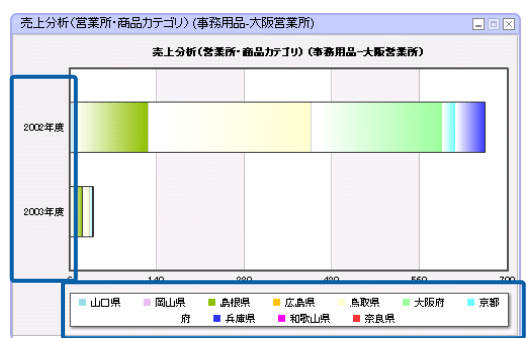
X 軸名と系列名のドリルダウン



「事務用品の大阪営業所」の棒部分をクリック

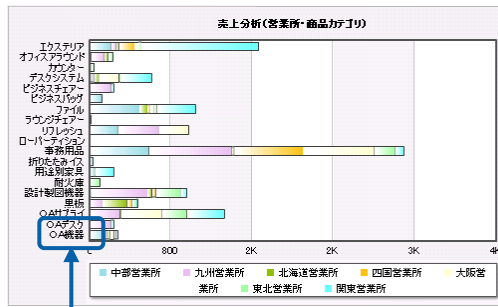


X 軸が最初のキー項目「年度」、系列が最初のキー項目「担当地区」でドリルダウン



事務用品の大阪営業所における年度毎の担当地区別の売上

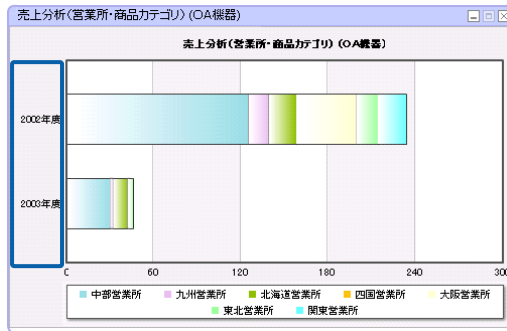
X軸名のドリルダウン



最初のグラフでX軸の「OA機器」をクリック

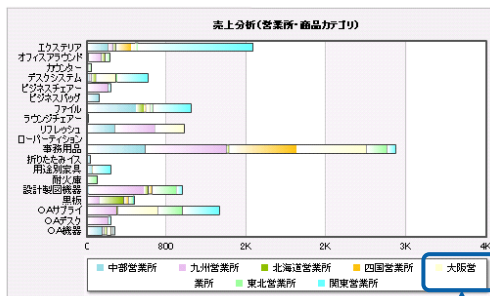


X軸のみ最初のキー項目「年度」でドリルダウン



OA機器の年度毎の営業所別の売上

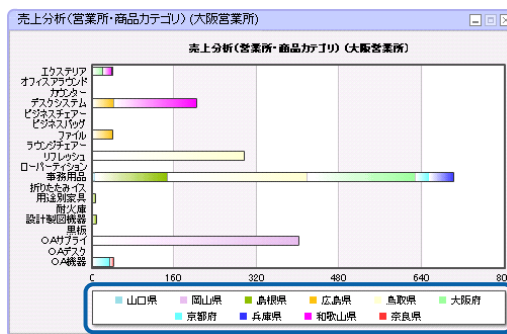
系列名のドリルダウン



最初のグラフで系列の「大阪営業所」をクリック



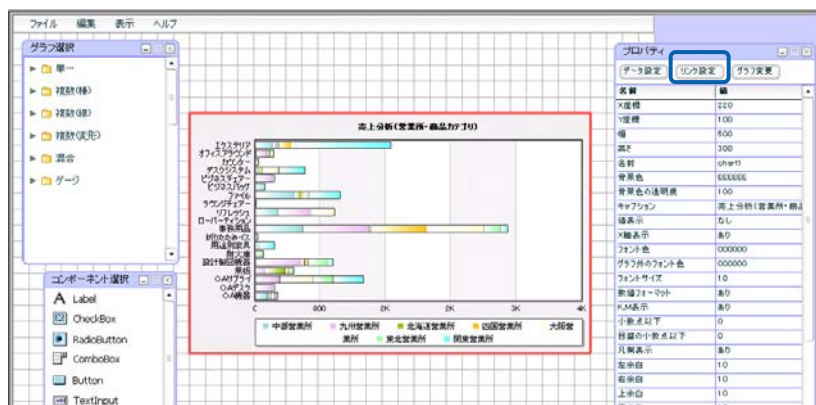
系列のみ最初のキー項目「担当地区」でドリルダウン



大阪営業所における商品カテゴリーの担当地区別の売上

手順

1. グラフを配置し、データをバインドします。
2. グラフを選択し、プロパティウィンドウで [リンク設定] ボタンをクリックします。

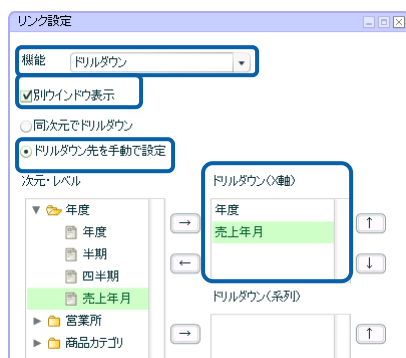


[リンク設定] ダイアログが表示されます。

3. [機能] の [] ボタンをクリックし、[ドリルダウン] を選択します。
4. [別ウィンドウ表示] チェックボックスにチェックマークを付けます。
5. [ドリルダウン先を手動で設定] をクリックして選択します。
6. X 軸のドリルダウン先を設定します。

[次元・レベル] で「年度」と「売上年月」をそれぞれ選択し、[ドリルダウン (X 軸)] の [] ボタンをクリックします。

[ドリルダウン (X 軸)] に「年度」と「売上年月」が追加されます。

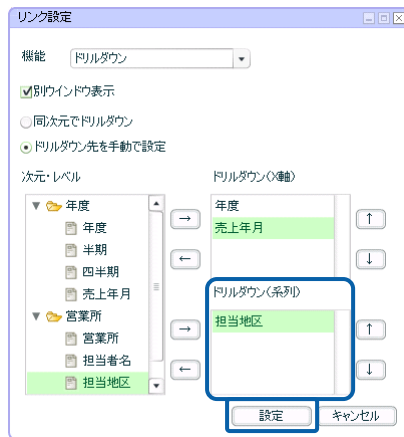


7. 同様に、系列のドリルダウン先を設定します。

[次元・レベル] で「担当地区」を選択し、[ドリルダウン (系列)] の [] ボタンをクリックします。

[ドリルダウン (系列)] に「担当地区」が追加されます。

8. [設定] ボタンをクリックします。



グラフにドリルダウンが設定されます。

9. 編集した内容をダッシュボード定義として保管し、ダッシュボードエディタを終了します。
10. Web 実行画面で保管したダッシュボード定義を実行し、ドリルダウンの設定が正しくできているか確認します。

2 リンクの設定

グラフやコンポーネントにリンクを設定すると、関連する照会定義やダッシュボード定義を表示することができます。また、リンク先の定義にデータを引き渡して、表示する照会定義やダッシュボード定義でデータを絞り込むこともできます。

リンクの設定は、グラフとコンポーネントで異なります。

ここでは、グラフのリンク設定と、コンポーネントのリンク設定について説明します。

2-1 グラフの場合

- ・ グラフにリンクの設定をすると、ダッシュボード定義の実行時にグラフをクリックしたときに、別の照会定義やダッシュボード定義を表示できます。
- ・ リンク先の照会定義に@INPUT(@GET())が設定されている場合、変数名を設定しておく、グラフ上でクリックした箇所の値で検索した結果が表示されます。
- ・ グラフに標準表形式のデータがバインドされている場合は、X軸のみ変数名を設定できます。クロス集計形式の場合は、X軸と系列に別の変数名を設定できます。
- ・ 変数名を設定しない場合は、グラフのどの部分をクリックしても、リンク先に指定した照会定義が表示されます。
- ・ リンク先の定義を別のウィンドウに表示することができます。

ここでは、標準表形式のデータがバインドされた3D棒グラフに、@INPUT(@GET("店舗 CD"))の設定された照会定義「店舗別商品売上数量」へのリンクを設定し、別ウィンドウに表示する例で手順を説明します。

リンク設定

機能 リンク

別ウィンドウ表示

■リンク先設定

リンク先 店舗別商品売上数量 選択

■詳細設定

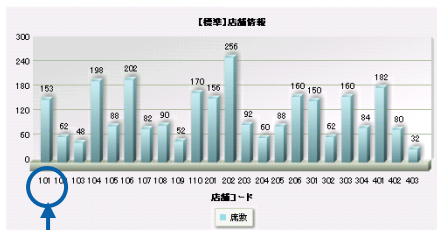
変数名設定

X軸名 店舗CD

リンク先に照会定義「店舗別商品売上数量」を設定し、X軸の変数名に「店舗CD」を設定

↓

保管されたダッシュボード定義を実行



グラフの X 軸の「101」をクリック



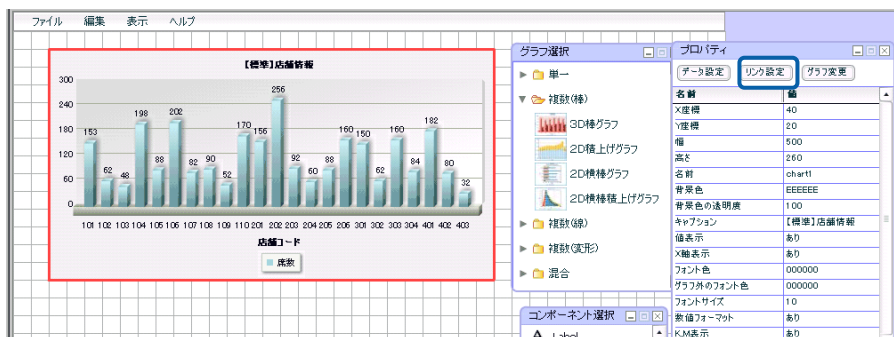
店舗 CD「101」でリンク先の照会定義のデータを検索

店舗名	売上日	商品コード	販売名	数量
御茶ノ水店	20010614	101	ブレインコーヒー	2756
御茶ノ水店	20010614	201	セカ	12
御茶ノ水店	20010614	202	ガリマダ	156
御茶ノ水店	20010614	203	ニコノビア	129
御茶ノ水店	20010608	205	マンダリン	7
御茶ノ水店	20010614	301	カフェオレ	420
御茶ノ水店	20010614	401	レモンチャム	1405
御茶ノ水店	20010614	501	ココア	1021
御茶ノ水店	20010602	601	トースト	21

店舗 CD「101」（御茶ノ水店）のデータ

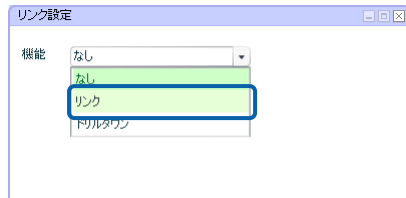
手順

1. データバインドされたグラフを選択し、プロパティウィンドウの[リンク設定]ボタンをクリックします。

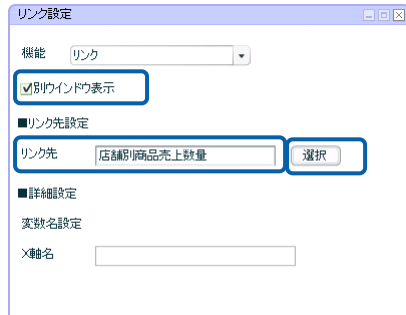


[リンク設定] ダイアログが表示されます。

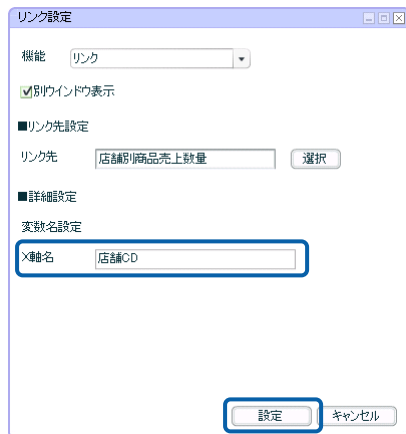
2. [機能]の[]ボタンをクリックし、[リンク]を選択します。



3. [別ウィンドウ表示]チェックボックスにチェックマークを付けます。
4. [リンク先]の[選択]ボタンをクリックし、[照会定義選択]ダイアログでリンク先の照会定義「店舗別商品売上数量」を選択します。



5. [変数名設定]の[X軸名]にリンク先の照会定義へ引き渡す変数名「店舗CD」を入力します。
6. [設定]ボタンをクリックします。



グラフにリンクが設定されます。

7. 編集した内容をダッシュボード定義として保管し、ダッシュボードエディタを終了します。
8. Web 実行画面で保管したダッシュボード定義を実行し、リンクの設定が正しくできているか確認します。

2-2 コンポーネントの場合

- ・ コンポーネントにリンク先の定義を設定しておく、ダッシュボード定義の実行時にラベルやボタンをクリックしたときに、別の照会定義やダッシュボード定義を表示することができます。
- ・ ラベル、チェックボックス、ラジオボタン、コンボボックス、テキストインプットは、リンク先の照会定義に@INPUT(@GET())で検索条件が設定されている場合、リンク先の定義にプロパティ名や値を引き渡して、データを絞り込んで表示することができます。
- ・ ラジオボタンとコンボボックスは、自動リンクの設定ができます。自動リンクを設定しておく、ボタンを配置しなくても、ダッシュボード定義の実行時にラジオボタンやコンボボックスで値が選択されると、指定のリンク先を表示します。
- ・ リンク先の定義を別のウィンドウに表示することができます。

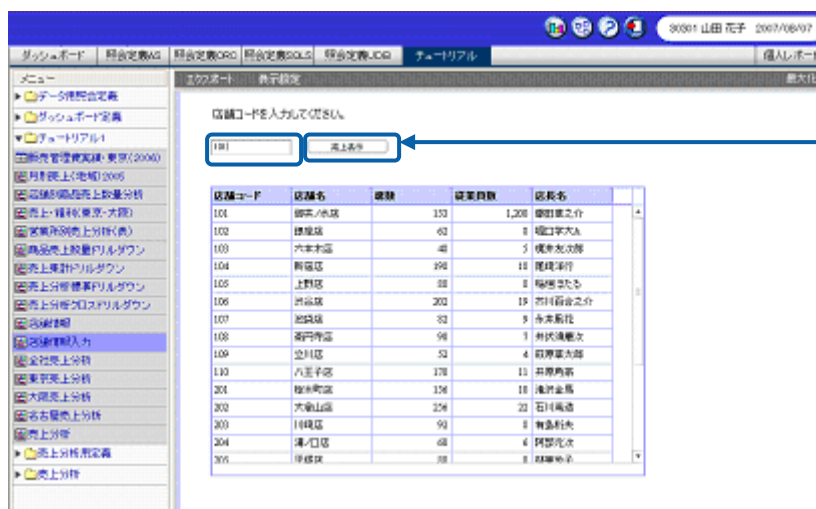


コンポーネントによって設定する内容が異なります。
各コンポーネントのプロパティについては、『付録 2 コンポーネントのプロパティ』を参照してください。

単一リンク先定義

コンポーネントをクリックしたときに、目的のリンク先の定義が表示されるようにするには、テキストインプットとラベル、またはボタンを組み合わせるダッシュボード定義を作成します。

ここでは、@INPUT(@GET("店舗 CD"))の設定された照会定義(「店舗別商品売上数量」)へのリンクをボタンに設定し、テキストインプットに入力された値(店舗コード)でリンク先のデータを絞り込んで表示する例で手順を説明します。



店舗コード「101」を入力して、「売上表示」ボタンをクリック



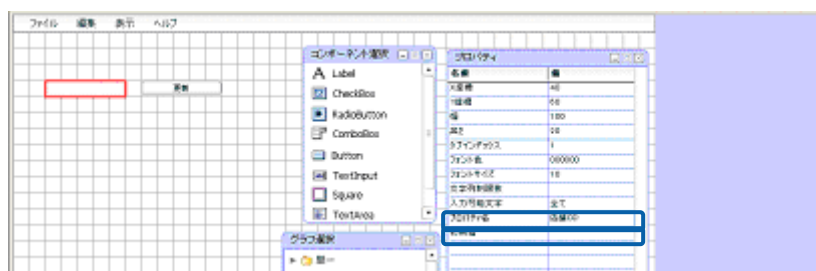
店舗コード「101」でリンク先の照会定義のデータを検索

店舗名	売上日	商品コード	商品名	数量
御茶ノ水店	20010814	101	ブレンドコーヒー	2756
御茶ノ水店	20010802	201	セカ	12
御茶ノ水店	20010814	202	ガキマラ	156
御茶ノ水店	20010814	203	ニコルピア	129
御茶ノ水店	20010806	205	マンダリン	7
御茶ノ水店	20010814	301	カフェオレ	420
御茶ノ水店	20010814	401	レモンティー	1405
御茶ノ水店	20010814	501	ココア	1021
御茶ノ水店	20010802	601	トースト	21

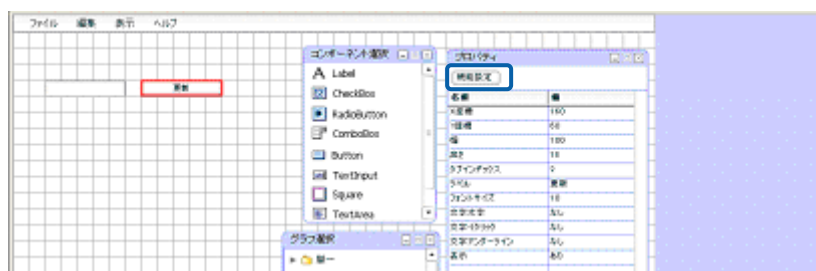
店舗コード「101」（御茶ノ水店）のデータ

手順

1. コンポーネント選択ウィンドウからテキストインプットを 1 つ、ボタンを 1 つドラッグ&ドロップし、キャンバス上に配置します。
2. テキストインプットの [プロパティ名] に、リンク先の照会定義の @INPUT(@GET(“ 変数名 ”)) で指定した変数名を設定します。
テキストインプットを選択し、プロパティウィンドウの [プロパティ名] に「店舗 CD」と入力します。
[初期値] は空欄にしておきます。

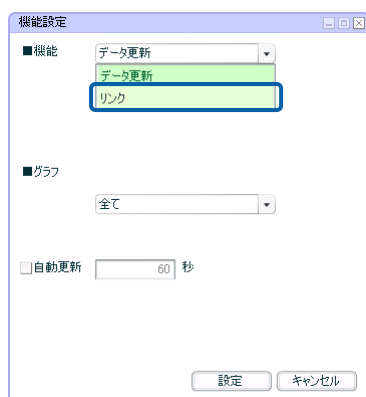


3. ボタンにリンク先を設定します。
ボタンを選択し、プロパティウィンドウの [機能設定] ボタンをクリックします。



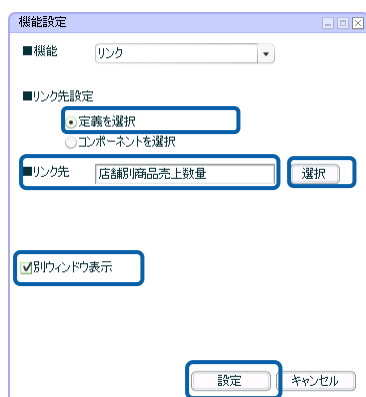
[機能設定] ダイアログが表示されます。

4. [機能] の [] ボタンをクリックし、[リンク] を選択します。

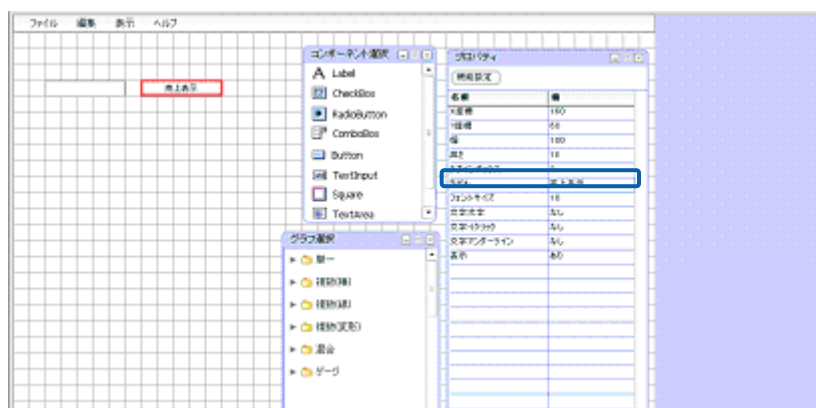


[機能設定] ダイアログがリンク設定用に变化します。

5. [定義を選択] をクリックして選択します。
6. [リンク先] の [選択] ボタンをクリックし、[照会定義選択] ダイアログでリンク先の照会定義「店舗別商品売上数量」を選択します。
7. [別ウィンドウ表示] チェックボックスにチェックマークを付けます。
8. [設定] ボタンをクリックします。



9. ボタンのラベルを設定します。
ボタンを選択し、プロパティウィンドウで [ラベル] に「売上表示」と入力します。



10. 必要に応じて、テキストインプットの使用方法を示すテキストを配置します。
ラベルを配置し、プロパティウィンドウの[テキスト]に「店舗コードを入力してください。」と入力します。
また、店舗コードに対応する店舗名を示すため、表を配置し、照会定義「店舗情報」をバインドします。



表に照会定義のデータをバインドする方法については、『第2章 7 表』を参照してください。



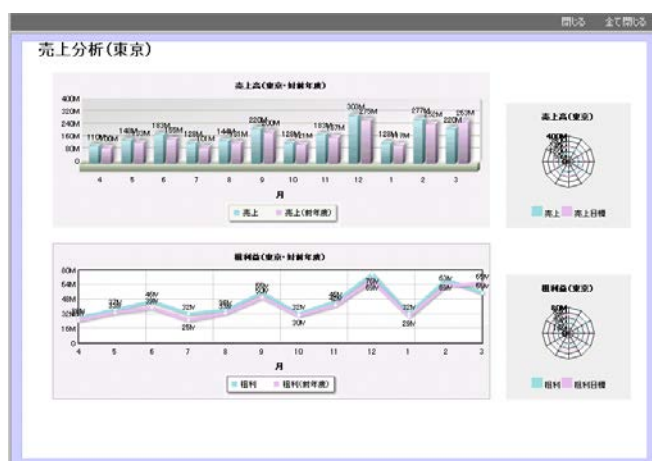
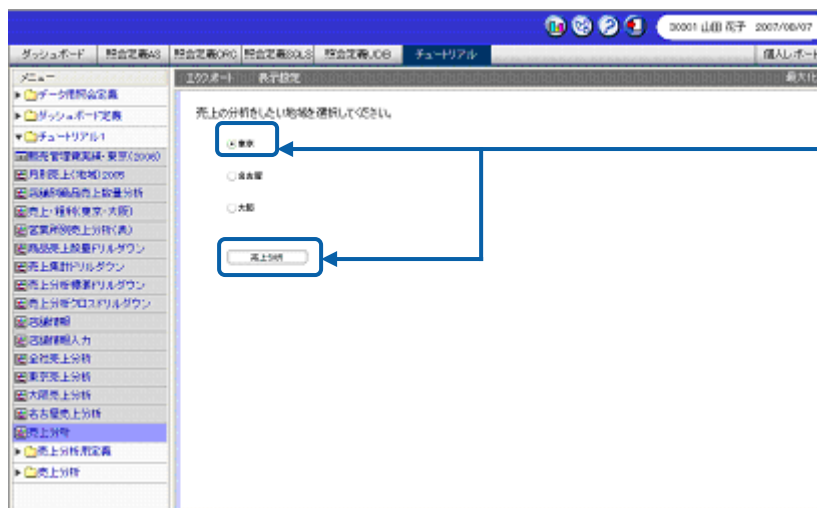
11. 編集した内容をダッシュボード定義として保管し、ダッシュボードエディタを終了します。
12. Web 実行画面で保管したダッシュボード定義を実行し、リンクの設定が正しくできているか確認します。

選択リンク先定義

複数の選択肢からリンク先を選択するには、チェックボックス、ラジオボタン、コンボボックスのいずれか1つとボタンを組み合わせるダッシュボード定義を作成します。

ただし、ラジオボタンとコンボボックスの場合は、「自動リンク」の機能を設定しておく、ボタンがなくても、リンク先のデータを表示することができます。

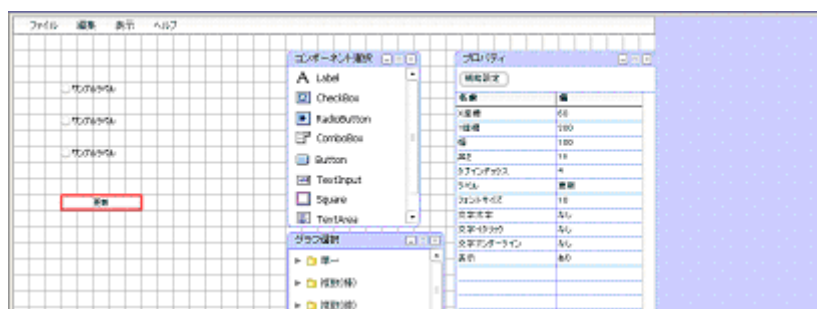
ここでは、以下のように3つのラジオボタンにそれぞれリンク先を設定し、選択されたラジオボタンによって、異なるダッシュボード定義を別ウィンドウに表示する例で手順を説明します。



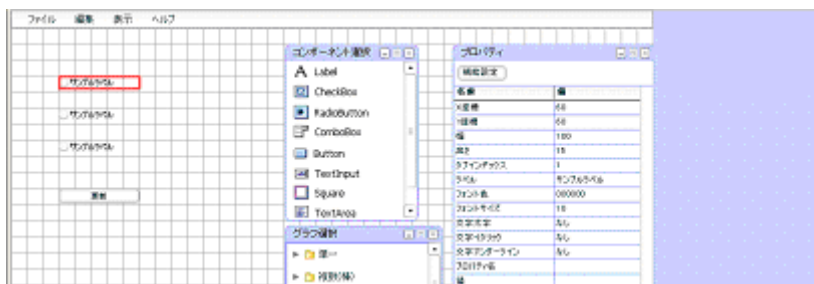
「東京」の売上分析データ

手順

1. コンポーネント選択ウィンドウからラジオボタンを3つ、ボタンを1つドラッグ&ドロップし、キャンバス上に配置します。

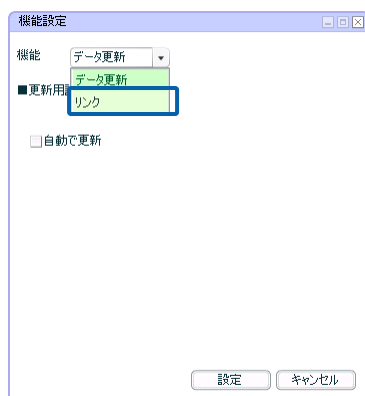


2. ラジオボタンにリンク先を設定します。
のラジオボタンを選択し、プロパティウィンドウの[機能設定]ボタンをクリックします。

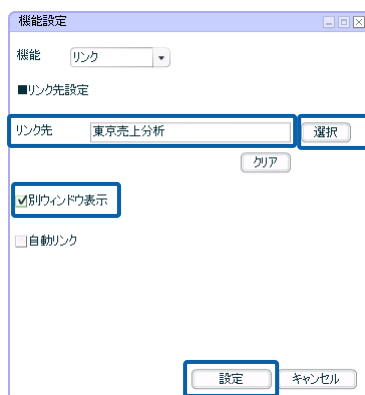


[機能設定] ダイアログが表示されます。

3. [機能] の [] ボタンをクリックし、[リンク] を選択します。



4. [リンク先] の [選択] ボタンをクリックし、[照会定義選択] ダイアログでリンク先のダッシュボード定義「東京売上分析」を選択します。
5. [別ウィンドウ表示] チェックボックスにチェックマークを付けます。
6. [設定] ボタンをクリックします。



ラジオボタンで [自動リンク] チェックボックスにチェックマークを付けると、ダッシュボード定義実行時に値を選択するだけで、リンク先が表示されます。

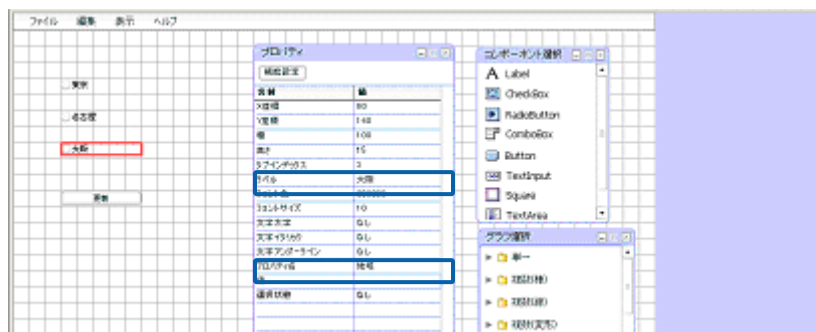
7. 手順 2～6 を繰り返し、
、
のラジオボタンにもリンク先を設定します。

┆ のラジオボタン：ダッシュボード定義「名古屋売上分析」

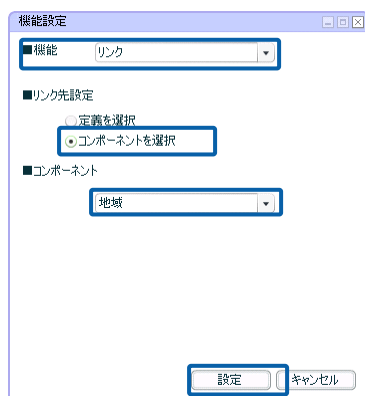
1. のラジオボタン：ダッシュボード定義「大阪売上分析」

8. ラジオボタンにプロパティ名とラベルを設定します。
ラジオボタンを選択し、プロパティウィンドウで [プロパティ名] にラジオボタンのグループ名を、 [ラベル] にラベルに表示するテキストを設定します。

プロパティ	ラジオボタン		
	のラジオボタン	のラジオボタン	のラジオボタン
[ラベル]	「東京」	「名古屋」	「大阪」
[プロパティ名]	「地域」	「地域」	「地域」

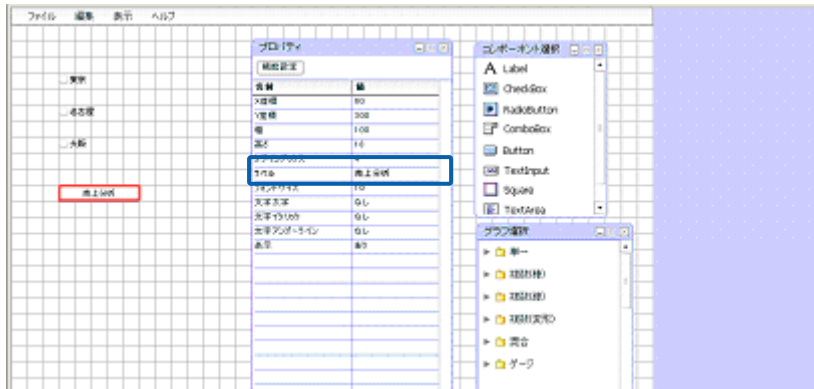


9. ボタンにリンクの機能を設定します。
ボタンを選択し、プロパティウィンドウの [機能設定] ボタンをクリックします。
[機能設定] ダイアログが表示されます。
10. [機能] の [] ボタンをクリックし、[リンク] を選択します。
11. [コンポーネントを選択] をクリックして選択します。
12. [コンポーネント] の [] ボタンをクリックし、ラジオボタンに設定したプロパティ名「地域」を選択します。
13. [設定] ボタンをクリックします。



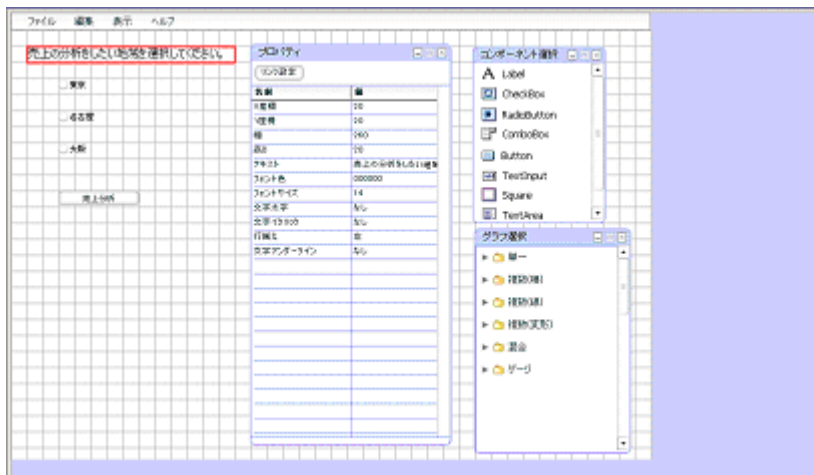
14. ボタンのラベルを設定します。

ボタンを選択し、プロパティウィンドウで [ラベル] にボタンに表示する名前「売上分析」を入力します。



15. 必要に応じて、ラジオボタンの上に使い方を示すテキストを配置します。

ラベルを配置し、プロパティウィンドウの [テキスト] に「売上の分析をしたい地域を選択してください。」と入力します。



16. 編集した内容をダッシュボード定義として保管し、ダッシュボードエディタを終了します。

17. Web 実行画面で保管したダッシュボード定義を実行し、リンクの設定が正しくできているか確認します。

3 ナビゲーション・バーの設定

ナビゲーション・バーの機能を利用すると、ダッシュボード上に、ラジオボタンやチェックボックス、コンボボックスなどのコンポーネントを複数配置し、これらの組み合わせによって、リンク先のダッシュボード定義を切り替えることができます。

リンク先は、コンポーネントの組み合わせの数だけ設定できます。たとえば、チェックボックスを1つ、ラジオボタンが2つのラジオグループ(ラジオボタンAとラジオボタンBとする)を1つ配置する場合は、次のような4とおりの組み合わせで4つのリンク先を設定できます。

- ・ チェックボックスがオンでラジオボタンAがオン
- ・ チェックボックスがオフでラジオボタンAがオン
- ・ チェックボックスがオンでラジオボタンBがオン
- ・ チェックボックスがオフでラジオボタンBがオン

以下のコンポーネントには、ナビゲーション・バー定義の設定時のみ、プロパティウィンドウで[ナビゲーション用]プロパティを設定できます。

- ・ チェックボックス
- ・ ラジオボタン
- ・ コンボボックス

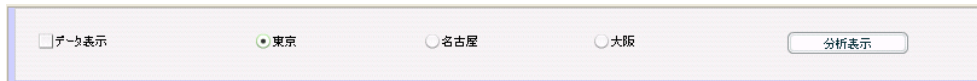


[ナビゲーション用]プロパティが「あり」(デフォルト)の場合は、リンク先のダッシュボード定義を切り替えるために使用されます。

[ナビゲーション用]プロパティを「なし」に設定すると、リンク先の設定には使用されず、ダッシュボード定義を表示する際にデータ更新用として使用されません。このとき、[ナビゲーション設定]ダイアログにこれらのコンポーネントは表示されません。

これらのコンポーネントをデータ更新用として利用する方法については、『付録 2-2 チェックボックス』、『付録 2-3 ラジオボタン』、『付録 2-4 コンボボックス』の「データ更新の場合」を参照してください。

ここでは、以下のようにチェックボックスを1つ、ラジオボタンが3つのラジオグループを1つ配置するナビゲーション・バーを定義する例で手順を説明します。



ナビゲーション・バーにチェックボックスとラジオボタンを配置し、ボタンに各コンポーネントが選択されたときのリンク先を設定



保管されたダッシュボード定義を実行

初期状態では、[データ表示]チェックボックスがオフ、ラジオボタン[東京]がオンになっているので、「東京」の売上分析が表示される



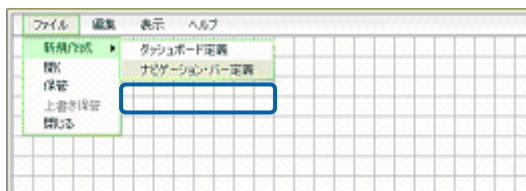
[データ表示] チェックボックスをオン、ラジオボタン [大阪] をオンにして [分析表示] ボタンをクリック



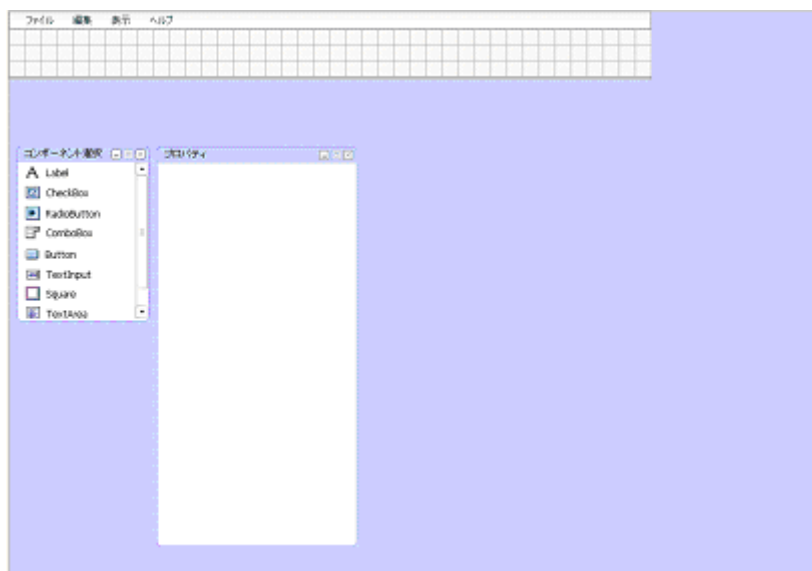
「大阪」の売上分析(データあり)を表示

手順

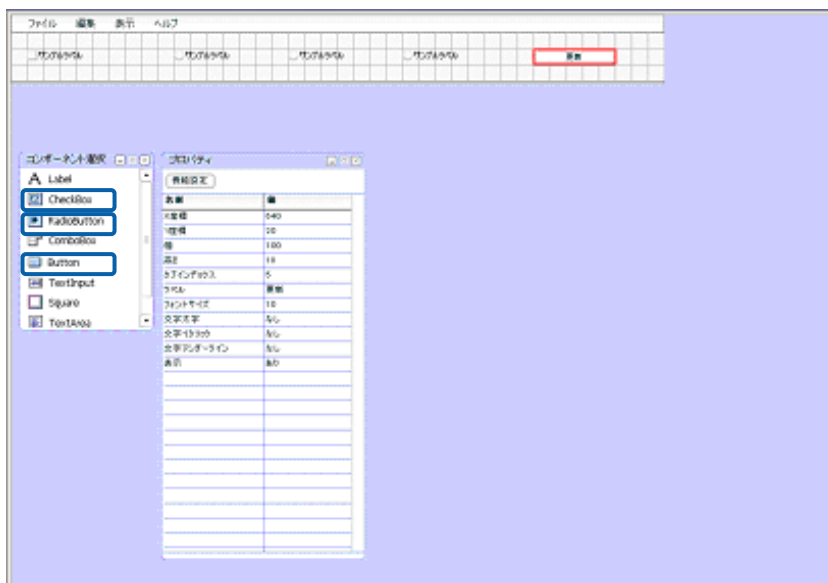
1. ダッシュボードエディタの [ファイル] メニューの [新規作成] - [ナビゲーション・パー定義] を選択します。



ダッシュボードエディタの上部にコンポーネントを配置するための白紙のキャンバスが表示されます。



2. キャンバス上にコンポーネントを配置します。
コンポーネント選択ウィンドウからチェックボックスを1つ、ラジオボタンを3つ、ボタンを1つドラッグ&ドロップします。



3. 各コンポーネントのプロパティをプロパティウィンドウで設定します。

プロパティ	チェックボックス	ラジオボタン			ボタン
	の チェックボックス	の ラジオボタン	の ラジオボタン	の ラジオボタン	の ボタン
[ラベル]	「データ表示」	「東京」	「名古屋」	「大阪」	-
[プロパティ名]	「データ表示」	「地域」	「地域」	「地域」	-
[値]	-	「01」	「02」	「03」	-
[選択状態]	-	「あり」	「なし」	「なし」	-
[テキスト]	-	-	-	-	「分析表示」

4. ボタンを選択し、プロパティウィンドウの [機能設定] ボタンをクリックします。

[ナビゲーション設定] ダイアログが表示されます。

ダイアログの上部には、キャンバスに配置したボタン以外のコンポーネントが表示されます。



5. のチェックボックスがオフで のラジオボタンがオンの場合のリンク先を設定します。
 ダイアログ上部の のラジオボタンがオンになっていることを確認します。 のチェックボックスはオフにしておきます。



6. [リンク先]の[選択]ボタンをクリックし、[照会定義]ダイアログでリンク先のダッシュボード定義「東京売上分析」を選択します。

[リンク先]に選択したダッシュボード定義が表示されます。



7. [追加]ボタンをクリックします。

ダイアログの一覧にリンク先とコンポーネントの選択状態が表示されます。



8. 同様にして、以下の場合のリンク先のダッシュボード定義を設定します。
- ┆ のチェックボックスがオンで のラジオボタンがオン：「東京売上分析(データあり)」
 - ┆ のチェックボックスがオフで のラジオボタンがオン：「名古屋売上分析」
 - ┆ のチェックボックスがオンで のラジオボタンがオン：「名古屋売上分析(データあり)」
 - ┆ のチェックボックスがオフで のラジオボタンがオン：「大阪売上分析」
 - ┆ のチェックボックスがオンで のラジオボタンがオン：「大阪売上分析(データあり)」
9. すべてのリンク先が設定できたら、[設定] ボタンをクリックします。



10. 編集した内容をダッシュボード定義として保管し、ダッシュボードエディタを終了します。
11. Web 実行画面で保管したダッシュボード定義を実行し、ナビゲーション・バーのリンクの設定が正しくできているか確認します。

付

録

リファレンス

1 グラフのプロパティ

この章では、それぞれのグラフで設定できるプロパティについて説明します。

グラフのプロパティは、プロパティウィンドウで設定します。

グラフのプロパティウィンドウには、ボタンが3つ配置されています。

- ・ [データ設定] ボタン

グラフに照会定義をバインドするためのボタンです。

- ・ [リンク設定] ボタン

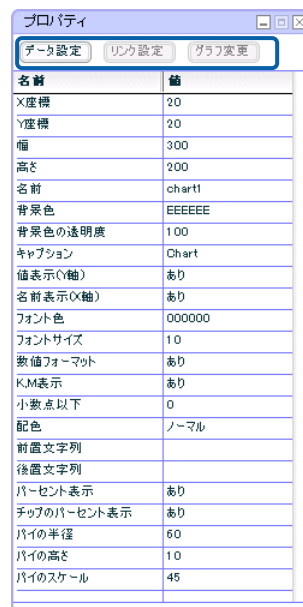
グラフにリンクやドリルダウンを設定するためのボタンです。

グラフにデータバインドすると、ボタンが有効になります。

- ・ [グラフ変更] ボタン

データバインドしたグラフの種類を変更するためのボタンです。

グラフにデータバインドすると、ボタンが有効になります。



「3D 円グラフ」のプロパティウィンドウ

プロパティの設定については、『第1章 4-4 プロパティの設定』を参照してください。

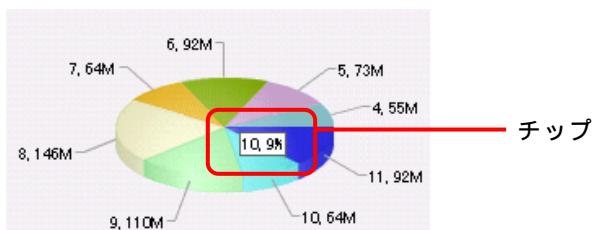
1-1 3D 円グラフ



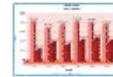
プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X 座標	x座標です。ページの左上を原点(0)としてピクセル単位で表されます。
Y 座標	y座標です。ページの左上を原点(0)としてピクセル単位で表されます。
幅	グラフオブジェクトの幅です。
高さ	グラフオブジェクトの高さです。
名前	グラフを判別するための名前です。
背景色	グラフの背景色です。
背景色の透明度	グラフの背景色の透明度です。
キャプション	グラフ上部に表示されるテキストです。照会定義を選択すると、定義名が自動的に入力されます。
値表示(Y 軸)	グラフの近くに値を表示するかどうかです。
名前表示(X 軸)	グラフ近くに名前を表示するかどうかです。
フォント色	グラフに表示される文字の色です。
フォントサイズ	グラフに表示される文字の大きさです。
数値フォーマット	グラフの数値のカンマ区切りの有無と、小数点以下の数値の表示数を指定するかどうかです。
K,M 表示	グラフで使用する値が大きい場合に、K(キロ),M(メガ)で丸めて表示をするかどうかです。
小数点以下	小数点以下の値の数です。
配色	グラフのパイや線の色セットです。
前置文字列	グラフのデータに付ける接頭辞です。(¥ など)
後置文字列	グラフのデータに付ける接尾辞です。
パーセント表示	実際の値を表示するか、パーセントを表示するかです。
チップのパーセント表示	本製品の実行画面で見た時に表示されるチップに、実際の値を表示するか、パーセント表示をするかです。
パイの半径	パイの半径です。
パイの高さ	パイの高さです。
パイのスケール	グラフの傾斜角度です。

- ・ 「パーセント表示」はラベルの横の数値表示を変更します。
- ・ 「チップのパーセント表示」は「チップ」の数値表示を変更します。

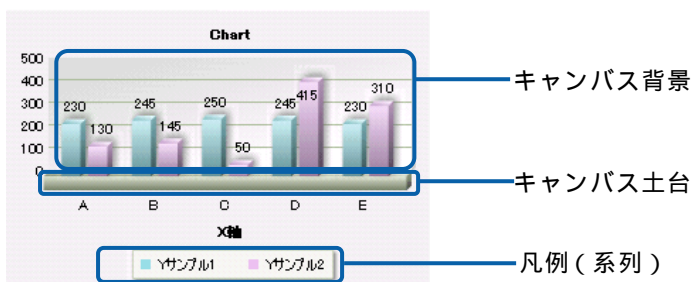


1-2 3D 棒グラフ



プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X 座標	X座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
Y 座標	Y座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
幅	グラフオブジェクトの幅です。
高さ	グラフオブジェクトの高さです。
名前	グラフを判別するための名前です。
背景色	グラフの背景色です。
背景色の透明度	グラフの背景色の透明度です。
キャプション	グラフ上部に表示されるテキストです。照会定義を選択すると、定義名が自動的に入力されます。
値表示	グラフの近くに値を表示するかどうかです。
X 軸表示	X 軸の値の表示の有無です。
フォント色	グラフに表示される文字の色です。
グラフ外のフォント色	グラフ外(キャプションなど)に表示される文字の色です。
フォントサイズ	グラフに表示される文字の大きさです。
数値フォーマット	グラフの数値のカンマ区切りの有無と、小数点以下の数値の表示数を指定するかどうかです。
K,M 表示	グラフで使用する値が大きい場合に、K(キロ),M(メガ)で丸めて表示をするかどうかです。
小数点以下	小数点以下の値の数です。
目盛の小数点以下	目盛に表示する小数点以下の値の数です。
凡例表示	凡例表示の有無です。
左余白	グラフの左部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
右余白	グラフの右部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
上余白	グラフの上部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
下余白	グラフの下部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
Y 軸分割線	Y 軸の分割線の数です。
配色	グラフの棒や線の色のセットです。
基準値設定	基準値とする線を設定します。
X 軸の名前	X 軸の名前です。X 軸に項目名を割り当てると、自動的に設定されます。
前置文字列	グラフのデータに付ける接頭辞です。(¥など)
後置文字列	グラフのデータに付ける接尾辞です。(%など)
Y 軸の最大値	Y 軸の最大値です。
Y 軸の最小値	Y 軸の最小値です。
アニメーション表示	アニメーション表示の有無です。
キャンパスの背景色	グラフキャンパスの背景色です。
キャンパスの土台の厚さ	グラフの土台部分の厚さです。
キャンパス背景表示	キャンパス背景の表示の有無です。
キャンパス土台表示	キャンパス土台の表示の有無です。
奥行き	グラフの奥行きです。

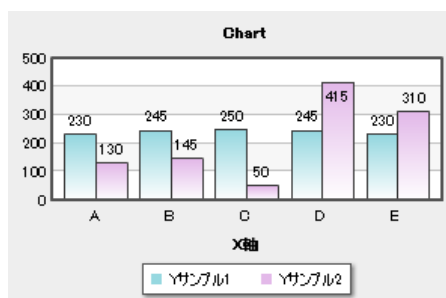


1-3 2D 棒グラフ

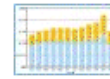


プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X 座標	X座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
Y 座標	Y座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
幅	グラフオブジェクトの幅です。
高さ	グラフオブジェクトの高さです。
名前	グラフを判別するための名前です。
背景色	グラフの背景色です。
背景色の透明度	グラフの背景色の透明度です。
キャプション	グラフ上部に表示されるテキストです。照会定義を選択すると、定義名が自動的に入力されます。
値表示	グラフの近くに値を表示するかどうかです。
X 軸表示	X 軸の値の表示の有無です。
フォント色	グラフに表示される文字の色です。
グラフ外のフォント色	グラフ外(キャプションなど)に表示される文字の色です。
フォントサイズ	グラフに表示される文字の大きさです。
数値フォーマット	グラフの数値のカンマ区切りの有無と、小数点以下の数値の表示数を指定するかどうかです。
K,M 表示	グラフで使用する値が大きい場合に、K(キロ),M(メガ)で丸めて表示をするかどうかです。
小数点以下	小数点以下の値の数です。
目盛の小数点以下	目盛に表示する小数点以下の値の数です。
凡例表示	凡例表示の有無です。
左余白	グラフの左部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
右余白	グラフの右部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
上余白	グラフの上部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
下余白	グラフの下部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
Y 軸分割線	Y 軸の分割線の数です。
配色	グラフの棒や線の色セットです。
基準値設定	基準値とする線を設定します。
X 軸の名前	X 軸の名前です。X 軸に項目名を割り当てると、自動的に設定されます。
前置文字列	グラフのデータに付ける接頭辞です。(¥など)
後置文字列	グラフのデータに付ける接尾辞です。(%など)
Y 軸の最大値	Y 軸の最大値です。
Y 軸の最小値	Y 軸の最小値です。
アニメーション表示	アニメーション表示の有無です。
キャンパスの背景色	グラフキャンパスの背景色です。
スクロール表示	X 軸にスクロールバーを表示するかどうかです。
スクロールなしの表示数	グラフの棒の数が、この設定値を超えるとスクロールバーを表示します。
スクロールバーの色	スクロールバーの色です。
スクロールバーの高さ	スクロールバーの高さです。

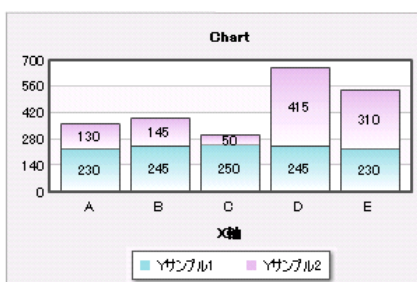


1-4 2D 積上げグラフ



プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X 座標	x座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
Y 座標	y座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
幅	グラフオブジェクトの幅です。
高さ	グラフオブジェクトの高さです。
名前	グラフを判別するための名前です。
背景色	グラフの背景色です。
背景色の透明度	グラフの背景色の透明度です。
キャプション	グラフ上部に表示されるテキストです。照会定義を選択すると、定義名が自動的に入力されます。
値表示	グラフの近くに値を表示するかどうかです。
X 軸表示	X 軸の値の表示の有無です。
フォント色	グラフに表示される文字の色です。
グラフ外のフォント色	グラフ外(キャプションなど)に表示される文字の色です。
フォントサイズ	グラフに表示される文字の大きさです。
数値フォーマット	グラフの数値のカンマ区切りの有無と、小数点以下の数値の表示数を指定するかどうかです。
K,M 表示	グラフで使用する値が大きい場合に、K(キロ),M(メガ)で丸めて表示をするかどうかです。
小数点以下	小数点以下の値の数です。
目盛の小数点以下	目盛に表示する小数点以下の値の数です。
凡例表示	凡例表示の有無です。
左余白	グラフの左部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
右余白	グラフの右部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
上余白	グラフの上部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
下余白	グラフの下部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
Y 軸分割線	Y 軸の分割線の数です。
配色	グラフの棒や線の色を組み合わせたセットです。
基準値設定	基準値とする線を設定します。
X 軸の名前	X 軸の名前です。X 軸に項目名を割り当てると、自動的に設定されます。
前置文字列	グラフのデータに付ける接頭辞です。(¥ など)
後置文字列	グラフのデータに付ける接尾辞です。(% など)
Y 軸の最大値	Y 軸の最大値です。
Y 軸の最小値	Y 軸の最小値です。 (V4.2 互換用です。V5 以降は設定しても反映されません)
アニメーション表示	アニメーション表示の有無です。
キャンパスの背景色	グラフキャンパスの背景色です。
スクロール表示	X 軸にスクロールバーを表示するかどうかです。
スクロールなしの表示数	グラフの棒の数が、この設定値を超えるとスクロールバーを表示しません。
スクロールバーの色	スクロールバーの色です。
スクロールバーの高さ	スクロールバーの高さです。

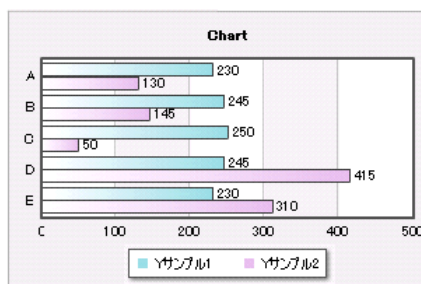


1-5 2D 横棒グラフ



プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X 座標	x座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
Y 座標	y座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
幅	グラフオブジェクトの幅です。
高さ	グラフオブジェクトの高さです。
名前	グラフを判別するための名前です。
背景色	グラフの背景色です。
背景色の透明度	グラフの背景色の透明度です。
キャプション	グラフ上部に表示されるテキストです。照会定義を選択すると、定義名が自動的に入力されます。
値表示	グラフの近くに値を表示するかどうかです。
X 軸表示	X 軸の値の表示の有無です。
フォント色	グラフに表示される文字の色です。
グラフ外のフォント色	グラフ外(キャプションなど)に表示される文字の色です。
フォントサイズ	グラフに表示される文字の大きさです。
数値フォーマット	グラフの数値のカンマ区切りの有無と、小数点以下の数値の表示数を指定するかどうかです。
K,M 表示	グラフで使用する値が大きい場合に、K(キロ),M(メガ)で丸めて表示をするかどうかです。
小数点以下	小数点以下の値の数です。
目盛の小数点以下	目盛に表示する小数点以下の値の数です。
凡例表示	凡例表示の有無です。
左余白	グラフの左部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
右余白	グラフの右部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
上余白	グラフの上部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
下余白	グラフの下部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
Y 軸分割線	Y 軸の分割線の数です。
配色	グラフの棒や線の色のセットです。
基準値設定	基準値とする線を設定します。
前置文字列	グラフのデータに付ける接頭辞です。(¥など)
後置文字列	グラフのデータに付ける接尾辞です。(%など)
Y 軸の最大値	Y 軸の最大値です。
Y 軸の最小値	Y 軸の最小値です。
アニメーション表示	アニメーション表示の有無です。
キャンパスの背景色	グラフキャンパスの背景色です。

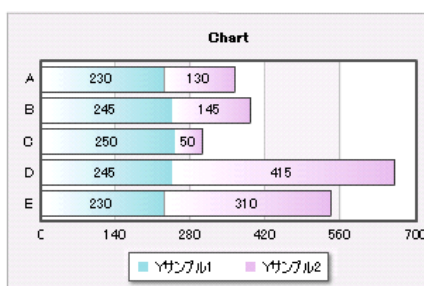


1-6 2D 横棒積上げグラフ



プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X 座標	X座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
Y 座標	Y座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
幅	グラフオブジェクトの幅です。
高さ	グラフオブジェクトの高さです。
名前	グラフを判別するための名前です。
背景色	グラフの背景色です。
背景色の透明度	グラフの背景色の透明度です。
キャプション	グラフ上部に表示されるテキストです。照会定義を選択すると、定義名が自動的に入力されます。
値表示	グラフの近くに値を表示するかどうかです。
X 軸表示	X 軸の値の表示の有無です。
フォント色	グラフに表示される文字の色です。
グラフ外のフォント色	グラフ外(キャプションなど)に表示される文字の色です。
フォントサイズ	グラフに表示される文字の大きさです。
数値フォーマット	グラフの数値のカンマ区切りの有無と、小数点以下の数値の表示数を指定するかどうかです。
K,M 表示	グラフで使用する値が大きい場合に、K(キロ),M(メガ)で丸めて表示をするかどうかです。
小数点以下	小数点以下の値の数です。
目盛の小数点以下	目盛に表示する小数点以下の値の数です。
凡例表示	凡例表示の有無です。
左余白	グラフの左部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
右余白	グラフの右部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
上余白	グラフの上部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
下余白	グラフの下部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
Y 軸分割線	Y 軸の分割線の数です。
配色	グラフの棒や線の色セットです。
基準値設定	基準値とする線を設定します。
前置文字列	グラフのデータに付ける接頭辞です。(¥など)
後置文字列	グラフのデータに付ける接尾辞です。(%など)
Y 軸の最大値	Y 軸の最大値です。
Y 軸の最小値	Y 軸の最小値です。 (V4.2 互換用です。V5 以降は設定しても反映されません)
アニメーション表示	アニメーション表示の有無です。
キャンパスの背景色	グラフキャンパスの背景色です。

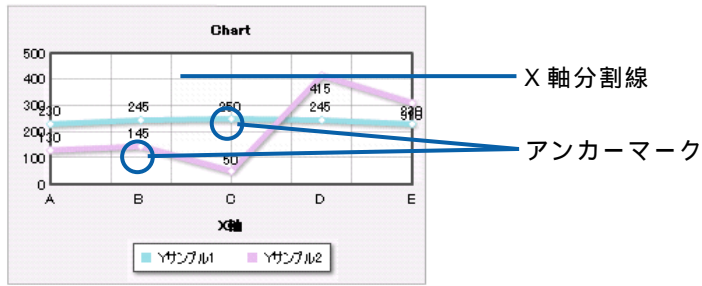


1-7 折れ線グラフ



プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X 座標	x座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
Y 座標	y座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
幅	グラフオブジェクトの幅です。
高さ	グラフオブジェクトの高さです。
名前	グラフを判別するための名前です。
背景色	グラフの背景色です。
背景色の透明度	グラフの背景色の透明度です。
キャプション	グラフ上部に表示されるテキストです。照会定義を選択すると、定義名が自動的に入力されます。
値表示	グラフの近くに値を表示するかどうかです。
X 軸表示	X 軸の値の表示の有無です。
フォント色	グラフに表示される文字の色です。
グラフ外のフォント色	グラフ外(キャプションなど)に表示される文字の色です。
フォントサイズ	グラフに表示される文字の大きさです。
数値フォーマット	グラフの数値のカンマ区切りの有無と、小数点以下の数値の表示数を指定するかどうかです。
K,M 表示	グラフで使用する値が大きい場合に、K(キロ),M(メガ)で丸めて表示をするかどうかです。
小数点以下	小数点以下の値の数です。
目盛の小数点以下	目盛に表示する小数点以下の値の数です。
凡例表示	凡例表示の有無です。
左余白	グラフの左部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
右余白	グラフの右部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
上余白	グラフの上部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
下余白	グラフの下部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
Y 軸分割線	Y 軸の分割線の数です。
配色	グラフのアンカーマークや線の色のセットです。
基準値設定	基準値とする線を設定します。
X 軸の名前	X 軸の名前です。X 軸に項目名を割り当てると、自動的に設定されます。
前置文字列	グラフのデータに付ける接頭辞です。(¥など)
後置文字列	グラフのデータに付ける接尾辞です。(%)など)
Y 軸の最大値	Y 軸の最大値です。
Y 軸の最小値	Y 軸の最小値です。
アニメーション表示	アニメーション表示の有無です。
キャンパスの背景色	グラフキャンパスの背景色です。
線の太さ	グラフに使用される折れ線の線の太さです。
アンカーマーク表示	値部分に表示されるアンカーマークの有無です。「なし」の場合、本製品の実行画面でのチップも表示されません。
アンカーマークの角の数	アンカーマークの角の数です。形を設定できます。3ならば、4ならばの表示になります。
X 軸分割線	X 軸の分割線の数です。
スクロール表示	X 軸にスクロールバーを表示するかどうかです。
スクロールなしの表示数	X 軸のデータ数が、この設定値を超えるとスクロールバーを表示します。
スクロールバーの色	スクロールバーの色です。
スクロールバーの高さ	スクロールバーの高さです。

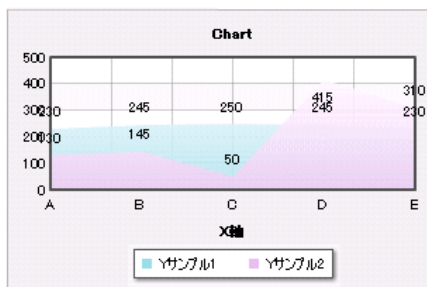


1-8 2D エリアグラフ



プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X 座標	x座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
Y 座標	y座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
幅	グラフオブジェクトの幅です。
高さ	グラフオブジェクトの高さです。
名前	グラフを判別するための名前です。
背景色	グラフの背景色です。
背景色の透明度	グラフの背景色の透明度です。
キャプション	グラフ上部に表示されるテキストです。照会定義を選択すると、定義名が自動的に入力されます。
値表示	グラフの近くに値を表示するかどうかです。
X 軸表示	X 軸の値の表示の有無です。
フォント色	グラフに表示される文字の色です。
グラフ外のフォント色	グラフ外(キャプションなど)に表示される文字の色です。
フォントサイズ	グラフに表示される文字の大きさです。
数値フォーマット	グラフの数値のカンマ区切りの有無と、小数点以下の数値の表示数を指定するかどうかです。
K,M 表示	グラフで使用する値が大きい場合に、K(キロ),M(メガ)で丸めて表示をするかどうかです。
小数点以下	小数点以下の値の数です。
目盛の小数点以下	目盛に表示する小数点以下の値の数です。
凡例表示	凡例表示の有無です。
左余白	グラフの左部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
右余白	グラフの右部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
上余白	グラフの上部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
下余白	グラフの下部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
Y 軸分割線	Y 軸の分割線の数です。
配色	グラフのエリアや線の色の設定です。
基準値設定	基準値とする線を設定します。
X 軸の名前	X 軸の名前です。X 軸に項目名を割り当てると、自動的に設定されます。
前置文字列	グラフのデータに付ける接頭辞です。(¥など)
後置文字列	グラフのデータに付ける接尾辞です。(%など)
Y 軸の最大値	Y 軸の最大値です。
Y 軸の最小値	Y 軸の最小値です。
アニメーション表示	アニメーション表示の有無です。
キャンパスの背景色	グラフキャンパスの背景色です。
線表示	グラフのエリアの上に線を表示するかどうかです。
線表示の太さ	エリアの上に表示する線の太さです。
線の色	エリアの上に表示する線の色です。
エリア色の透明度	エリアの色の透明度です。
X 軸分割線	X 軸の分割線の数です。
スクロール表示	X 軸にスクロールバーを表示するかどうかです。
スクロールなしの表示数	X 軸のデータ数が、この設定値を超えるとスクロールバーを表示します。
スクロールバーの色	スクロールバーの色です。
スクロールバーの高さ	スクロールバーの高さです。

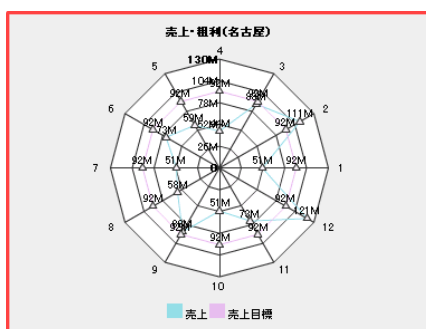


1-9 レーダーチャート



プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X 座標	X座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
Y 座標	Y座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
幅	グラフオブジェクトの幅です。
高さ	グラフオブジェクトの高さです。
名前	グラフを判別するための名前です。
背景色	グラフの背景色です。
背景色の透明度	グラフの背景色の透明度です。
キャプション	グラフ上部に表示されるテキストです。照会定義を選択すると、定義名が自動的に入力されます。
値表示	グラフの近くに値を表示するかどうかです。
X 軸表示	X 軸の値の表示の有無です。
フォント色	グラフに表示される文字の色です。
グラフ外のフォント色	グラフ外(キャプションなど)に表示される文字の色です。
フォントサイズ	グラフに表示される文字の大きさです。
数値フォーマット	グラフの数値のカンマ区切りの有無と、小数点以下の数値の表示数を指定するかどうかです。
K,M 表示	グラフで使用する値が大きい場合に、K(キロ),M(メガ)で丸めて表示をするかどうかです。
小数点以下	小数点以下の値の数です。
目盛の小数点以下	目盛に表示する小数点以下の値の数です。
凡例表示	凡例表示の有無です。
左余白	グラフの左部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
右余白	グラフの右部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
上余白	グラフの上部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
下余白	グラフの下部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
Y 軸分割線	Y 軸の分割線の数です。
配色	グラフのアンカーマークや線の色のセットです。
前置文字列	グラフのデータに付ける接頭辞です。(¥など)
後置文字列	グラフのデータに付ける接尾辞です。(%など)
キャンパスの背景色	グラフキャンパスの背景色です。
レーダーの半径	レーダーの半径です。
Y 軸の最大値	Y 軸の最大値です。
Y 軸の最小値	Y 軸の最小値です。
線の太さ	グラフに使用される折れ線の線の太さです。
アンカーマーク表示	値部分に表示されるアンカーマークの有無です。「なし」の場合、本製品の実行画面でのチップも表示されません。
アンカーマークの角の数	アンカーマークの角の数です。形を設定できます。3ならば、4ならばの表示になります。

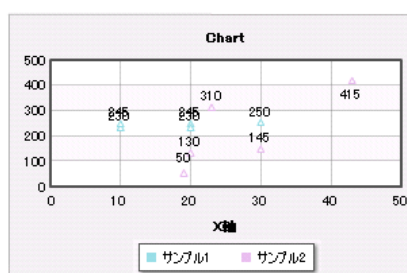


1-10 散布図



プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X 座標	X座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
Y 座標	Y座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
幅	グラフオブジェクトの幅です。
高さ	グラフオブジェクトの高さです。
名前	グラフを判別するための名前です。
背景色	グラフの背景色です。
背景色の透明度	グラフの背景色の透明度です。
キャプション	グラフ上部に表示されるテキストです。照会定義を選択すると、定義名が自動的に入力されます。
値表示	グラフの近くに値を表示するかどうかです。
X 軸表示	X 軸の値の表示の有無です。
フォント色	グラフに表示される文字の色です。
グラフ外のフォント色	グラフ外(キャプションなど)に表示される文字の色です。
フォントサイズ	グラフに表示される文字の大きさです。
数値フォーマット	グラフの数値のカンマ区切りの有無と、小数点以下の数値の表示数を指定するかどうかです。
K,M 表示	グラフで使用する値が大きい場合に、K(キロ),M(メガ)で丸めて表示をするかどうかです。
小数点以下	小数点以下の値の数です。
目盛の小数点以下	目盛に表示する小数点以下の値の数です。
凡例表示	凡例表示の有無です。
左余白	グラフの左部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
右余白	グラフの右部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
上余白	グラフの上部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
下余白	グラフの下部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
Y 軸分割線	Y 軸の分割線の数です。
配色	グラフのアンカーマークの色のセットです。
X 軸基準値設定	X 軸の基準値とする線を設定します。
Y 軸基準値設定	Y 軸の基準値とする線を設定します。
X 軸の名前	X 軸の名前です。X 軸に項目名を割り当てると、自動的に設定されます。
前置文字列	グラフのデータに付ける接頭辞です。(¥など)
後置文字列	グラフのデータに付ける接尾辞です。(%など)
X 軸の最大値	X 軸の最大値です。
X 軸の最小値	X 軸の最小値です。
Y 軸の最大値	Y 軸の最大値です。
Y 軸の最小値	Y 軸の最小値です。
X 軸分割線	X 軸の分割線の数です。
キャンパスの背景色	グラフキャンパスの背景色です。
関連線の透明度	アンカーマークをつなぐ線の透明度です。
アンカーマークの角の数	アンカーマークの角の数です。形を設定できます。3ならば、4ならばの表示になります。

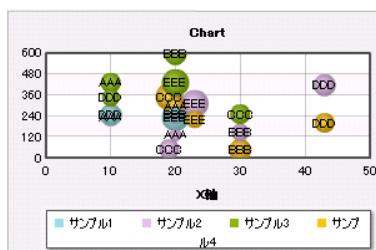


1-11 バブルチャート

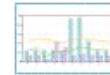


プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X 座標	X座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
Y 座標	Y座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
幅	グラフオブジェクトの幅です。
高さ	グラフオブジェクトの高さです。
名前	グラフを判別するための名前です。
背景色	グラフの背景色です。
背景色の透明度	グラフの背景色の透明度です。
キャプション	グラフ上部に表示されるテキストです。照会定義を選択すると、定義名が自動的に入力されます。
値表示	グラフの近くに値を表示するかどうかです。
X 軸表示	X 軸の値の表示の有無です。
フォント色	グラフに表示される文字の色です。
グラフ外のフォント色	グラフ外(キャプションなど)に表示される文字の色です。
フォントサイズ	グラフに表示される文字の大きさです。
数値フォーマット	グラフの数値のカンマ区切りの有無と、小数点以下の数値の表示数を指定するかどうかです。
K,M 表示	グラフで使用する値が大きい場合に、K(キロ),M(メガ)で丸めて表示をするかどうかです。
小数点以下	小数点以下の値の数です。
目盛の小数点以下	目盛に表示する小数点以下の値の数です。
凡例表示	凡例表示の有無です。
左余白	グラフの左部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
右余白	グラフの右部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
上余白	グラフの上部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
下余白	グラフの下部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
Y 軸分割線	Y 軸の分割線の数です。
配色	グラフのバブルの色のセットです。
X 軸基準値設定	X 軸の基準値とする線を設定します。
Y 軸基準値設定	Y 軸の基準値とする線を設定します。
X 軸の名前	X 軸の名前です。X 軸に項目名を割り当てると、自動的に設定されます。
前置文字列	グラフのデータに付ける接頭辞です。(¥など)
後置文字列	グラフのデータに付ける接尾辞です。(%など)
X 軸の最大値	X 軸の最大値です。
X 軸の最小値	X 軸の最小値です。
Y 軸の最大値	Y 軸の最大値です。
Y 軸の最小値	Y 軸の最小値です。
X 軸分割線	X 軸の分割線の数です。
キャンパスの背景色	グラフキャンパスの背景色です。
アニメーション表示	アニメーション表示の有無です。
3D 表現	バブルを 3D で表現するかどうかです。
バブルサイズ補正	バブルのサイズの補正值です。
バブルボーダー透明度	バブルの周囲の境界線の透明度です。
バブルボーダー色	バブルの周囲の境界線の色です。

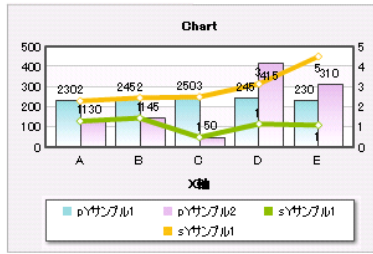


1-12 棒・線グラフ

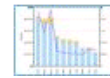


プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X座標	x座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
Y座標	y座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
幅	グラフオブジェクトの幅です。
高さ	グラフオブジェクトの高さです。
名前	グラフを判別するための名前です。
背景色	グラフの背景色です。
背景色の透明度	グラフの背景色の透明度です。
キャプション	グラフ上部に表示されるテキストです。照会定義を選択すると、定義名が自動的に入力されます。
値表示	グラフの近くに値を表示するかどうかです。
X軸表示	X軸の値の表示の有無です。
フォント色	グラフに表示される文字の色です。
グラフ外のフォント色	グラフ外(キャプションなど)に表示される文字の色です。
フォントサイズ	グラフに表示される文字の大きさです。
数値フォーマット	グラフの数値のカンマ区切りの有無と、小数点以下の数値の表示数を指定するかどうかです。
K,M表示	グラフで使用する値が大きい場合に、K(キロ),M(メガ)で丸めて表示をするかどうかです。
小数点以下	小数点以下の値の数です。
目盛の小数点以下	目盛に表示する小数点以下の値の数です。
凡例表示	凡例表示の有無です。
左余白	グラフの左部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
右余白	グラフの右部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
上余白	グラフの上部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
下余白	グラフの下部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
Y軸分割線	Y軸の分割線の数です。
配色	グラフのバブルの色のセットです。
X軸の名前	X軸の名前です。X軸に項目名を割り当てると、自動的に設定されます。
第一Y軸の前置文字列	第一Y軸のデータに付ける接頭辞です。(¥など)
第一Y軸の後置文字列	第一Y軸のデータに付ける接尾辞です。(%など)
第二Y軸の前置文字列	第二Y軸のデータに付ける接頭辞です。(¥など)
第二Y軸の後置文字列	第二Y軸のデータに付ける接尾辞です。(%など)
第一Y軸の最大値	第一Y軸の最大値です。
第一Y軸の最小値	第一Y軸の最小値です。
第二Y軸の最大値	第二Y軸の最大値です。
第二Y軸の最小値	第二Y軸の最小値です。
アニメーション表示	アニメーション表示の有無です。
キャンパスの背景色	グラフキャンパスの背景色です。
線の太さ	グラフに使用される折れ線の線の太さです。
アンカーマーク表示	値部分に表示されるアンカーマークの有無です。「なし」の場合、本製品の実行画面でのチップも表示されません。
アンカーマークの角の数	アンカーマークの角の数です。形を設定できます。3ならば、4ならばの表示になります。
スクロール表示	X軸にスクロールバーを表示するかどうかです。
スクロールなしの表示数	グラフの棒の数が、この設定値を超えるとスクロールバーを表示します。
スクロールバーの色	スクロールバーの色です。
スクロールバーの高さ	スクロールバーの高さです。

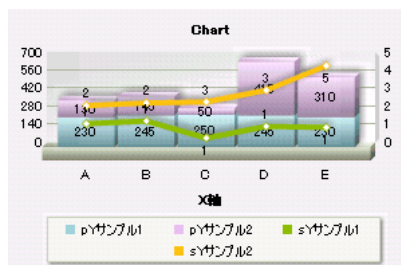


1-13 積上げ・線グラフ



プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X 座標	x座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
Y 座標	y座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
幅	グラフオブジェクトの幅です。
高さ	グラフオブジェクトの高さです。
名前	グラフを判別するための名前です。
背景色	グラフの背景色です。
背景色の透明度	グラフの背景色の透明度です。
キャプション	グラフ上部に表示されるテキストです。照会定義を選択すると、定義名が自動的に入力されます。
値表示	グラフの近くに値を表示するかどうかです。
X 軸表示	X 軸の値の表示の有無です。
フォント色	グラフに表示される文字の色です。
グラフ外のフォント色	グラフ外(キャプションなど)に表示される文字の色です。
フォントサイズ	グラフに表示される文字の大きさです。
数値フォーマット	グラフの数値のカンマ区切りの有無と、小数点以下の数値の表示数を指定するかどうかです。
K,M 表示	グラフで使用する値が大きい場合に、K(キロ),M(メガ)で丸めて表示をするかどうかです。
小数点以下	小数点以下の値の数です。
目盛の小数点以下	目盛に表示する小数点以下の値の数です。
凡例表示	凡例表示の有無です。
左余白	グラフの左部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
右余白	グラフの右部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
上余白	グラフの上部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
下余白	グラフの下部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
Y 軸分割線	Y 軸の分割線の数です。
配色	グラフのバブルの色のセットです。
X 軸の名前	X 軸の名前です。X 軸に項目名を割り当てると、自動的に設定されます。
第一 Y 軸の前置文字列	第一 Y 軸のデータに付ける接頭辞です。(¥ など)
第一 Y 軸の後置文字列	第一 Y 軸のデータに付ける接尾辞です。(% など)
第二 Y 軸の前置文字列	第二 Y 軸のデータに付ける接頭辞です。(¥ など)
第二 Y 軸の後置文字列	第二 Y 軸のデータに付ける接尾辞です。(% など)
第一 Y 軸の最大値	第一 Y 軸の最大値です。
第一 Y 軸の最小値	第一 Y 軸の最小値です。 (V4.2 互換用です。V5 以降は設定しても反映されません)
第二 Y 軸の最大値	第二 Y 軸の最大値です。
第二 Y 軸の最小値	第二 Y 軸の最小値です。
アニメーション表示	アニメーション表示の有無です。
キャンパスの背景色	グラフキャンパスの背景色です。
線の太さ	グラフに使用される折れ線の線の太さです。
アンカーマーク表示	値部分に表示されるアンカーマークの有無です。「なし」の場合、本製品の実行画面でのチップも表示されません。
アンカーマークの角の数	アンカーマークの角の数です。形を設定できます。3 ならば、4 ならばの表示になります。

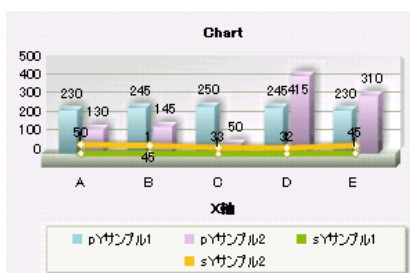


1-14 3D 棒・線グラフ

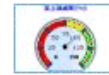


プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X 座標	X座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
Y 座標	Y座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
幅	グラフオブジェクトの幅です。
高さ	グラフオブジェクトの高さです。
名前	グラフを判別するための名前です。
背景色	グラフの背景色です。
背景色の透明度	グラフの背景色の透明度です。
キャプション	グラフ上部に表示されるテキストです。照会定義を選択すると、定義名が自動的に入力されます。
値表示	グラフの近くに値を表示するかどうかです。
X 軸表示	X 軸の値の表示の有無です。
フォント色	グラフに表示される文字の色です。
グラフ外のフォント色	グラフ外(キャプションなど)に表示される文字の色です。
フォントサイズ	グラフに表示される文字の大きさです。
数値フォーマット	グラフの数値のカンマ区切りの有無と、小数点以下の数値の表示数を指定するかどうかです。
K,M 表示	グラフで使用する値が大きい場合に、K(キロ),M(メガ)で丸めて表示をするかどうかです。
小数点以下	小数点以下の値の数です。
目盛の小数点以下	目盛に表示する小数点以下の値の数です。
凡例表示	凡例表示の有無です。
左余白	グラフの左部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
右余白	グラフの右部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
上余白	グラフの上部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
下余白	グラフの下部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
Y 軸分割線	Y 軸の分割線の数です。
配色	グラフのバブルの色のセットです。
X 軸の名前	X 軸の名前です。X 軸に項目名を割り当てると、自動的に設定されます。
前置文字列	グラフのデータに付ける接頭辞です。(¥など)
後置文字列	グラフのデータに付ける接尾辞です。(%など)
Y 軸の最大値	Y 軸の最大値です。
Y 軸の最小値	Y 軸の最小値です。
アニメーション表示	アニメーション表示の有無です。
線の太さ	グラフに使用される折れ線の線の太さです。
アンカーマーク表示	値部分に表示されるアンカーマークの有無です。「なし」の場合、本製品の実行画面でのチップも表示されません。
アンカーマークの角の数	アンカーマークの角の数です。形を設定できます。3 ならば、4 ならばの表示になります。
キャンパスの背景色	グラフキャンパスの背景色です。
キャンパスの土台の厚さ	グラフの土台部分の厚さです。
キャンパス背景表示	キャンパス背景の表示の有無です。
キャンパス土台表示	キャンパス土台の表示の有無です。
奥行き	グラフの奥行きです。



1-15 ゲージ

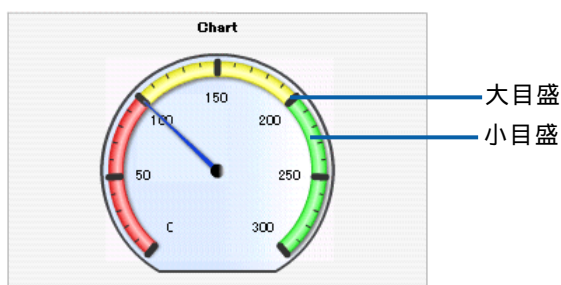


プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X座標	x座標です。ページの左上を原点(0)としてピクセル単位で表されます。
Y座標	y座標です。ページの左上を原点(0)としてピクセル単位で表されます。
幅	グラフオブジェクトの幅です。
高さ	グラフオブジェクトの高さです。
名前	グラフを判別するための名前です。
背景色	グラフの背景です。
背景色の透明度	グラフの背景色の透明度です。
数値フォーマット	グラフの数値のカンマ区切りの有無と、小数点以下の数値の表示数を指定するかどうかです。
K,M表示	グラフで使用する値が大きい場合に、K(キロ),M(メガ)で丸めて表示するかどうかです。
小数点以下	小数点以下の値の数です。
フォントサイズ	グラフに表示される文字の大きさです。
前置文字列	グラフのデータに付ける接頭辞です。(¥など)
後置文字列	グラフのデータに付ける接尾辞です。(%など)
キャプション	グラフ上部に表示されるテキストです。照会定義を選択すると、定義名が自動的に入力されます。
フォント色	グラフに表示される文字の色です。
ゲージ外のフォント色	ゲージの外(キャプションなど)に表示される文字の色です。
最小限界値	ゲージの最小値です。
範囲1の色	最小限界値と境界1の値の間の色です
境界1の値	1つ目の閾値の数値です。
範囲2の色	境界1の値と境界2の値の間の色です。
境界2の値	2つ目の閾値の数値です。
範囲3の色	境界2の値と最大限界値の間の色です。
最大限界値	ゲージの最大値です。
アニメーション表示	アニメーション表示の有無です。
大目盛の数	大きい目盛の数です。
小目盛の数	大きい目盛の中に表示される小さい目盛の数です。
目盛の小数点以下	目盛に表示する小数点以下の値の数を指定します。
ゲージの幅	ゲージの幅です。ピクセル単位で表されます。
ゲージ内数値表示	ゲージの内側または外側の数値の表示です。

ゲージのプロパティは、スピードメーターと同じです。

- ・ 赤字は必須プロパティです。必ず設定してください。



1-16 スピードメーター

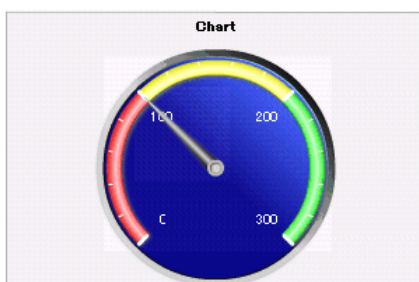


プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X座標	x座標です。ページの左上を原点(0)としてピクセル単位で表されます。
Y座標	y座標です。ページの左上を原点(0)としてピクセル単位で表されます。
幅	グラフオブジェクトの幅です。
高さ	グラフオブジェクトの高さです。
名前	グラフを判別するための名前です。
背景色	グラフの背景です。
背景色の透明度	グラフの背景色の透明度です。
数値フォーマット	グラフの数値のカンマ区切りの有無と、小数点以下の数値の表示数を指定するかどうかです。
K,M表示	グラフで使用する値が大きい場合に、K(キロ),M(メガ)で丸めて表示するかどうかです。
小数点以下	小数点以下の値の数です。
フォントサイズ	グラフに表示される文字の大きさです。
前置文字列	グラフのデータに付ける接頭辞です。(¥など)
後置文字列	グラフのデータに付ける接尾辞です。(%など)
キャプション	グラフ上部に表示されるテキストです。照会定義を選択すると、定義名が自動的に入力されます。
フォント色	グラフに表示される文字の色です。
ゲージ外のフォント色	ゲージの外(キャプションなど)に表示される文字の色です。
最小限界値	ゲージの最小値です。
範囲 1 の色	最小限界値と境界 1 の値の間の色です
境界 1 の値	1 つ目の閾値の数値です。
範囲 2 の色	境界 1 の値と境界 2 の値の間の色です。
境界 2 の値	2 つ目の閾値の数値です。
範囲 3 の色	境界 2 の値と最大限界値の間の色です。
最大限界値	ゲージの最大値です。
アニメーション表示	アニメーション表示の有無です。
大目盛の数	大きい目盛の数です。
小目盛の数	大きい目盛の中に表示される小さい目盛の数です。
目盛の小数点以下	目盛に表示する小数点以下の値の数を指定します。
ゲージの幅	ゲージの幅です。ピクセル単位で表されます。
ゲージ内数値表示	ゲージの内側または外側の数値の表示です。

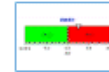
スピードメーターのプロパティは、ゲージと同じです。

- ・ 赤字は必須プロパティです。必ず設定してください。

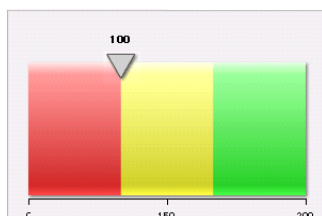


1-17 線ゲージ

プロパティ一覧



プロパティ名	説明
X 座標	x座標です。ページの左上を原点(0)としてピクセル単位で表されます。
Y 座標	y座標です。ページの左上を原点(0)としてピクセル単位で表されます。
幅	グラフオブジェクトの幅です。
高さ	グラフオブジェクトの高さです。
名前	グラフを判別するための名前です。
背景色	グラフの背景です。
背景色の透明度	グラフの背景色の透明度です。
数値フォーマット	グラフの数値のカンマ区切りの有無と、小数点以下の数値の表示数を指定するかどうかです。
K,M 表示	グラフで使用する値が大きい場合に、K(キロ),M(メガ)で丸めて表示をするかどうかです。
小数点以下	小数点以下の値の数です。
フォントサイズ	グラフに表示される文字の大きさです。
前置文字列	グラフのデータに付ける接頭辞です。(¥ など)
後置文字列	グラフのデータに付ける接尾辞です。(% など)
フォント色	グラフに表示される文字の色です。
最小限界値	ゲージの最小値です。
範囲 1 の色	最小限界値と境界 1 の値の間の色です。
範囲 1 の名前	最小限界値と境界 1 の値の間の名前です。設定した名前で表示されます。
境界 1 の値	1 つ目の閾値の数値です。
範囲 2 の色	境界 1 の値と境界 2 の値の間の色です。
範囲 2 の名前	境界 1 の値と境界 2 の値の間の名前です。設定した名前で表示されます。
境界 2 の値	2 つ目の閾値の数値です。
範囲 3 の色	境界 2 の値と最大限界値の間の色です。
範囲 3 の名前	境界 2 の値と最大限界値の値の間の名前です。設定した名前で表示されます。
最大限界値	ゲージの最大値です。
範囲の名前の表示	範囲の名前の表示の有無です。
左余白	グラフの左部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
右余白	グラフの右部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
上余白	グラフの上部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
下余白	グラフの下部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
下限に表示する文字	最小限界値の数値の代わりに表示するテキストです。
上限に表示する文字	最大限界値の数値の代わりに表示するテキストです。
目盛	目盛の表示の有無です。
大目盛の数	大きい目盛の数です。
大目盛の長さ	大きい目盛の長さです。ピクセル単位で表されます。
小目盛の数	大きい目盛の中に表示される小さい目盛の数です。
小目盛の長さ	小さい目盛の長さです。ピクセル単位で表されます。
大目盛の値表示	大目盛に対する数値の表示の有無です。
限界値表示	最大限界値と最小限界値の表示の有無です。
目盛の小数点以下	目盛に表示する小数点以下の値の数を指定します。
目盛の色	目盛線の色です。
ゲージボーダー	ゲージの周りの境界線の表示の有無です。
ボーダーの色	ゲージの周りの境界線の色です。
ボーダーの太さ	ゲージの周りの境界線の太さです。
ポインターの大きさ	グラフ上部に表示されるポインターのサイズです。
ポインターの色	グラフ上部に表示されるポインターの色です。



- ・ 線ゲージに「キャプション」はありません。コンポーネントの「ラベル」で代用してください。
- ・ 赤字は必須プロパティです。必ず設定してください。

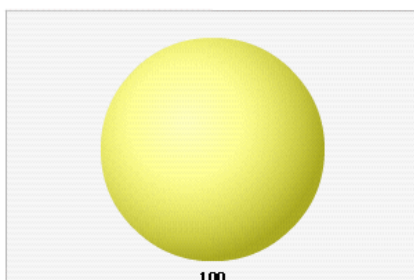
1-18 球体



プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X 座標	x座標です。ページの左上を原点(0)としてピクセル単位で表されます。
Y 座標	y座標です。ページの左上を原点(0)としてピクセル単位で表されます。
幅	グラフオブジェクトの幅です。
高さ	グラフオブジェクトの高さです。
名前	グラフを判別するための名前です。
背景色	グラフの背景です。
背景色の透明度	グラフの背景色の透明度です。
数値フォーマット	グラフの数値のカンマ区切りの有無と、小数点以下の数値の表示数を指定するかどうかです。
K,M 表示	グラフで使用する値が大きい場合に、K(キロ),M(メガ)で丸めて表示するかどうかです。
小数点以下	小数点以下の値の数です。
フォントサイズ	グラフに表示される文字の大きさです。
前置文字列	グラフのデータに付ける接頭辞です。(¥など)
後置文字列	グラフのデータに付ける接尾辞です。(%など)
フォント色	グラフに表示される文字の色です。
最小限界値	ゲージの最小値です。
範囲 1 の色	最小限界値と境界 1 の値の間の色です
境界 1 の値	1 つ目の閾値の数値です。
範囲 2 の色	境界 1 の値と境界 2 の値の間の色です。
境界 2 の値	2 つ目の閾値の数値です。
範囲 3 の色	境界 2 の値と最大限界値の間の色です。
最大限界値	ゲージの最大値です。
左余白	グラフの左部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
右余白	グラフの右部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
上余白	グラフの上部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
下余白	グラフの下部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
球体ボーダー	球体の周囲に境界線を表示するかどうかです。
ボーダーの色	球体の周囲の境界線の色です。
ボーダーの太さ	球体の周囲の境界線の太さです。
3D 表示	3D で表現するかどうかです。
球体の半径	球体の半径の大きさです。

- ・ 球体に「キャプション」はありません。コンポーネントの「ラベル」で代用してください。
- ・ 赤字は必須プロパティです。必ず設定してください。



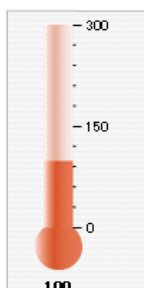
1-19 温度計



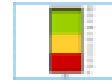
プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X 座標	x座標です。ページの左上を原点(0)としてピクセル単位で表されます。
Y 座標	y座標です。ページの左上を原点(0)としてピクセル単位で表されます。
幅	グラフオブジェクトの幅です。
高さ	グラフオブジェクトの高さです。
名前	グラフを判別するための名前です。
背景色	グラフの背景です。
背景色の透明度	グラフの背景色の透明度です。
数値フォーマット	グラフの数値のカンマ区切りの有無と、小数点以下の数値の表示数を指定するかどうかです。
K,M 表示	グラフで使用する値が大きい場合に、K(キロ),M(メガ)で丸めて表示をするかどうかです。
小数点以下	小数点以下の値の数です。
フォントサイズ	グラフに表示される文字の大きさです。
前置文字列	グラフのデータに付ける接頭辞です。(¥など)
後置文字列	グラフのデータに付ける接尾辞です。(%など)
フォント色	グラフに表示される文字の色です。
最小限界値	温度計の最小値です。
最大限界値	温度計の最大値です。
左余白	グラフの左部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
右余白	グラフの右部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
上余白	グラフの上部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
下余白	グラフの下部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
下限に表示する文字	最小限界値の数値の代わりに表示するテキストです。
上限に表示する文字	最大限界値の数値の代わりに表示するテキストです。
アニメーション表示	アニメーション表示の有無です。
目盛	目盛の表示の有無です。
大目盛の数	大きい目盛の数です。
大目盛の長さ	大きい目盛の長さです。ピクセル単位で表されます。
小目盛の数	大きい目盛の中に表示される小さい目盛の数です。
小目盛の長さ	小さい目盛の長さです。ピクセル単位で表されます。
大目盛の値表示	大目盛に対する数値の表示の有無です。
限界値表示	最大限界値と最小限界値の表示の有無です。
目盛の小数点以下	目盛に表示する小数点以下の値の数を指定します。
目盛の色	目盛線の色です。
ゲージボーダー	ゲージの周りの境界線の表示の有無です。
ボーダーの色	ゲージの周りの境界線の色です。
ボーダーの太さ	ゲージの周りの境界線の太さです。
塗りつぶし色	ゲージの塗りつぶしの色です。
丸い部分半径	温度計の下の丸い部分の半径です。
温度計の高さ	温度計の高さです。

- ・ 温度計に「キャプション」はありません。コンポーネントの「ラベル」で代用してください。

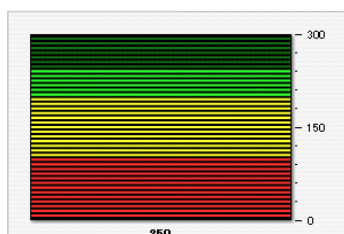


1-20 LED (縦)



プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X 座標	x座標です。ページの左上を原点(0)としてピクセル単位で表されます。
Y 座標	y座標です。ページの左上を原点(0)としてピクセル単位で表されます。
幅	グラフオブジェクトの幅です。
高さ	グラフオブジェクトの高さです。
名前	グラフを判別するための名前です。
背景色	グラフの背景です。
背景色の透明度	グラフの背景色の透明度です。
数値フォーマット	グラフの数値のカンマ区切りの有無と、小数点以下の数値の表示数を指定するかどうかです。
K,M 表示	グラフで使用する値が大きい場合に、K(キロ),M(メガ)で丸めて表示をするかどうかです。
小数点以下	小数点以下の値の数です。
フォントサイズ	グラフに表示される文字の大きさです。
前置文字列	グラフのデータに付ける接頭辞です。(¥など)
後置文字列	グラフのデータに付ける接尾辞です。(%など)
フォント色	グラフに表示される文字の色です。
最小限界値	ゲージの最小値です。
範囲 1 の色	最小限界値と境界 1 の値の間の色です。
境界 1 の値	1 つ目の閾値の数値です。
範囲 2 の色	境界 1 の値と境界 2 の値の間の色です。
境界 2 の値	2 つ目の閾値の数値です。
範囲 3 の色	境界 2 の値と最大限界値の間の色です。
最大限界値	ゲージの最大値です。
左余白	グラフの左部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
右余白	グラフの右部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
上余白	グラフの上部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
下余白	グラフの下部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
下限に表示する文字	最小限界値の数値の代わりに表示するテキストです。
上限に表示する文字	最大限界値の数値の代わりに表示するテキストです。
目盛	目盛の表示の有無です。
大目盛の数	大きい目盛の数です。
大目盛の長さ	大きい目盛の長さです。ピクセル単位で表されます。
小目盛の数	大きい目盛の中に表示される小さい目盛の数です。
小目盛の長さ	小さい目盛の長さです。ピクセル単位で表されます。
大目盛の値表示	大目盛に対する数値の表示の有無です。
限界値表示	最大限界値と最小限界値の表示の有無です。
目盛の小数点以下	目盛に表示する小数点以下の値の数を指定します。
目盛の色	目盛線の色です。
ゲージボーダー	ゲージの周りの境界線の表示の有無です。
ボーダーの色	ゲージの周りの境界線の色です。
ボーダーの太さ	ゲージの周りの境界線の太さです。
LED 背景色	LED の背景色です。
LED バー間隔	LED のバーの表示間隔です。
LED バーの大きさ	LED のバーの太さです。



LED (縦) のプロパティは LED (横) と同じです。

- ・ LED (縦) に「キャプション」はありません。コンポーネントの「ラベル」で代用してください。
- ・ 赤字は必須プロパティです。必ず設定してください。

1-21 LED (横)

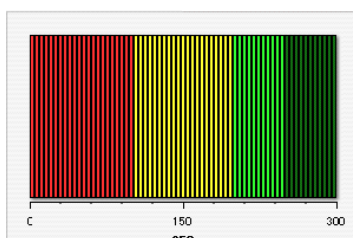


プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X座標	x座標です。ページの左上を原点(0)としてピクセル単位で表されます。
Y座標	y座標です。ページの左上を原点(0)としてピクセル単位で表されます。
幅	グラフオブジェクトの幅です。
高さ	グラフオブジェクトの高さです。
名前	グラフを判別するための名前です。
背景色	グラフの背景です。
背景色の透明度	グラフの背景色の透明度です。
数値フォーマット	グラフの数値のカンマ区切りの有無と、小数点以下の数値の表示数を指定するかどうかです。
K,M表示	グラフで使用する値が大きい場合に、K(キロ),M(メガ)で丸めて表示をするかどうかです。
小数点以下	小数点以下の値の数です。
フォントサイズ	グラフに表示される文字の大きさです。
前置文字列	グラフのデータに付ける接頭辞です。(¥など)
後置文字列	グラフのデータに付ける接尾辞です。(%など)
フォント色	グラフに表示される文字の色です。
最小限界値	ゲージの最小値です。
範囲1の色	最小限界値と境界1の値の間の色です。
境界1の値	1つ目の閾値の数値です。
範囲2の色	境界1の値と境界2の値の間の色です。
境界2の値	2つ目の閾値の数値です。
範囲3の色	境界2の値と最大限界値の間の色です。
最大限界値	ゲージの最大値です。
左余白	グラフの左部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
右余白	グラフの右部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
上余白	グラフの上部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
下余白	グラフの下部分の余白です。ピクセル単位で表されます。
下限に表示する文字	最小限界値の数値の代わりに表示するテキストです。
上限に表示する文字	最大限界値の数値の代わりに表示するテキストです。
目盛	目盛の表示の有無です。
大目盛の数	大きい目盛の数です。
大目盛の長さ	大きい目盛の長さです。ピクセル単位で表されます。
小目盛の数	大きい目盛の中に表示される小さい目盛の数です。
小目盛の長さ	小さい目盛の長さです。ピクセル単位で表されます。
大目盛の値表示	大目盛に対する数値の表示の有無です。
限界値表示	最大限界値と最小限界値の表示の有無です。
目盛の小数点以下	目盛に表示する小数点以下の値の数を指定します。
目盛の色	目盛線の色です。
ゲージボーダー	ゲージの周りの境界線の表示の有無です。
ボーダーの色	ゲージの周りの境界線の色です。
ボーダーの太さ	ゲージの周りの境界線の太さです。
LED背景色	LEDの背景色です。
LEDバー間隔	LEDのバーの表示間隔です。
LEDバーの大きさ	LEDのバーの太さです。

LED (横) のプロパティはLED (縦) と同じです。

- ・ LED (横) に「キャプション」はありません。コンポーネントの「ラベル」で代用してください。
- ・ 赤字は必須プロパティです。必ず設定してください。



2 コンポーネントのプロパティ

この章では、各コンポーネントの機能とプロパティの詳細について説明します。

コンポーネントのプロパティは、プロパティウィンドウで設定します。

コンポーネントのプロパティウィンドウには、ボタンが 1 つ配置されています（テキストインプット、スクエアを除く）。

配置されているボタンは、コンポーネントによって異なります。

- ・ [機能設定] ボタン

グラフのデータを更新したり、リンクを設定するためのボタンです。

ラジオボタン、コンボボックス、ボタンのプロパティウィンドウに配置されています。

- ・ [リンク設定] ボタン

リンクを設定するためのボタンです。

ラベル、チェックボックスのプロパティウィンドウに配置されています。

- ・ [テキスト設定] ボタン

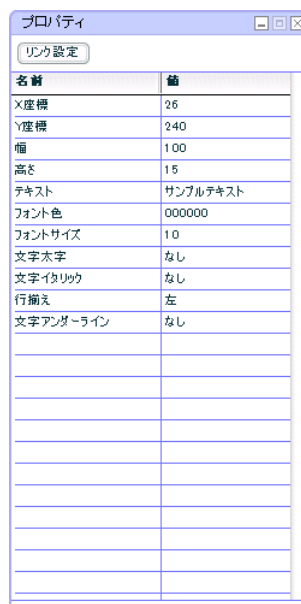
テキストエリアに表示するテキストを設定するためのボタンです。

テキストエリアのプロパティウィンドウに配置されています。

- ・ [データ設定] ボタン

表にデータをバインドするためのボタンです。

表のプロパティウィンドウに配置されています。



「ラベル」のプロパティウィンドウ

プロパティの設定については、『第 1 章 4-4 プロパティの設定』を参照してください。

2-1 ラベル

A Label サンプルテキスト

キャンバス上にテキストを配置します。

プロパティ [テキスト] に入力したテキストが表示されます。

リンクの場合

- ・ [リンク設定] ダイアログで、ラベルがクリックされた場合のリンク先の照会定義またはダッシュボード定義を指定します。
- ・ 本製品実行時にラベルに設定したテキストをクリックすると、リンク先の照会定義、またはダッシュボード定義が表示されます。
- ・ リンク先の照会定義に @INPUT(@GET()) を使用した検索条件が設定されている場合は、[リンク設定] ダイアログで、@INPUT(@GET()) で指定した変数名を [プロパティ名]、検索したい値を [値] に設定すると、リンク先の定義が検索された状態で表示されます。

プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X 座標	x座標です。キャンバスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
Y 座標	y座標です。キャンバスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
幅	コンポーネントオブジェクトの幅です。
高さ	コンポーネントオブジェクトの高さです。
テキスト	ラベルに表示される文字列です。
フォント色	ラベルに表示されるテキストの色です。
フォントサイズ	ラベルに表示されるテキストの大きさです。
文字太字	太字の有無です。
文字イタリック	斜体の有無です。
行揃え	右揃え、左揃え、中央揃えです。
文字アンダーライン	下線の有無です。

- ・ 赤字は必須プロパティです。必ず設定してください。

2-2 チェックボックス

CheckBox サンプルラベル

キャンバス上にチェックボックスを配置します。

チェックボックスはボタンと組み合わせて使用します。

ダッシュボードエディタ上ではチェックマークは付けられませんが、本製品上で実行した際に、チェックマークを付け、外すことができます。また、[選択状態] プロパティを [あり] に設定すると、チェックマークを付けた状態で実行されます。

データ更新の場合

- ・ チェックボックスは、本製品リンク機能の一部を使用しています。@INPUT(@GET())を使用した照会定義がバインドされたグラフがないと、配置しても機能しません。
- ・ @INPUT(@GET())で設定した名前を [プロパティ名]、検索したい値を [値] に入力します。
- ・ 本製品実行時にチェックマークを付け、ボタンをクリックすると、本製品サーバーに、「プロパティ名」と「値」が送信され、値で検索した結果がグラフに表示されます。
- ・ 本製品実行時にチェックマークを付けずにボタンをクリックすると、照会定義に指定した検索条件を無視した状態でグラフが更新されます。

リンクの場合

- ・ [リンク設定] ダイアログで、チェックマークを付けた場合のリンク先と、チェックマークを付けない場合のリンク先の照会定義またはダッシュボード定義を指定します。
- ・ チェックボックスを判別するための名前を [プロパティ名] に入力します。
- ・ 本製品実行時にチェックマークを付け、ボタンをクリックすると、チェックボックスが「オン」のときのリンク先の照会定義、またはダッシュボード定義が表示されます。
- ・ 本製品実行時にチェックマークを付けずに、ボタンをクリックすると、チェックボックスが「オフ」のときのリンク先の照会定義、またはダッシュボード定義が表示されます。
- ・ リンク先の照会定義に @INPUT(@GET()) を使用した検索条件が設定されている場合は、@INPUT(@GET()) で指定した変数名を [プロパティ名]、検索したい値を [値] に設定すると、リンク先の定義が検索された状態で表示されます。

プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X 座標	x座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
Y 座標	y座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
幅	コンポーネントオブジェクトの幅です。
高さ	コンポーネントオブジェクトの高さです。
タブインデックス	< Tab > キーでコンポーネントのフォーカスを移動する順序です。
ラベル	チェックボックスに表示されるテキストです。
フォント色	チェックボックスに表示されるテキストの色です。
選択状態	本製品上で実行する時に、初期状態で、チェックボックスにチェックマークが付いているかの有無です。
フォントサイズ	チェックボックスに表示されるテキストの大きさです。
文字太字	太字の有無です。
文字イタリック	斜体の有無です。
文字アンダーライン	下線の有無です。
プロパティ名	使用する照会定義の、@INPUT(@GET())で指定した変数名を設定します。リンクの場合、リンク先の定義に検索条件が設定されていないときは、チェックボックスを判別するための任意の名前を設定します。
値	検索する値です。

- ・ 赤字は必須プロパティです。必ず設定してください。

2-3 ラジオボタン

RadioButton サンプルラベル

キャンバス上にラジオボタンを配置します。

ラジオボタンは2つ以上配置し、ボタンと組み合わせて使用します。

ラジオボタンには「自動で更新」または「自動リンク」の機能を設定することができます。この機能を設定した場合は、ボタンがなくても、ラジオボタンが選択されたときに、データの更新またはリンクが行われます。

ダッシュボードエディタ上では選択できませんが、本製品上で実行した際に、ラジオボタンを選択することができます。また、プロパティで[選択状態]を[あり]にすると、そのラジオボタンが選択された状態で実行することができます。

共通の「プロパティ名」を設定することで、ラジオボタンは1つのラジオグループとなり、その中で1つしか選択できなくなります。

データ更新の場合

- ・ ラジオボタンは、本製品のリンク機能の一部を使用しています。@INPUT(@GET())を使用した照会定義がバインドされたグラフがないと、配置しても機能しません。
- ・ @INPUT(@GET())で指定した変数名を[プロパティ名]、検索したい値を[値]に入力します。
- ・ 本製品の実行時にラジオボタンを1つ選択し、ボタンをクリックすると、本製品のサーバーに、「プロパティ名」と「値」が送信され、値で検索した結果がグラフに表示されます。選択されていないラジオボタンのデータは送信されません。ただし、「自動で更新」が設定されている場合はボタンのクリックは不要です。
- ・ 本製品の実行時に1つも選択せずにボタンをクリックすると、照会定義に指定した検索条件を無視した状態でグラフが更新されます。

リンクの場合

- ・ [機能設定]ダイアログで、ラジオボタンが選択されたときのリンク先の照会定義またはダッシュボード定義を指定します。
- ・ ラジオグループを判別するための名前を[プロパティ名]に入力します。
- ・ 本製品の実行時にラジオボタンを1つ選択し、ボタンをクリックすると、リンク先の照会定義、またはダッシュボード定義が表示されます。
- ・ リンク先の照会定義に@INPUT(@GET())を使用した検索条件が設定されている場合は、@INPUT(@GET())で指定した変数名を[プロパティ名]、検索したい値を[値]に入力すると、ラジオボタンが選択されたときに、リンク先の定義が検索された状態で表示されます。

プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X座標	x座標です。キャンバスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
Y座標	y座標です。キャンバスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
幅	コンポーネントオブジェクトの幅です。
高さ	コンポーネントオブジェクトの高さです。
タブインデックス	< Tab > キーでコンポーネントのフォーカスを移動する順序です。
ラベル	ラジオボタンに表示されるテキストです。
フォント色	ラジオボタンに表示されるテキストの色です。
フォントサイズ	ラジオボタンに表示されるテキストの大きさです。
文字太字	太字の有無です。
文字イタリック	斜体の有無です。
文字アンダーライン	下線の有無です。
プロパティ名	使用する照会定義の、@INPUT(@GET())で指定した変数名を設定します。リンクの場合、リンク先の定義に検索条件が設定されていないときは、ラジオグループを判別するための任意の名前を設定します。
値	検索する値です。
選択状態	本製品上で実行する時に、初期状態で、そのラジオボタンが選択されているかの有無です。

- ・ 赤字は必須プロパティです。必ず設定してください。
- ・ [選択状態] は、同じプロパティ名をもつラジオボタンの中で、1つだけ「あり」に設定してください。

2-4 コンボボックス



キャンバス上にコンボボックスを配置します。

コンボボックスはボタンと組み合わせて使用します。

コンボボックスには「自動で更新」または「自動リンク」の機能を設定することができます。この機能を設定した場合は、ボタンがなくても、コンボボックスで値が選択されたときに、データの更新またはリンクが行われます。

ダッシュボードエディタ上では選択できませんが、本製品上で実行した際に、コンボボックスの[] ボタンをクリックしてドロップダウンリストから値を1つ選択することができます。

データ更新の場合

- ・ コンボボックスは、本製品のリンク機能の一部を使用しています。@INPUT(@GET())を使用した照会定義がバインドされたグラフがないと、配置しても機能しません。
- ・ [機能設定] ダイアログで@INPUT(@GET())で指定した変数名を [プロパティ名] に、ドロップダウンリストの表示名を [表示名] に、それに対応する検索値を [値] に入力します。
- ・ 本製品の実行時にコンボボックスで値を1つ選択し、ボタンをクリックすると、本製品のサーバーに、「プロパティ名」と「値」が送信され、値で検索をした結果がグラフに表示されます。

リンクの場合

- ・ [機能設定] ダイアログで、ドロップダウンリストの表示名を [表示名] に、表示名に対応するリンク先の照会定義、またはダッシュボード定義を [リンク先] に入力します。
- ・ コンボボックスを判別するための名前を [プロパティ名] に入力します。
- ・ 本製品実行時にコンボボックスで値を1つ選択し、ボタンをクリックすると、リンク先の照会定義、またはダッシュボード定義が表示されます。

プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X座標	x座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
Y座標	y座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
幅	コンポーネントオブジェクトの幅です。
高さ	コンポーネントオブジェクトの高さです。
タブインデックス	<Tab>キーでコンポーネントのフォーカスを移動する順序です。
フォント色	コンボボックスに表示されるテキストの色です。
フォントサイズ	コンボボックスに表示されるテキストの大きさです。
文字太字	太字の有無です。
文字イタリック	斜体の有無です。
文字アンダーライン	下線の有無です。
表示最大行数	コンボボックスに表示する最大の行数です。
プロパティ名	使用する照会定義の、@INPUT(@GET())で指定した変数名を設定します。 リンクの場合は、コンボボックスを判別するための任意の名前を設定します。

- ・ 赤字は必須プロパティです。必ず設定してください。

2-5 ボタン

本製品サーバーにデータを送信するためのボタンです。

チェックボックス、ラジオボタン、コンボボックス、テキストインプットを配置する際には、ボタンを配置してください。

ただし、ラジオボタン、コンボボックスで「自動で更新」または「自動リンク」の機能を設定した場合は、ボタンの配置は必ずしも必要ではありません。

データ更新の場合

- ・ チェックボックス、ラジオボタン、コンボボックス、テキストインプットの [プロパティ名] と [値] によってグラフを更新します。
- ・ ボタンに自動更新のタイマー機能を設定することができます。この機能を設定すると、本製品で実行したときに指定した時間間隔で、自動的にグラフのデータが更新されます。


リンクの場合

- ・ ボタンのみ、またはテキストインプットと組み合わせて使用する場合は、[機能設定] ダイアログで、リンク先の照会定義、またはダッシュボード定義を [リンク先] に入力します。
- ・ チェックボックス、ラジオボタン、コンボボックスと組み合わせて使う場合は、[機能設定] ダイアログで、組み合わせて使用するコンポーネントの [プロパティ名] を指定します。

プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X 座標	x座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
Y 座標	y 座標です。キャンパスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
幅	コンポーネントオブジェクトの幅です。
高さ	コンポーネントオブジェクトの高さです。
タブインデックス	< Tab > キーでコンポーネントのフォーカスを移動する順序です。
ラベル	ボタンに表示されるテキストです。
フォント色	ボタンに表示されるテキストの色です。
フォントサイズ	ボタンに表示されるテキストの大きさです。
文字太字	太字の有無です。
文字イタリック	斜体の有無です。
文字アンダーライン	下線の有無です。
表示	ボタンの表示の有無です。

2-6 テキストインプット

 TextInput

サンプルテキスト

キャンバス上にテキストインプットを配置します。

テキストインプットはボタンと組み合わせて使用します。

ダッシュボードエディタ上では値は入力できませんが、本製品上で実行した際に、テキストインプットに値を入力できます。

データ更新の場合

- ・ テキストインプットは、本製品のリンク機能の一部を使用しています。@INPUT(@GET())を使用した照会定義がバインドされたグラフがないと、配置しても機能しません。
- ・ @INPUT(@GET())で指定した変数名を [プロパティ名] に入力します。
- ・ 本製品実行時にテキストインプットに値を入力し、ボタンをクリックすると、本製品のサーバーに、「プロパティ名」と「値」が送信され、値で検索をした結果がグラフに表示されます。

リンクの場合

- ・ テキストインプットは、本製品のリンク機能の一部を使用しています。リンク先の照会定義の検索条件に@INPUT(@GET())がないと、配置しても機能しません。
- ・ [機能設定] ダイアログで、ボタンにリンク先の照会定義またはダッシュボード定義を指定します。
- ・ @INPUT(@GET())で設定した名前を [プロパティ名] に入力します。
- ・ 本製品実行時にテキストインプットに「値」を入力し、ボタンをクリックすると、本製品のサーバーに、「プロパティ名」と「値」が送信され、リンク先の定義が検索された状態が表示されます。

プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X 座標	x座標です。キャンバスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
Y 座標	y座標です。キャンバスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
幅	コンポーネントオブジェクトの幅です。
高さ	コンポーネントオブジェクトの高さです。
タブインデックス	<Tab> キーでコンポーネントのフォーカスを移動する順序です。
フォント色	テキストインプットに表示されるテキストの色です。
フォントサイズ	テキストインプットに表示されるテキストの大きさです。
文字列制限数	テキストインプットに入力できるテキストの文字数です。
入力可能文字	テキストインプットに入力できるテキストの種類です。
プロパティ名	使用する照会定義の@INPUT(@GET())で指定した変数名を設定します。
初期値	テキストインプットに最初に表示するテキストです。 WebReport の関数 (@NOW, @USER) を使用することができます。
入力値チェック	テキストインプットに入力したテキストのチェック処理を設定します。 詳細については、『第 3 章 5 入力値チェック』を参照してください。

- ・ 赤字は必須プロパティです。必ず設定してください。

2-7 スクエア



キャンバス上に四角形を配置します。中塗りをするかどうかなども選択できます。

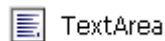
グラフの区切りや全体の見栄えを整えたいときに利用します。



プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X 座標	x座標です。キャンバスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
Y 座標	y座標です。キャンバスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
幅	コンポーネントオブジェクトの幅です。
高さ	コンポーネントオブジェクトの高さです。
線の太さ	線の太さです。
線の色	線の色です。
中塗り	四角の中を塗りつぶします。
中塗りの色	塗りつぶす色です。

2-8 テキストエリア

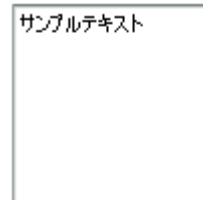


キャンバス上にテキストエリアを配置します。

ダッシュボード上にコメントなどを配置したいときに利用します。

テキストエリア内にスクロールバーを付けて表示できます。

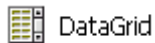
テキストエリアに表示するテキストは、プロパティウィンドウの [テキスト設定] ボタンをクリックすると表示される [テキスト設定] ダイアログで設定します。



プロパティ一覧

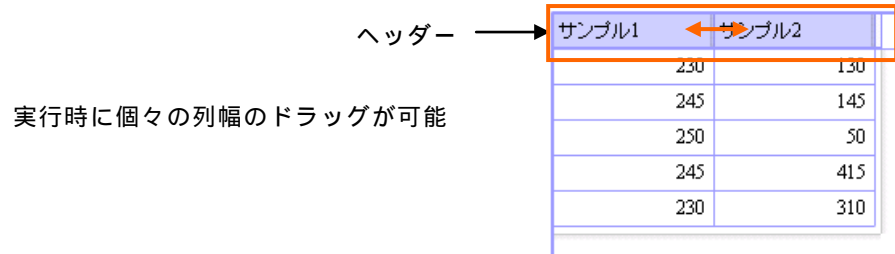
プロパティ名	説明
X 座標	x座標です。キャンバスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
Y 座標	y座標です。キャンバスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
幅	コンポーネントオブジェクトの幅です。
高さ	コンポーネントオブジェクトの高さです。
フォント色	テキストエリアに表示されるテキストの色です。
背景色	テキストエリアの背景の色です。
フォントサイズ	テキストエリアに表示されるテキストの大きさです。
文字太字	太字の有無です。
文字イタリック	斜体の有無です。
行揃え	右揃え、左揃え、中央揃えです。
文字アンダーライン	下線の有無です。
水平スクロールバー	水平方向のスクロールバーの表示の有無です。「自動」を設定すると、テキストの量に応じてスクロールバーが表示されます。
垂直スクロールバー	垂直方向のスクロールバーの表示の有無です。「自動」を設定すると、テキストの量に応じてスクロールバーが表示されます。
テキスト折り返し	テキストを折り返して表示するかどうかです。

2-9 表



キャンバス上に表を配置します。

ダッシュボードエディタに配置されているグラフにバインドされているデータを表示したり、表にデータをバインドしたりすることができます。



プロパティ一覧

プロパティ名	説明
X 座標	x座標です。キャンバスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
Y 座標	y座標です。キャンバスの左上を原点(0)としてピクセル単位で表示されます。
幅	コンポーネントオブジェクトの幅です。
高さ	コンポーネントオブジェクトの高さです。
列幅	表の列の幅です。ピクセル単位で表示されます。
行高さ	表の行の高さです。ピクセル単位で表示されます。
ヘッダー高さ	表のヘッダー部分の高さです。ピクセル単位で表示されます。
配色	表の線やセルの色のセットです。
フォント色	表に表示されるテキストの色です。
フォントサイズ	表に表示されるテキストの大きさです。
文字太字	太字の有無です。
文字イタリック	斜体の有無です。
ヘッダーフォント色	ヘッダー(見出し列)に表示されるテキストの色です。
ヘッダーフォントサイズ	ヘッダー(見出し列)に表示されるテキストの大きさです。
ヘッダー文字太字	ヘッダー(見出し列)に表示されるテキストの太字の有無です。
ヘッダー文字イタリック	ヘッダー(見出し列)に表示されるテキストの斜体の有無です。
水平スクロールバー	水平方向のスクロールバーの表示の有無です。
垂直スクロールバー	垂直方向のスクロールバーの表示の有無です。

WebReport2.0 ダッシュボードエディタガイド

2006年12月10日 第1版発行
2019年03月29日 第12版発行

発行 JB アドバンスト・テクノロジー株式会社

お問い合わせ 弊社ホームページより、お問い合わせください。
<https://www.jbat.co.jp/>

本書は著作権上の保護を受けており、本書の全部あるいは一部に関して、JB アドバンスト・テクノロジー株式会社からの文書による許諾を得ず、無断で転写、複製することは禁じられています。また、本書はユーザーへ通知することなく変更される場合があります。

